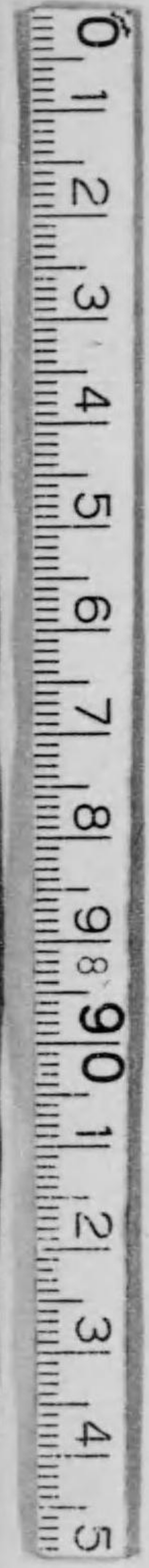


14.6,_八
220



始



ト工3M-84

14.6.
220

大正十五年三月

京都市内、腸チフス流行主因調査書

京都府衛生課

敘



制度文物ノ整備進展、駭々底止スルコトナク大都市ノ發達亦之ニ
 伴隨シ戸數人口ノ増加、産業ノ振興、衛生施設ノ改善等、舊套ヲ革
 ノ日ニ隆昌ニ向ヒツ、アルハ維新後我が國狀ノ一斑ニシテ國民
 ノ侷シク喜ブ所ナルモ時ニ諸多災禍ノ爲メ發達ヲ阻碍セラレ
 コトアルハ洵ニ遺憾トスル所タリ我が京都市ノ如キ歴代皇居ノ
 所在地トシテ將々山水ノ秀麗、名勝古蹟ノ豊富並ニ織物京染ヲ始
 メ卓越セル工藝品ノ産出等他ノ追隨ヲ容ザルモノアリ向後世界
 的大都市トシテ重キヲ爲スニ至ルヘキハ豫見ニ難カラス當局ハ

正 民
 大、
 15. 6. 24
 内 交

二
勿論衆庶一致奮勵ヲ要スル秋ニ當リ震火兵燹以外本市ノ發達上
一勁敵トシテ惧ルヘキハ比年猖獗ヲ極メツ、アル腸チフス患者
ノ發生是ナリ本病ガ市民ノ生命財産ニ對シ絶エス脅威ヲ逞フセ
ル事蹟ハ大正十二年發行セル衛生調査書ヲ一讀セラレタル各位
ノ首肯セラル、所ナリト信ス之ガ對策ニ關シテハ最善ノ方法ヲ
講シ着々實行中ナルモ今尙目的貫徹ニ至ラサルハ主トシテ根柢
勦滅ノ主旨實現セザルニ由ルモノ、如シ今回上梓發刊セムトス
ル市内腸チフス流行主因調査書ハ實ニ之ガ撲滅ヲ實現セシメム
トスル活資料ニ外ナラス本書ノ内容ハ爰ニ贅セザルモ(一)衛生上
ノ或ル不良狀態ガ實在シ且ツ今後ニ持續スヘク(二)當該不良狀態

ノ改善ハ當局ノ施措ニ依ルノ外市民各位ノ自覺援助ニ俟ツ所極
メテ喫緊ナルモノアリ此ノ二點ハ明カニ既刊統計ノ核心タル患
死者ヲ表示セル數字ガ過去ノ事蹟ヲ語ルモノニ比シ全然趣キチ
異ニセリ過去ノ事蹟ニ關スル記録ハ照顧參覈上貴重ノ資料ナル
モ現在及今後ニ持續スヘキ不良狀態ニ比スレバ其ノ影響ノ懸隔
至大ナル同日ノ談ニアラズ且ツ不良狀態ノ一部ニアリテハ改善
方法ノ實施ニヨリ小康ヲ保ツヘキモ所謂飲食衽席ノ間ニ於ケル
虧隙並ニ病菌ノ繁殖ニ適セル井戸、厠園、溝渠、汚水等ニ關聯セル關
陷ノ排除等因襲ノ久シキ一朝ニシテ根本的改善至難ノモノ尠シ
トセズ府當局ハ本市百年ノ大計ニ鑑ミ本調査書ヲ筌蹄トシ病毒

ノ勤滅ヲ確實ニシ發達ノ障碍ヲ芟除スルハ勿論今後益々衛生状態ノ向上發達及本市ノ繁榮ヲ期セムトス今也本調査書發刊ニ際シ聊カ主旨ヲ一言シ敍文トス

大正十五年三月 日

京都府衛生課長

凡 例

- 一 本調査ノ區域ハ京都市内八警察署ノ管轄ニ係リ區域毎ニ記事ノ外畧圖ヲ添附シ明確ヲ期セリ
- 二 調査ノ内容ハ多岐ニ亘レルモ主ナルモノハ土地ノ燥濕傾斜、河川丘阜ノ位置名稱、溝渠細流、井水、井戸、汚水、汚物、廁園、蔬菜洗場、吸込、流シ元、塵埃溜場等ニ關スル衛生上ノ現況並ニ腸チフス發生ノ狀況、原因、現住人口トノ關係ヲ實地ニ踏査視察シ又ハ記錄ニヨリ調査セシ記事ニシテ既刊衛生ニ關スル報告中、類例極メテ稀ナリ
- 三 調査ハ技術官數名ノ手ニヨリ行ハレタル爲メ項目、用語措辭等一致セザルモノアルモ眞髓ニ於テハ概觸スル點ナシ
- 四 甲乙兩區ニ跨リ貫通セル細流溝渠ニシテ兩區域ノ流域共泥土汚水ノ堆積又ハ汎濫セル場合ハ兩流域共双記スルヲ例トス此ノ場合一見重複ノ嫌アルモ各汚水泥土ノ排出源ヲ異ニスルニ付重複セザルモノトス小溝ニ付テモ亦本例ニ同シ
- 五 末尾ニ附記セル調査者ノ意見ニ對シテハ既ニ施措濟ノモノ又ハ着手或ハ計畫中ノモノアルモ之ガ結果ハ目下公表ノ機ニ達セズ
- 六 本書ト既刊衛生調査書一、二、各篇ハ姉妹篇トシテ緊密ノ關係ヲ有スルニ付本書閱覽前該各篇ノ編

閱ヲ望ム

蔬菜洗場ニ關スル府令ニ付テモ亦參照セラレタシ

七 官公衙ノ公文、案牘ノ類ニシテ公刊サル、場合ノ形式ニ關シテハ一様ナラザルガ如キモ本書ハ前防疫官紀本參次郎氏編著衛生法規ノ例ニ倣ヒ調査者及宛名、年月日等細書スルノ外總ベテ原文ノ儘全部掲載スルコトトセリ

八 印刷上魯魚ノ謬ナキヲ保セズ幸ニ閱者ノ是正ト諒恕ヲ庶フ

編 者 識

目 次

一 下鴨警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	八	一
二 下鴨一圓チフスニ關スル流行復命書、同建議書	至自	三九	二
三 松原警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	四三	三
四 西陣警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	四三	四
五 堀川警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	七九	五
六 七條警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	七九	六
七 五條警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	二九	七
八 中立賣警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	五三	八
九 川端警察署管内、腸チフス流行主因調査復命	至自	七九	九
一〇 腸チフス流行主因調査索引	至自	九三	一〇
一一 京都市及近郊ノ一部水質調査報告書及關係表、圖面	別表		
一二 蔬菜洗場ニ關スル京都府令		二二	一一

○下鴨署管内(市部)

(大正十三年二月五日 京都府知事宛 調査者幸野防疫醫)

復命

當部内ハ京都市北方ノ一部ト愛宕郡全部トヨリ成リ市部ニ屬スル部ノチフス患者發生ニ付調査ヲ爲スニ及ビ先ツ參考トシテ全部ノ人口及ヒ患者數ヲ舉ク



大正十一年		大正十二年	
戸數	人口	戸數	人口
七九二八	四三、二四三	一〇、四三三	五四、四四八
チフス患者數		バラチフス患者數	
一三三	二〇	五	一四
八二	一九	九	三八
二八	二四	三	五九
三三	同	同	同
死亡	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同

市部ニ屬スル地形ノ概畧

當市部地形ハ東西ニ長ク別圖ノ如ク蝶翅形ヲ爲シ東北西ノ三方ハ地質高ク大別シテ(北白川)(高野及田中)(下鴨)(小山及紫野)ノ四トス、北白川ハ東端ニ在リテ南ヨリ疏水貫通シ土地高燥ニシテ東西ニ通スル街道ニ添フノ外民家密集セス流水ハ豊富ニ流レ急ナリ當地ハ石工業多ク婦女ハ大部分花賣行商ニシテ農商學生等又居ヲ專ス、高野及田中ハ殆ド新開地ニシテ牧畜業及工場大部分ヲ占ム農商是レニ次キ南北ニ數條ノ流水溝アリテ土地一般ニ不潔牧場ノ塵埃及蠅、流水ノ汚穢尤モ目立テリ、下鴨ハ地體鴨川及高野川ノ爲メ形ヲ爲シ大部分新開地ニシテ官吏會社員農業學生日雇業等多ク居住シ南北ニ數條ノ清流溝アリテ大ナル神森ヲ包圍シ土地清潔ナリ、小山及紫野ハ下鴨ノ西北ニ在ル新市街ニシテ土地稍ヤ高キニ屬スルモ堀川其他流水溝ニ添フ、地體低ク西ニ船岡大徳寺今宮ノ社寺森林ノ爲メ常ニ掩ハレ鬱蒼濕地ナリ織職大部分ヲ爲シ農商是レニ次キ一般生計中等以下ニ屬スル者ノ如シ

市部ニ屬スル

大正十一年末	戸	數	三、九二六	人	二一、三五六
大正十二年末	戸	數	六、二七八	人	三二、五五三

但十二年末ノ著ク増加ヲ示セルハ新開地ニ戸數増加スルト十二年四月來川端部内ニアリシ上柳町外五ヶ町ノ編入トニ依ル

大正十二年市部腸チフス患者數

二二五	内	自宅發生	一七五	死亡	三七
		病院決定	五〇		

自十二年十一月一日チフス患者數
至十三年一月三十一日

下鴨	北白川部内	七
同	高野田中部内	一〇
同	下鴨部内	一五
同	紫野部内	七

大正十二年十一月以來ノ發生及前後ノ狀況

北白川部内ノ發生ハ大學助手岡〇〇外六名ニシテ一家三名ノ家族傳染他ハ流水關係及交通井水共用等ニシテ當地方ハ從前患者ノ發生殆ンド聞カサルモ近年交通頻繁家屋増設等大ニ其ノ因ヲ爲ス者ノ如シ
高野及田中部内ノ發生ハ女工大〇〇外九名ニシテ鐘紡寄宿社宅ノ家族的傳染四人上柳町大堰町ノ學生職工何レモ交通關係井水共用等ニシテ尤モ當所ハ十一年十二月大流行シ次テ絶エズ散在的ニ發生シ十二年六月七月ニ涉リ二千三百餘人ノ豫防注射ヲ施行セシモ一部ニ過ギズシテ充分ノ効ヲ奏セザルモ爾來著

ク該病ノ發生減少目下ノ發生ハ未接種者ニテ同地ハ井水ノ共用多ク流水野菜ノ媒介及下水井戸ノ構造不完全土地一般不潔等大ニ其ノ因ヲ爲ス

下鴨部内ハ農業山〇〇外十四名ニシテ同家ニ藤〇〇ナル者九月同病ニ罹リ一家三名ヲ出シテ下河原町松ノ木町宮崎町西林町等ノ患者ヲ出ス同地ハ清流豊富ニシテ農家多ク野菜行商専ラニシテ野菜及食器ヲ河水ニテ洗滌シ殊ニ藤〇〇ハ流水溝ノ上流ニシテ川筋ノ下ニ向ヒ漸次發生セシ者ノ如シ宮川町農業宮〇〇方八月八日以來一家五名發生シ同町農中〇〇方一家三名發生何レモ皆家族傳染ニシテ最初ノ患者門前ノ流水使用宮〇〇ノ如キハ流水飲用セシ後發病セルハ著明ニシテ次テ家族ニ傳播セリ要スルニ八九月以前ハ患者殆ド無カリシモ以來續々發生スルハ尿尿ヨリ來ル流水野菜ノ關係多大ナル者ノ如シ

紫野部内ハ織職近〇〇外六名ナルモ逆上ツテ昨年十一月以前二月ニ師範學校二十一名六月京都織物會社二十四名發生シ六月河水ノ上流ナル西加茂村水車業ニ二名發生シ師範學校及織物會社ハ其際流行地帶トモ云フ修學院一乗寺ヨリ野菜及新漬物搬入食用ニ供シタルニ依ルト云フ其ノ以來九月ニ至リ東南町農片〇〇〇方ニ二名發生次テ下流ニ添フ西南町門前町雲林院町御所田町ニ及ホシ終ニ宮西町ニ多數ノ患者ヲ出セリ宮西町ハ堀川下流ニ添ヒ楕圓形ノ露路ニシテ何レモ織職共同井戸ニテ八戸順次十四名ヲ出セシコトアリテ十一月以來七名ノ患者モ夫レ等ニ引續キ散在性ニ發生セリ要スルニ流水ノ川上ニ發生シ逐次或ハ同時下流ニ添フ場所ニ發生スル等は又野菜食器洗濯等ノ流水ヲ汚セシ者及井水共用下水不完全或ハ交通直接傳染等尤モ力アリトス

目下一局部ニ扁集の發生セサルモ昨年ハ別圖ノ如ク同一場所ニ多數發生セルコトアリテ夫レ等ノ病毒遺留散在的續發セル者ニ非サルカトモ又想像セラル尙以上四部落ニ對スル最初ノ發生病毒何レヨリ來タリシ者カ不明ニ屬スルモ恐ラク上流ノ村落ヨリ毒菌流水ニ導カレシカ又尿尿搬入野菜ヲ經テ流水ニ混入セシ者使用セシヨリ來リシカ雙方大ニ力アル者ノ如シ

要スルニ當地ニ腸チフスノ發生スルハ修學院、松ヶ崎、中加茂、大宮西加茂及當部内ノ農家ヨリ尿尿及塵埃ヲ市内ヨリ搬入野菜肥料トシチフス菌ヲ有スル野菜ヲ殊ニ當部内ニ多キ流水溝ノ所々ニテ洗滌スルト有毒水ノ地下ニ混入スル等尤其ノ因ヲ爲シ公設洗滌場ノ二三ヲ有スルモ殆ト有名無實ニテ水枯レ場所狹ク從テ豊富ナル流溝ヲ使用シ又新開地北方ハ殆ント井水ニシテ其ノ構造不完全南方ハ水道ヲ有スルモ共用多ク傍ラ井戸ヲ存スルカ爲メ専ラ井水ヲ使用ス又タ發生家屋ノ消毒不充分ナル疑ヒ發病後診斷迄ノ期間内病毒散亂退院後尿尿ニ對スル不消毒牛乳瓶飲食店器具ノ病毒媒介ノ恐レ等アリ

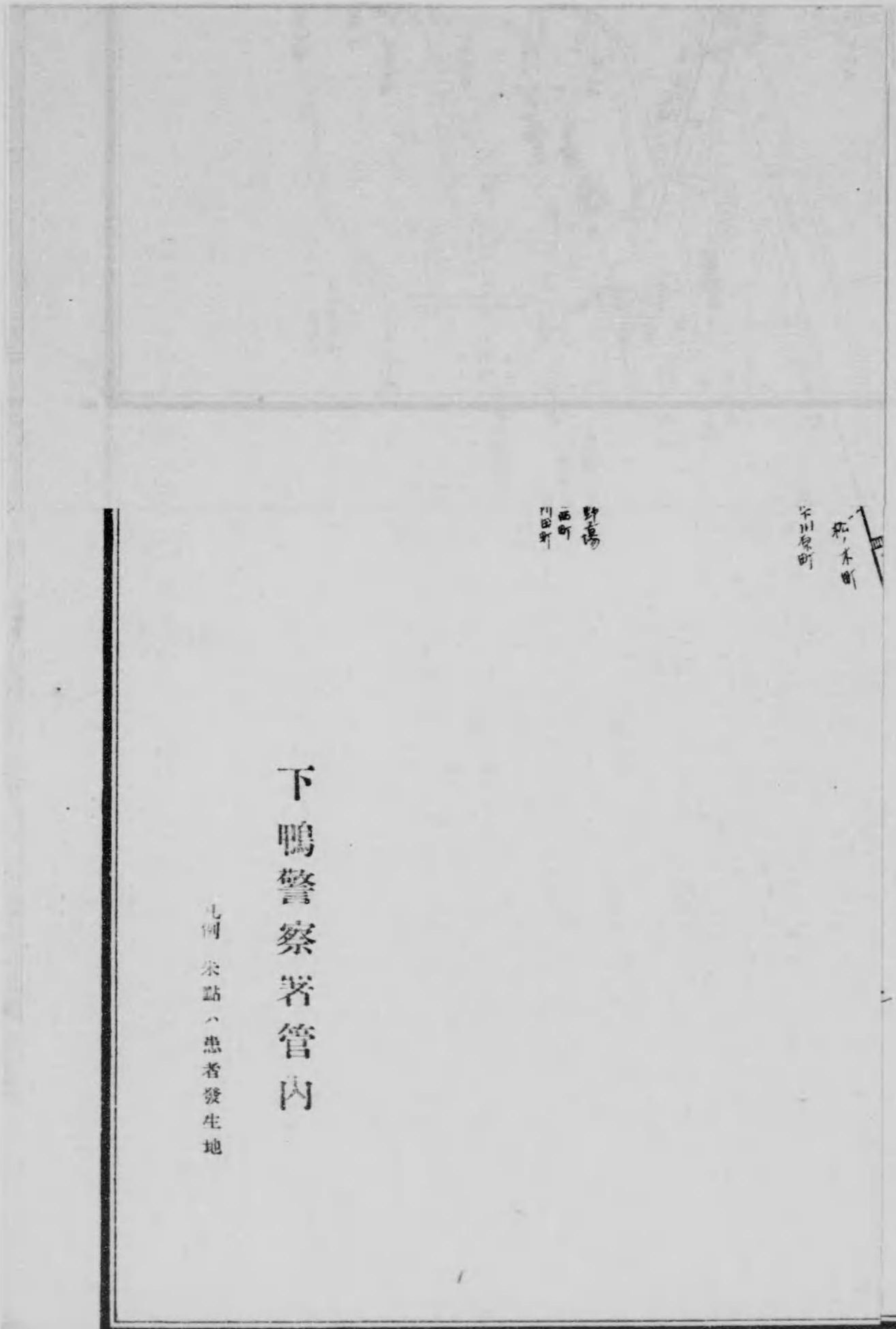
自大正十二年十一月一日
至大正十三年一月廿五日
腸チフス患者

下鴨市部

發病月日	診斷月日	發病診斷 間隔	轉歸	發病關係	住 所	職 業	姓 名	年 齡
十月八日	十一月一日	二十四日	全 治	同宿傳染	鐘紡寄宿舍	女 工	大〇〇〇	二三
同 廿七日	同 三日	七日	同	同	同	同	竹〇〇〇	四二
十一月廿八日	十二月六日	九日	同	傳 染	鐘紡社宅	同	井〇〇〇	一二
十二月三日	同 十一日	八日	同	同	同	同	井〇〇〇	七
十一月十八日	同 廿一日	三日	同	隣家患者 井水共用	田中上柳町	學 生	小〇〇〇	二六

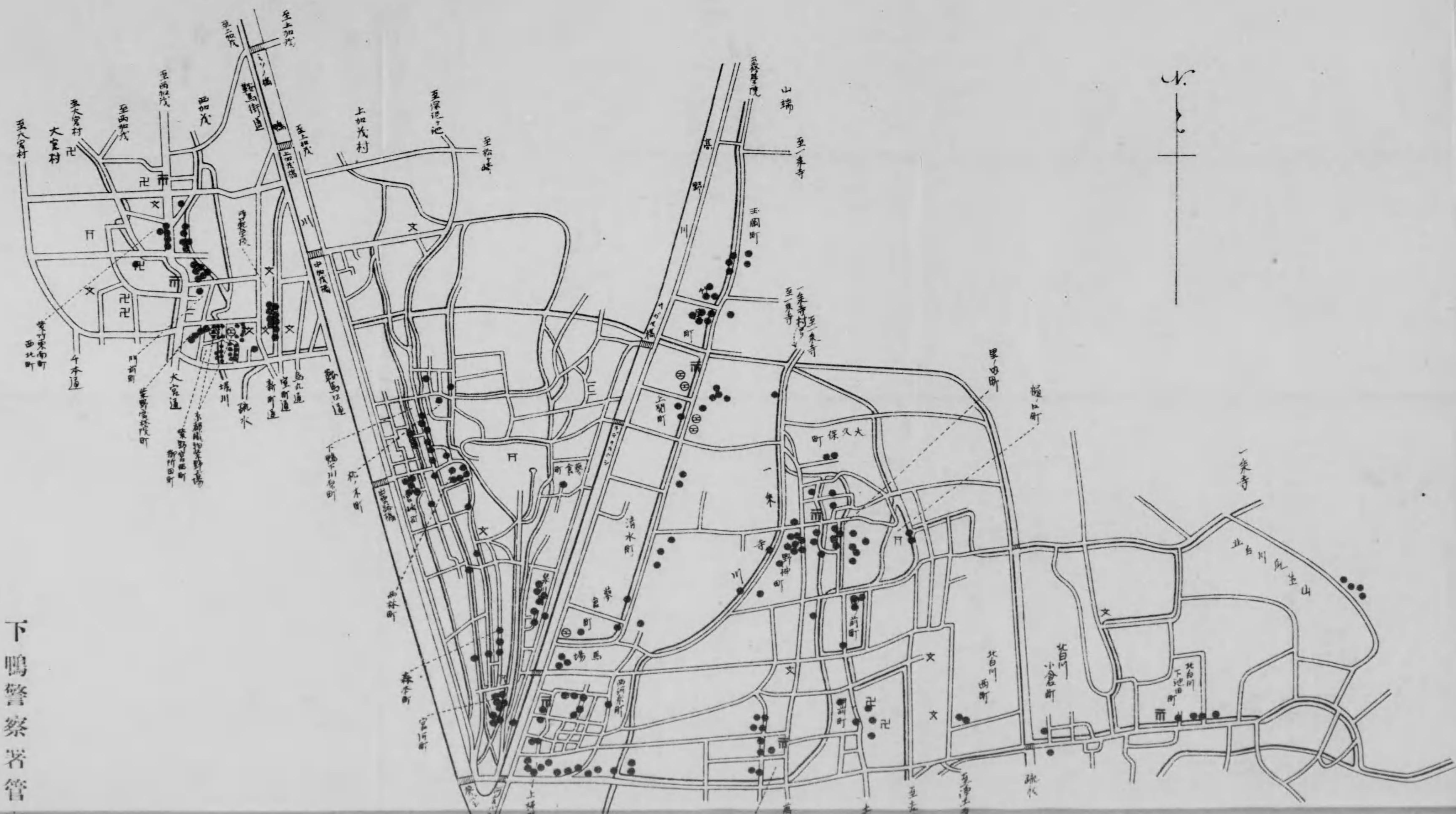
當地ニ對スル豫防策ノ感想

- 一 流水使用絕對禁止 各流水ノ細菌的検査ノ必要ナキニシモ非サルモ寧ク有毒水ト看做ス
- 一 公設洗滌場完全ニ設置
- 一 早期診斷勵行
- 一 熱性患者ノ糞便消毒勵行
- 一 退院後一定ノ期間便所ノ消毒勵行
- 一 水道使用獎勵
- 一 屎尿運搬後一定ノ場所ニ留メ置キ腐化後植物ニ用ユルコト
- 一 牧場附近ノ清潔及蠅ノ驅除
- 一 井戸ノ改造(破損ノ所)
- 一 下水ノ疏通



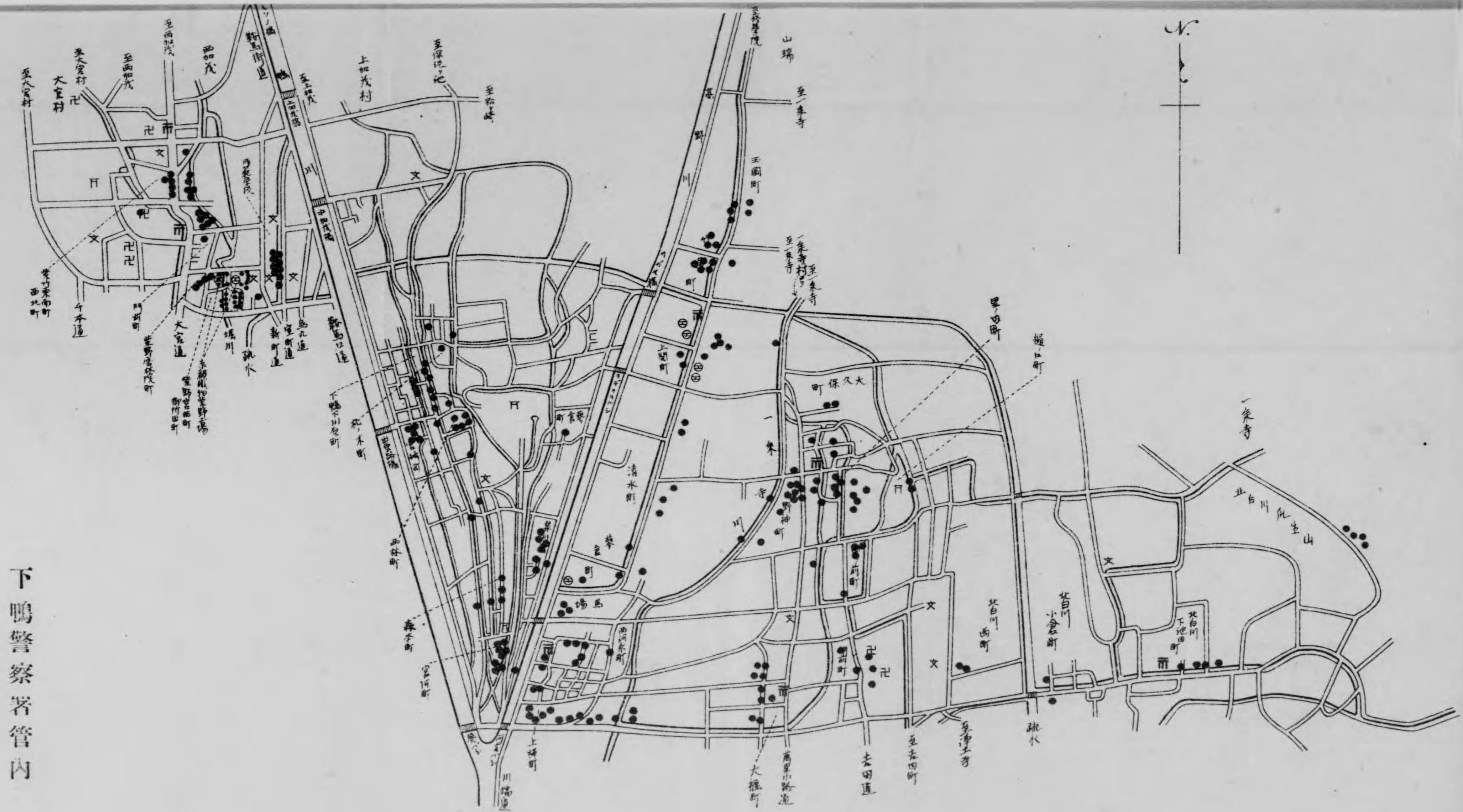
下鴨警察署管内

凡例 赤點ハ患者發生地



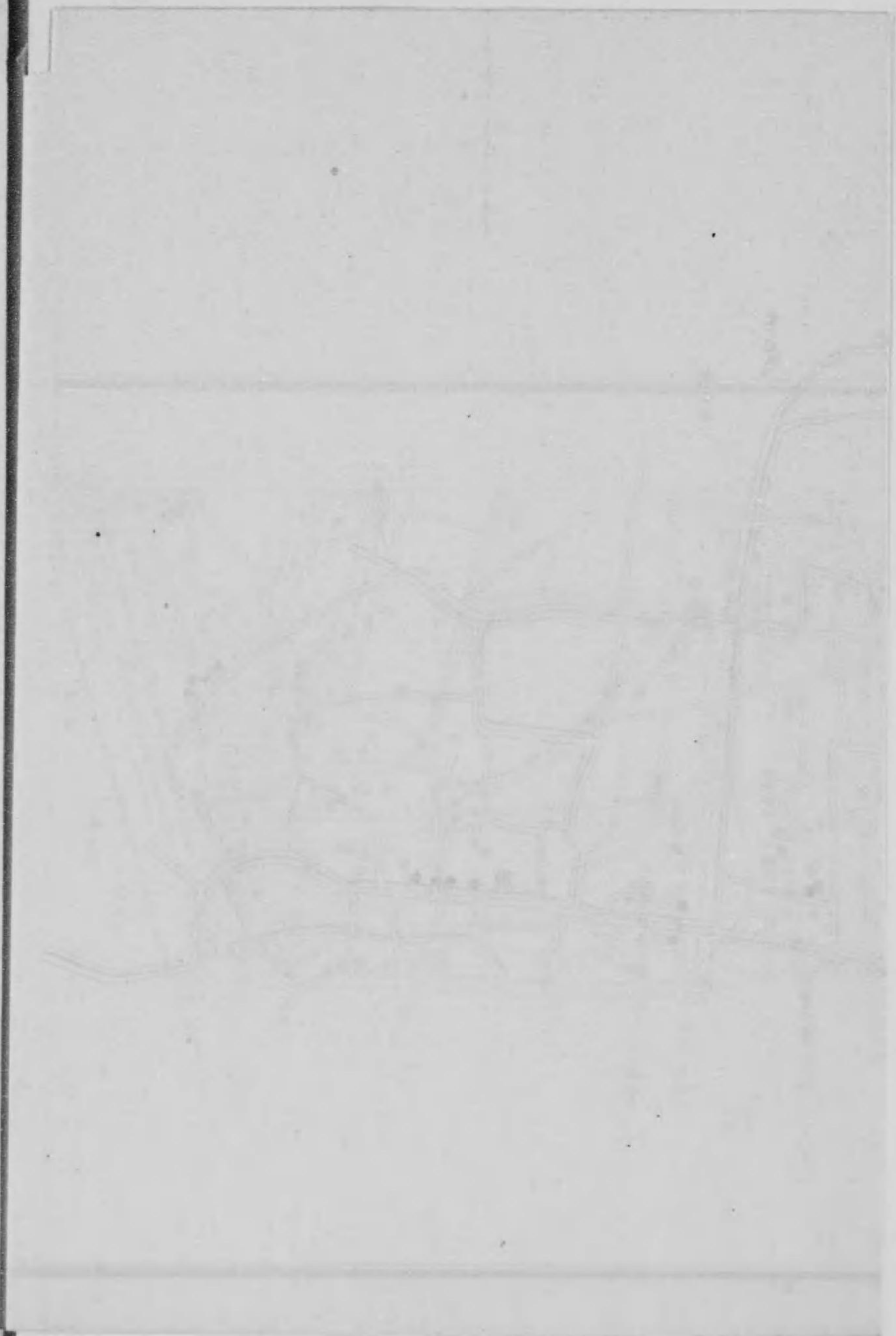
下鴨警察署管

七河 宗助 一 熊 著



下鴨警察署管内

凡例 赤点ハ患者發生地



○下鴨署管内(對建議書)

(大正十三年六月二日 調查者 蜂須賀防疫醫
京都府知事宛)

目次

- 命令
- 復命
- 理由
- 一、下鴨ノ地勢
- 二、川溝ト防疫
- 三、既設共同洗場ノ現況
- 四、現在洗滌ノ狀況
- 五、公設洗滌場設置
- 六、野菜取扱人

復命

命令

下鴨區内ニ於ケル腸チフス病ニ對スル別紙建議書ニ關シ之レガ調査ヲ命ゼラレ復命スルコト左記ノ如シ

七、井水ノ狀況

八、吸込ノ狀況

九、塵埃ノ處分

十、下鴨警察署長宛申出事項ニ就テ

十一、結論

別紙一、下鴨署長宛書面寫

別紙二、下鴨區域上井水使用家調査表

別紙三、下鴨區域腸チフス患者表

附圖一、下鴨區域

復命 腸チフス病豫防策ノ第一義トシテ川溝ニ於ケル蔬菜其他一般ノ洗滌ヲ禁止スルノ必用アリト

認ム

理由

一、下鴨ノ地勢 (附圖參照)

北ハ疏水ヲ以テ上加茂ニ連接シ西ハ鴨川東ハ高野川ニヨリテ限境セラレタル三角形ノ地形ニシテ其間上加茂、御泥池、松ヶ崎方面ヨリ來ル所ノ浦川、泉川ノ二流アリテ北ヨリ南ニ貫流シ其他蟬ノ小川ハ下加茂神社境内ニ發シテ泉川ニ合流ス次デ野口、間部ノ二溝アリテ下水排泄用ニ供セラレ細溝數條相互ノ連絡ヲナス

東ヨリ北ニ亘リ比叡、如意、鞍馬ノ秀峰ニ圍周セラレ風光極メテ明眉ニシテ眞ニ洛北ノ勝地タルヲ以テ都市ノ發展殊ニ著シク

年 度	戸 數	人 口
大 正 五 年	六四八	三、一七五
大 正 十 二 年	一、〇八四	五、三八二

ノ數ヲ示シ最近七ケ年間ニ於テ殆ト倍加シ商業者多ク農者之ニ次ギ其他別莊生活者俸給生活者等ヲ伍ス

地勢ハ東北ヨリ西南ニ向ヒ緩ナル傾斜ヲ有スルモノナルヲ以テ川溝ハ凡テ北方上加茂ニ源ヲ發シ市内ヲ北ヨリ南ニ貫流シ鴨川高野川ニ流入シヤガテ合シテ大鴨川ヲ形成スルモノナリ

- 一、浦川ハ泉川疏水ト交叉南流シテ河原町宮崎町ヲ貫キ鴨川ニ流入ス 川幅六尺 水深七寸泥深シ
- 二、野口溝ハ芝本町松ノ木町西林町松原町ノ邊縁ヲ流下シテ鴨川ニ流入ス 溝幅四尺 水深六寸
- 三、間部溝ハ泉川疏水ト交叉シ南流シテ下加茂神社ノ西側ヲ下リ松原町ノ南端ニ於テ野口溝ニ合シ鴨川ニ流入ス 溝幅三尺 水深七寸
- 四、泉川ハ浦川野口溝間部溝疏水ト交叉シ下加茂神社ノ東側ヲ南下シ蓼倉町泉川町宮河町ヲ經テ高野川ニ流入ス川幅二間乃至三間ヲ有シ水深一尺乃至二尺水量稍々豊富ニシテ流レ早シ
- 五、蟬ノ小川ハ下加茂神社境内ニ發シ宮河町ノ南端ニ於テ泉川ニ合シ高野川ニ流入ス川幅一間位ニシテ水淺ク雜草繁リ不潔ナリ
- 六、細溝トシテ上記川溝ノ間數條ノ枝溝ヲ有シ相互ヲ連接スルモノナルモ乾燥又ハ崩壞セルモノヲ見ル

以上ノ川溝ハ下鴨區域ニ於ケル下水道ノ使命ヲ有スルモノニシテ防疫衛生上重要ナル意義ヲ有ス

二、川溝ト防疫 (附圖參照)

前記川溝ノ岸壁ハ粗雜ナル石垣ヲ以テ作製セラレオルモ間隙多ク流水ノ侵透ヲ免レザルベシ川床淺薄ニ

シテ泥土ハ雲絮狀ヲナシテ沈澱シ極メテ不淨ニシテ區域民ハ川溝ヲ以テ塵埃汚穢ノ捨テ場ナリトノ觀念ヲ有スルモノ、如ク「ゴモク」類ヲ川溝ニ投入スルノ風アリ爲メニ水質ハ不潔トナリ水流ハ阻止セラレ又ハ段落ヲ形成スルノ個所各所ニ散見スル所ナリサレバ毎月一回ツ、塵埃ヲ除去スルノ計劃アリト聞クモ殆ト有名無實ニシテ隨所ニ山積セラレ、ヲ見ル

上記ノ不潔ハ浦川流域ヲ以テ最トナシ川壁ハ石垣等ノ設備ナク自然ノ穿堀ニ任セタルノミナルヲ以テ諸所崩壊シ泥土ヲ埋メ深淺區々ニシテ雜草繁茂シ「ゴモク」堆積シ爲メニ水流ハ狹少セラレ雨雪等ニヨル増水時ハ氾濫甚シク附近ノ住家ニ浸透スルコトアリト云フ

殊ニ島〇工場附近ヨリ下流ニ向ヒ不潔ノ度殊ニ甚シク曾テ此工場ヨリ排泄セラレ、染料ヲ混ジタル濁水ノタメ地層ヲ滲透シテ沿線宮崎町人家ノ井水ニ滲入シ爲メニ惡臭甚シク到底飲料ニ堪エザルノ理由ヲ以テ一紛擾惹起セラレタルコトアリキト云フ而シテ本川ノ鴨川ニ注入スルノ前宮崎町ヲ横切セントスルノ個所石橋ノ下暗溝ナルヲ以テ塵埃汚物ハ該所ニ停滯閉鎖シ流通ヲ阻害シ引テ上流ニ氾濫ヲ來スコト度々ナルコト地方民ノ訴フル所ナリ此ノ如ク極度ノ不潔水ナルヲ以テ流石ニ沿道民ノ洗滌スル者ヲ見ズ野口溝間部溝ハ共ニ市内ヲ貫流スルヲ以テ沿線人家ヨリ投入セラレ、塵汚ハ殊ニ多量ニシテ加フルニ溝幅溝深共ニ狹淺ニシテ流向ハ地勢上自然ノ傾斜ニ從フト雖モ前記ノ理由ニ依リ不潔ナル泥溝ト化シ「ゴモク」溝側ニ堆積シ不淨ヲ極メツ、アルナリ此ノ如キ不良ナル下水ナルニモ關セズ沿道市民ハ之ガ自家ニ接近スルノ利便ヨリ野菜類其他器物ノ洗滌

ハ勿論甚シキニ至リテハ小兒ノ「オシメ」サヘ洗ヒツ、アルヲ現認スルニ及ビ驚嘆ニ堪ヘザル所ナリ泉川ハ川幅廣ク水流稍々急ニシテ水量豐富ナルヲ以テ塵埃等ノ停滯スルコト少ク加フルニ町ノ東側人家稀薄ノ個所ヲ流下スルヲ以テ比較的穢サル、コト僅微ナルモ尙上流ニ於テ農事ニ使用セラレ、ヲ以テ濁濁ヲ免レズ

下鴨神社北裏子ノ溜溝

西ハ盲端ニ終リ東ハ泉川ニ注入シ得ルノ自然ノ傾斜アルモ樹枝落葉石塊等ノタメ排泄口ハ閉鎖サレ爲メニ溜溝ト化シツ、アルヲ以テ腐敗作用ノタメ附近一帶惡臭甚シク市民ニ怨嗟ノ聲ヲ聞クトコロナリ是ヲ總括シ考フルニ上記ノ下水ハ所謂「明ヶ放シドブ」ニシテ區域内千餘人家ノ不潔水ヲ茲ニ收容シ之レニ加フルニ沿道家屋ヨリ投入セラレ、塵埃汚穢ニヨリ益々不淨ヲ極メツ、アルモノナリ

此ノ如キハ一般沿道民ノ下水ニ對スル自覺極メテ幼稚ニシテ衛生的の感念ノ薄弱タルノ結果ニシテ唯ダ簡易ニ使用シ得ルノ便ニノミ捉ハレ不知不識ノ内習慣性トナリ凡百ノ洗滌總テ川溝ニ寄ラントスルノ傾向ハ眞ニ防疫上忽諸ニ附スベカラザルノ惡癖ト云フベシ

古來衛生問題ノ主要部ハ常ニ水中ニ溶解セラレツ、アリト云フ如ク市民ノ眼前ヲ汚キ液體トシテ流動シツ、吾人ノ美的感念ヲ脅シツ、アル下水ヲ有スルノ都市ハ之レニ對シ病毒傳染ノ危害ヲ防止杜絶シ得ルタケノ處分法ヲ講ゼザル可ラズ

下水工事ノ無キ都市ハ便所ナキ家屋ト同一ナリト云ハル、如ク之レガ衛生上殊ニ諸種ノ傳染病ヲ支配シオルコトハ甚大ナルモノナルヲ以テ京都市ノ如キ腸チフス病ニ對スル特殊地帯ニ於テハ特ニ之レニ對ス

ル防疫上ノ良途ヲ講究セザルベカラズ此ノ目的ニ向テハ川溝ノ整理及清潔保持ノタメニ塵埃汚物投棄ノ絶對的禁止護岸築溝等衛生上ノ問題ハ多々累積スト雖モ當地ニ直面シタル緊急問題ハ永キ因襲ニ捉レタル市民ノ非衛生的感念ヲ轉換スルノ第一歩トシテ此等川溝使用ノ嚴格ナル絶對的禁止ナリトス最近ニ於ケル腸チフス患者發生狀況ハ(別紙三 參照)

大正十二年度

四十六名

大正十三年自一月至四月

二十四名

ヲ算スル狀態ニシテ之レガ因子ノ大部分ヲ前記川溝ノ不潔不良ニ歸スベキモノナリト認ム

古來河水井水ノ病原體ニヨリ汚染セラレ爲メニ大流行ノ慘害ヲ蒙リクル例少カラズ特ニ留意スベキ病原體ノ保存及傳播ニ對シ重大ノ意義ヲ有スルモノハ一度本病ヲ經過シ健康ニ復シ尙細菌ヲ排出スル者或ハ本菌ヲ體內ニ保有シナガラ病徵ヲ發セズシテ常ニ細菌ヲ出スモノ、如キハ吾人ノ警戒線外ニ立テ、病原體ヲ散布シ傳播ノ泉源ヲナスガ故ニ常ニ之等保菌者ノ檢索ニ多大ノ注意ヲ拂フト同時ニ之等ノ細菌ニ依リテ汚染セラル、川溝ノ不潔ヲ除去スルコトニ努力セザルベカラズ

本土本病ハ四季不斷ノ流行ニシテ從テ菌保有者ノ尿尿ハ絶エズ排出セラレ之ニヨリテ穢サレタル肥料ヲ以テ栽培セラレタル野菜類ガタマタマ洗滌ノ不完全ナル爲メ本症ヲ惹起セラル、コト若シクハ洗滌水其モノニ細菌ヲ包含シ之レヲ附着セラル、コトニ依リ本症ヲ發生スルコト推想ニ難カラザル所ナリ

要スルニ不潔水ニ棲息セル病原菌ハ凡テノ機會ニ於テ人體内ニ運行セラル、モノナルヲ以テ此ノ危險ヲ豫防スルノ目的ニ向テハ不潔水ノ使用禁止ト同時ニ一方不潔土地ノ整理即非衛生的病土ヲ衛生的健土ニ轉セシムルノ手段ヲ擇ラザルベカラズ

三、既設共同洗場ノ現況

本區域民ノ下水ニ於ケル洗滌癖ハ數十年來ノ惡習ニシテ偶々心アルノ士ニ依リテ是レガ非衛生的行爲ニシテ下鴨住民ノ生命上ノ安危ニ及ボス重大問題タリトノ見地ヨリ大正七年市ニ併合セラレタル當時農會ノ力ニヨリ共同洗場ヲ設置シ下水ニ於ケル洗滌ヲ中止セシメントナシタルモノニシテ現時僅ニ其ノ殘骸ヲ止メ更ニ顧ル者ナキノ狀態ナリ (附圖參照)

一、芝本町共同洗場

二、藜倉町共同洗場

三、藜倉町共同洗場

四、膳部共同洗場

是レガ構造タル前記川溝中幅員廣クシテ水深キ比較的清クシテ交通頻繁ノ個所ヲ撰ビ建設シタルモノニシテ大小區々アリ間口六間乃至九間奥行二間ノ杉皮葺小屋ニシテ奥行二本ノ支柱ヲ以テ川溝ノ兩岸ニ股シ屋蓋ヲ以テ川溝面ヲ覆ヒ雨雪日光ヲ防グノ形ニ作製セラレタルモノナリ

位置ハ區域住民ガ北方農作場ヨリ收穫セル蔬菜類ヲ下鴨町内ニ持チ込マントスルニ先キ立チ之等洗場ニ於テ洗滌シ「所謂洗ヒ上リタルモノ」ヲ持チ入レシメントスルノ企劃ニシテ當時下鴨區域内ニ於テ此附近ヨリ上流約三十丁程人家無ク從テ塵埃投入ノ恐レナク水深ク外見清澄ナリシヲ以テ此地ヲ撰定ナシタルモノナリ

然ルニ幾星霜後ノ現在ニ於テハ都市益々膨脹シ人家櫛比シ從テ塵汚ヲ投入スル者増加シタルノ關係上往

時洗場トシテ清潔視ヒラレタル個所モ岸壁崩壞シ泥濘底ヲ淺クシ雜草茂生シ到底洗場トシテノ價值ナク僅ニ昔ノ俤ヲ止ムルノミナリ

四、現在洗滌ノ狀況

既設共同洗場上記ノ如ク荒廢シテ用ヲナサズ爲メニ益々舊慣、擡頭シ各自家ノ直前ヲ流ル、川溝ニヨリテ洗滌シツ、アルノ狀況ニシテ是レニ關シ少シク往時ヲ遡想スルトキハ從來清潔感念薄弱ニシテ川溝ニ於テ總テノ物ヲ洗フノ習癖ノ所有者タル區民ハ設置セラレタル共同洗場サヘ單ニ川溝ヲ利用シタル以外何等特別ノ設備ナク僅ニ屋蓋ヲ有スルコトニ依リ之レガ共同洗場タルノ體面ヲ標示スルノミニシテ川溝ニ於テ物ヲ洗フノ實質ニ於テハ何等改廢ノ跡ヲ認メズ寧ロ之レガ爲メ「川溝ハ物ヲ洗フ所ナリ」トノ感念ヲ一層深刻ニ裏書キセシメタル如キ歸趨ニ終リツ、アルノ狀況ニシテ因襲ノ久シキ現時ニ於テハ不潔下水ニ於ケル洗滌ヲ何等介意セザル有様ニシテ誠ニ非衛生の行爲ト云フベシ
サレバ是レガ洗場問題ニ關シ衛生幹事小〇〇〇氏ノ意見トシテ往時北邊人家皆無ナリシ當時川溝比較的清淨ナリシヲ以テ現位置ニ設置セラレタルモノナルモ目下人家増設セラレ爲メニ不潔化セラレタルモノナルヲ以テ今少シク北方人家無キノ地點ニ移動セバ如何トノ理由ノ下ニ假設指定地點ヲ視察シタルモ所謂五十歩百歩ニシテ到底衛生の意義ノ痕跡ヲモ發見スル能ハザル所ニシテ此ノ如キハ徒ラニ川溝洗滌ノ惡習ヲ増長セシムルモノニシテ百害アツテ一利無キモノト云フベシ

五、公設洗滌場設置

前陳ノ如キ衛生的觀念極メテ幼稚ニシテ川溝ノ使用ヲ何等介意セザル區民ノ指導ニ向テハ川溝使用ヲ嚴禁スルト同時ニ一方衛生的願慮ノ下ニ作ラレタル洗滌場ノ設置ヲ必要ナルモノト認ム
之レガ理想的計劃ハ幾多アランモ小額ナル經費ノ下ニ簡ナリト雖モ此目的ニ合致スベキ實質アル設備タラザル可ラズ此意味ニ於テ水利ハ必ず上水道ニ求メ洗滌槽ハ「コンクリ」製ヲ以テ堅固ナル裝置ニ作ラレタル少クモ二槽(ツハ初回洗滌用)ヲ有スル洗滌場ヲ設置セザルベカラズ既ニ水道ハ疏水ノ線以南人家ニ引設シ得ル程度マテ施設シアルヲ以テ工程比較的容易ナリト信ズ(上水井水使用家調査表參照)

六、野菜取扱人

川溝ニ於ケル職業の野菜洗滌者ト見做スベキ者ヲ下鴨農會ニ就テ調査スルニ

野菜行商人	百十五名
純農者	八十五名乃至九十名

ニシテ當町千餘ノ戸數ト五千餘ノ人口ニ比較スルトキハ僅ニ其一部タルニ過ギザルモ前記川溝沿線ノ人々ハ好デ野菜、食器、衣類等ノ洗滌ヲ行ヒツ、アルヲ多々見受クル所ナリ

七、井水ノ狀況

市編入以來上水道ハ設置セラレツ、アリト雖モ好テ井水ヲ使用セントスル傾キアリ之レ冬期水温ノ高キト飲用上美味ナリトノ嗜好ヨリ上水井水併用者ニ於テサヘ井水ヲ多用シツ、アル狀況ハ本症流行ノ因子ヲ究メントスル者ノ見逃スベカラザル問題ニシテ恰モ川溝ノ不潔ガ野菜ヲ介シテ人體ニ潛入スルガ如ク

又之レ等不潔水ガ井水ニ混ジテ人體ニ侵入スルノ恐レアルナリ

何者本區内井水ハ多ク家屋内ニ鑿井セラレ深淺區々ナルモ概ネ側壁ヲ有シ外觀上注水崩土ノ墜落等ヲ防止セラレツ、アルノ状態ナルモ時ニ龜裂ヲ生ジ時ニ青苔雜草ノ粗生シアルヲ見ルモノニシテ爲メニ不潔水ハ此レ等粗雜ナル岸壁ヲ滲透シテ流注シツ、アルモノ三四ニ止マラズ甚シキハ「チヨボノ」ト滴音サヘ聞クモノアリ加フルニ雨雪ノ候増水時ニ際シ川溝ヨリ侵透スル不潔水ノ爲メ井水ノ濁濁スルコト年々度々ニシテ甚シキハ惡嗅ノタメ飲用ニ供シ難キコトアリト云フ

(浦川ノ滲透ヲ蒙ル宮崎町附近)

之レヲ要スルニ本區ハ不良下水ニ依リ圍周セラレオル關係上種々ナル機會ニ於テ井水ヲ不良ナラシメ引テ本症發生ヲ容易ナラシメツ、アルナリ

八、吸込ノ狀況

最近ニ建築セラレタル家屋以外多クノ人家ニ於テ吸込ト稱スル下水溜所ヲ有スルモノニシテ吸込トハ勝手流元等ヨリ排泄セラレタル汚水ヲ唯ダ單ニ土地ヲ發掘シタル深淺區々ナル凹地ニ溜置シ自然ニ周側ニ吸收セシムルノ裝置ニシテ其マ、開放セラレタルモノアリ又ハ石、木材ヲ以テ水面ヲ覆フノ設備ヲ加ヘラレタルモノアルモ多クハ開放シアルヲ以テ腐敗ノタメ惡嗅甚シク子群生シ蚊蠅ノ發生著シキ状態ナリ

之ハ下水網ノ配備不完全ナルニ起因スルモノニシテ往昔未ダ衛生問題ノ論セラレザル朦昧タル時代ノ遺物ニシテ非衛生ノ極ナルヲ以テ下水ノ整理ヲ俟テ速ニ埋塞スベキモノナリト認ム

九、塵埃ノ處分

都會ハ健康ノ消磨所ニシテ生命ノ消費所ナリ殊ニ人口増加ト共ニ健康障害ノ原因増加スルノ折柄塵芥問題ノ比較的輕視セラレツ、アルハ衛生上遺憾ノ極ト云フベシ

本區域ハ曾テ農村タリシモノ京都市發展ノ餘惠ヲ受ケ順次開發シタル所謂新開ノ都市タルヲ以テ人家ノ間田園散在シ之レガ肥料トシテ施サレタル塵埃並ニ路傍ニ投棄セラレタル塵汚之レガ酸酵腐敗ノタメ惡嗅ヲ飛散シオルノ狀況ナリ

殊ニ田園附近ノ農家ニ於テハ之等汚物ヲ屋敷ノ一隅ニ堆積シテ塵埃ヲ形成セシメ自然分解作用ヲ俟テ肥料ニ供スルノ風習ハ都市衛生上速ニ改善セシメザルベカラズ

美シキ都會ハ反面ニ於テ偉大ナル汚物ノ產出地タルヲ以テ塵埃ノ處分即除穢問題ハ都市衛生ノ骨子ヲナスモノニシテ衛生ハ塵埃ヲ追ヒ非衛生ハ塵埃ニ追ハルノ語アリ誠ニ至言ト云フベシ

古來掃除ノ責ハ都鄙共ニ住者戸前ヲ清ムルヲ以テ習トナセリ爾來此風漸ク止ミ或ハ自治團體直ニ之ヲ行ヒ然ラザルモ之ヲ監督スルニ至レリ居住個人ヲシテ責ヲ負ハシメ警察官之レヲ督スルハ理論上宜シキヲ得タルニ似タリ然レドモ集積シタル汚物ニ至リテハ其處分頗ル難シ汚穢ヲ家内宅地ニ集メ市吏ノ取ラシムルヲ待ツノ制ハ個人ト市トノ緊密ナル作業ヲ得テ始メテ効アリ然シテ此作業ハ縦令警察上罰課スルモ澹滯ヲ防グニ由ナシ故ニ伯林ノ如キハ掃除ノコト一切舉ゲテ自治體ノ之ヲ負フコト、ナリオルト云フ此意味ニ於テ當區ノ如キ一廓ヲナシタル部分的都市ニハ防火團若クハ青年團ニ於テ自治的ニ掃除ノ勵行ニ勤勞セバ其レガ行ハレタル形式ト現レタル精神上ヨリ受クル教化ハヤガテ周圍ヲ教導スルノ善良ナル

結果ヲ生ミ得ルモノナリト信ズ

集メラレタル塵埃ハ居住地内ニアリテハ密閉シ得ベキ被蓋アル箱ニ納メ時々石油ヲ散布シ可及的迅速ニ居住地外ニ搬出シ 一、ニ焼却 二、ニ乾燥 三、止ムヲ得ザレバ人家ヲ離レタル耕作地ニ散布スルノ法ヲ講ズルヲ適當ナリトス

塵埃中ニハ多量ノ腐敗性菌芽ヲ含有スルヲ以テ塵埃處置ノ當否ハ其地健康上直接ナル影響ヲ及ボスベキモノナリトス

此地塵埃問題ニ關聯シテ衛生上恐ルベキ蠅ノ發生ナリトス眞ニ吾人ハ便所ト塵溜場ニ於テ蠅ヲ養殖シ居ルモノニシテ此レ等傳染病ノ媒介者ヲ生産スル塵埃ノ處分換言スレバ清潔第一主義ハ都市生活者ニ取リ眞ニ特別ノ意義ヲ有スルモノナリ

此意味ニ於テ塵埃處分法トシテ焼却ヲ以テ唯一無二ノ手段トナス從テ塵埃焼却場ヲ設置シ大規模ニ之レガ處分法ヲ講ゼザルベカラズ然レドモ未ダ之ガ設備ナキノ故ヲ以テ荏苒完成ノ期ヲ待ツハ防疫ノ途ニアラズ宜シク「塵埃ハ燒ケ」ノ方針ノ元ニ田園若シクハ市外地ノ空地ニ最寄的ニ集積シテ隨時焼却セシムベキモノナリ

十、下鴨警察署長宛申出事項ニ就テ

(別紙一参照)

鴨〇〇外二名ノ連署ヲ以テ下鴨警察署長宛申出デラレタル別紙

下鴨町現下ノ状態ニ付キ緊急施設ヲ要スル條項

ノ各目ニ就キ現地視察ノ所見ニ依リ考察ヲ加フルコト左記ノ如シ

第一項 石油放流ニヨリ河川使用矯正ノ件

本件ニ關シテハ石油ヲ放流スルコトニ依リ汚水中棲息スル子蚊蠅等ノ昆虫類撲滅ニ向テハ効果ヲ有スルモノナランモ此舉ガ末項記載ノ危険ヲ防止セントスルノ目的ヲ以テ河川使用ノ惡習ヲ將來ニ向テ矯正シ得ルモノナリトノ信念ハ現實ノ狀況ニ照シ到底想像シ難キ所ニシテ恰モ引カレタル護謨管ノ指端ヲ去ルニ乗ジテ又舊位ニ復スルガ如シ其效果ハ得テ望ム能ハザル所ナリト信ズ此ノ故ヲ以テ此際比較的巨額ノ經費ト努力ト危険トヲ有スル石油ヲ放流シテ徒ラニ沿道市民ノ感情ニ暗影ヲ投ズルノ恐レ多キ一舉ハ吾人ノ贊シ難キ所ニシテ今ヤ一步ヲ進メ絶對的禁止ヲ以テ却テ衛生的自覺ヲ喚起シ得ルノ最善ノ手段タルヲ信ズル者ナリ

此ノ如クシテ一方公設洗滌場ノ設置セラレル、ニ於テハ之レ實ニ理想的ノ施設ニシテ假ニ公設洗滌場無キニ於テモ各自上水若クハ井水ヲ有セザル者無キ實況ナルヲ以テ之レヲ使用セシムルニ於テハ川溝ノ使用ヲ禁止セラル、トモ敢テ苦痛ヲ感ゼザルナリ尙進テ安全ナル井水ノ使用ヲ望マバ消毒法ヲ勵行セバ一層衛生ノ目的ニ合致スルモノニシテ要ハ因襲ノ改善ナリ

川溝ニ於テ洗面含嗽者多數ナリトノ記事ニ付テハ前陳ノ不良水ニ對照シテ想像ダニモ及バザル所ナリ

第二項 警察官ノ衛生巡視ノ件

同 感

第三項 公設洗滌場設置ノ件

同 感

上水道無料使用設備云々ノ希望ニ對シテハ直ニ同意ヲ表シ難シ其レガ建設費常費等ニ對シテハ相當負

擔ヲ分タルベキハ論ナキモノト信ズ

(當地農會ノ事業トシテハ如何)

第四項 河川ノ浚渫塵芥ノ排除ノ件

同感

イ、項ニ擧ゲラレタルモノハ浦川ノ鴨川排出口附近ヲ指ス(附圖參照)モノニシテ葵橋ノ上流約五丁ノ個所ニ於テ鴨川ニ放流シオルモノナリ此ノ浦川ガ鴨川ニ入ラントスルノ前約三、四丁ノ間ニ於テ溝幅廣ク(一間半)泥土深クシテ溝床稍々高ク爲メニ汚水ハ一時茲ニ停滯セントスルノ傾キヲ有シ其レヨリ宮崎町道路トノ交叉點ハ土管ニヨル暗渠ナルヲ以テ頓ニ狹小トナリ塵埃ハ此ノ口ニ堆積シ疏通極メテ不良ナリ尙其レヨリ鴨川放流口ニ至ルノ約十間ノ間溝幅二尺位ノ細溝ト化スルヲ以テ大小無數ノ塵埃(下駄、木竹片、布片類、果物皮等)排口ヲ閉鎖シ流出ヲ不良ナラシム

此故ヲ以テ之レガ疏通ヲ順調ナラシムル爲ニハ、浦川川床ノ浚渫並ニ川幅ノ擴大(特ニ宮崎町道路交叉點ヨリ鴨川排出口ニ至ルノ個所)ヲナサザルベカラズ

ロ、項ニ於ケル下鴨神社北側ノ溜溝ヲ指スモノニシテ西方ハ盲端東方ハ排水路ヲ有スルモ樹枝落葉石塊崩土等ニ埋メラレ排水全ク障絶シ惡水停滯シ眞ニ惡臭芬々トシテ鼻ヲ穿ツノ狀況ニシテ非衛生的極致ナリ

本溝ハ北側人家ヨリ細キ二條ノ下水溝ヲ受クルヲ以テ之レヲ他方面ニ排泄ノ途ヲ講シ出來得ベクンバ埋塞スベキモノナリト信ス埋塞不能ナレバ東方泉川ニ向テノ排水路ヲ改修セザルベカラ

ズ

第五項 塵芥運搬ノ件

農作者ハ塵埃ヲ以テ肥料トナスノ關係上區域外ヨリ搬入施肥スルノ現況ナリ

カルガ故ニ塵芥運搬時若クハ施肥時之レヲ街道ニ飛散シ若クハ惡臭ヲ放散シ沿道市民ヲシテ衛生上不快感ヲ與フルモノナルヲ以テ之レガ搬入ヲ禁ジラレタキ希望ニシテ止ムヲ得サルニ於テハ少クモ區域外ヨリ搬入ヲ禁ジラレタシト云フニアリテ其主旨ハ吾人モ同感ナルモ塵埃焼却場ノ設置ナキ今日ニ於テハ徐々ニ改良スベキモノナリト認ム

第六項 小學兒童ハ活動寫真ニ依ル衛生宣傳ハ吾人モ同感ニシテ其他學校教科書ニ載セテ教育セシムルガ如キ又ハ諷刺的滑稽畫等ヲ以テ何人ニモ愉快ニ見ラレ危險ノ恐ルベキヲ了解セシムルノ方法等効果アルベキヲ信ズ

第七項 希望事項ノ件

(イ) 河水ヲ豊富ニ流通セシメタキ希望ニ就テハ御泥池ヨリ植物園ニ引キ込ミタル水利ヲ下鴨川溝ニ引用スルヲ得バ塵埃汚物ノ排出ヲ速カナラシメ川溝ノ清潔保持並ニ自淨作用ニ依ル菌芽ノ撲滅ヲ期スルヲ得ンカ

上水道引用勸誘

同感

(ハ)(ロ) 吸込ノ河川放流

吸込裝置ニ就テハ前陳ノ如ク非衛生的遺物ナルヲ以テ速ニ埋塞スベキモノナリト雖モ當地ノ實狀ハ今頓ニ之ヲ許サザルニ於テハ(附近ニ誘導スベキ側溝ヲ有セザル關係ニテ)容穴ヲ「カメ」

二四
若シクハ「コンクリ」装置トナシ之レニ覆蓋ヲ使用スルト共ニ排出路ヲ設置スベシ

十一、結 論

- 一、川溝ノ使用禁止
- 二、公私洗滌場設置
- 三、川溝ノ整理
 - (イ) 溝渠ハ煉瓦若クハ石疊トナシ勾配ヲ適當ニナシ水流ヲ便ニシ貯溜ヲ防キ水草ノ繁茂ヲ防クベシ
 - (ロ) 沼池ニシテ前條ノ要約ニ改良シ難キモノハ埋塞スベシ
 - (ハ) 流入物ノ防止設備
 - (ニ) 暗渠法ニ從フベシ
- 四、塵芥ハ焼却ノ法ヲトルベシ
- 五、下水ノ覆蓋設備
- 六、蠅驅除勵行
- 七、保菌者ノ調査

大正十三年五月八日

下鴨警察署長宛

鴨 ○ ○ ○
外 二 名

謹啓過日ハ御多忙ノ處參上致シ長座御邪魔致シ恐縮ノ儀謹而奉謝候其砌御申達ヲ蒙リ候知事閣下ヘノ建議書ニ就キ小生等ガ下鴨町現下ノ衛生状態ヲ平素目撃致シ居候結果トシテ別紙ノ如キ事項心附キ居リ候ニ付府當局者御視察ノコト有之候ハバ此儀貴官ヨリ御傳達被下度幾重ニモ奉願候

下鴨町現下ノ衛生状態ニ付緊急施設ヲ要スル條項

- 一、河川ニ數ヶ月間石油ヲ放流シ使用ニ堪ヘザラシメ同時ニ河水使用ノ惡習慣ヲ矯ムルコト
蔬菜及ビ食器類ヲ河川ニテ洗滌シ甚シキニ至リテハ洗面含嗽ヲ爲ス者多シ實ニ危險ノコトナリ
- 二、警察官ヲ増派シ衛生巡視ヲ嚴重ニセラレタキコト
現時ノ如キ警察官ノ巡視ヲ見ルコト極メテ稀ナルハ司法上ハ勿論衛生上ノ取締モ不完全ナルモノト認メラル、ヲ以テナリ
- 三、蔬菜洗滌場ヲ數ヶ所ニ新設シ上水道ヲ無料ニテ使用セシムル設備ヲ爲スコト
河水使用禁止ノ設備トシテ當然缺クベカラザルモノト認ム
殊ニ此件ハ終末水道ノ清淨ヲ期スルコト、ナリ同時ニ一下鴨ノ問題ニアラズシテ京都全市ノ消化器

傳染病豫防ニ必ス貢獻アリト信ス

- 四、各河川ヲ浚深シ塵芥汚物ヲ停滯セシメザルコト
 - イ、殊ニ宮崎町裏側ヲ流ル、河川ノ如キハ下流ノ河床高ク塵芥汚物ノ堆積甚シク悉ク周圍ニ浸潤スルヲ以テ其疏通ヲ完成シ特ニ加茂川放流口ノ河床ヲ低下セシムルコト
 - ロ、御祖神社北浦町ノ堀溜ノ如キハ排水路ヲ缺クタメ現時既ニ臭氣鼻ヲ穿チ通行ニ堪ヘザル状態ニアルヲ以テ其ノ浚深排除ヲ講ズルコト
 - 五、市内ノ塵芥ヲ畑地ニ運搬スルコトヲ禁ゼラレタキコト
 - 止ムヲ得ズンバ春夏ノ二季ニ於テ其運搬ヲ停止セラレタキコト
 - 六、小學校兒童ヲシテ活動寫眞等ノ方法ニ依リ汚水使用ノ危険ヲ理解セシムルコト
 - 七、其他ノ希望條項
 - イ、河水ヲ豊富ニ流通セシムルコト
 - 河水ヲ豊富ニシテ流下ヲ急ナラシムレバ「チフス」菌ハ或一定ノ下流ニ於テ死滅スルコトハ學理上證明セラル
 - ロ、上水道ヲ各戸ニ引用スルヨウ極力勸誘セラレタキコト
 - ハ、下水吸込ヲ出來得ル限り河水ニ放流スルヨウ勸誘セラレタキコト
- 新建築法ニヨル下水ト雖モ事實上舊來ノ吸込ト同様ノ非衛生状態ニアルコトニ注意セラレタキコト

下鴨區域上水井水使用家調査表

各衛生組合調査

組名	戸數	上水	水井
森宮崎中本	二九	一六	一一三
宮崎上	四三	一三	三三
桐原生	四二	三	三九
下川前	六六	六五	一一
植川園	五〇	三八	二二
泉中	三九	一九	二〇
淵部	三〇	一三	一七
膳崎	二〇	一〇	一〇
鍛冶屋	二一	六	一五
上之治	二七	九	一八
松原	三三	一	二二
中町	六一	一四	一八
糺森	一一八	一四	四七
河崎	三三	五〇	六八
宮崎	七〇	四	一八
宮崎	三五	二〇	二八
上下合	三二五	二〇	一五

備考 本年二月施行腸チフス豫防注射人員

第一回 自二月八日 至二月十日 千百四十人

第二回 自二月十四日 至二月十六日 九百十八人

三〇

建 議 書

京都市ニ於テ住宅地域タルベキ恰好ノ地ハ甚ダ多シ就中我ガ下鴨ハ其地勢其風光ニ於テ一頭地ヲ拔クモ
ノアリ仰ゲバ比叡如意鞍馬愛宕ノ高峯ニ對シ俯セバ賀茂高野ノ二大清流ニ臨ミ加フルニ國民ノ崇敬最モ
厚キ官幣大社賀茂御祖神社ノ淨地アリ更ニ將ニ市内電車ハ三方ヨリ集リ下鴨ノ中央ニ於テ交叉シ高野川
對岸ノ叡山電車ト共ニ一大利便ヲ與ヘントス是ニ於テ最近住宅ノ増加甚ダ著シク一昨年末八百八十三戸
ノモノ本年二月末ニハ一千一百十八戸ト爲リ猶到處ニ新築ノ盛況ヲ絶タズ兩三年後ニハ一千五百ノ戸數
ヲ算スベキ形勢ナリ然ルニ此地ハ今ヤ惡魔ノ跳梁ニ蹂躪セラレ住民ハ戰々兢々ノ状態ニ在リ惡魔トハ何
ゾヤ即チ腸チフスノ猖獗是レナリチフス菌ノ彌漫是レナリ下鴨ノ一小天地ニ於ケル腸チフス患者ハ男女
老幼ヲ問ハズ殊ニ小學兒童ニマデ傳染シ最近極メテ危險ノ狀況ニアリ又驚クベキ多數ニ達セルコトハ改
メ言ハズト雖モ警察統計ニ於テ明瞭ナルベク衛生上ノ施設寸時ヲ寬フセバ病毒ハ刻々ニ其猛威ヲ逞フシ
終ニハ噓臍ノ悔猶及バザルモノアラン吾人ガ惡魔ノ襲來ヲ絶叫スルハ豈管ニ一下鴨ノ住民タルガ故ノミ
ナランヤ京都ヲ貫通スル加茂ノ上流ヨリチフス菌ヲ放流センカ全市ハ悉ク是レ此犠牲ニ供セルルベシ由
來京都ハ山紫水明ヲ以テ誇ル所其名風ニ世界ニ聞エ東洋ノ樂園トシテ謳ハル、ノ地ナリ今一朝ニシテ此
樂園ヲチフスノ慘害ニ委センカ外人亦之ヲ何トカ評セム寔ニ文明國ノ一大耻辱トイフベシ獨逸ミユンヘ
ン市ハ衛生設備ノ完備セル點ニ於テ世界ニ冠絶ス此市ハ往年人口五十萬チフス患者一年僅カニ百名内外
ヲ出シタル時ニ於テ既ニ之ヲ以テ人道ノ大敵ナリ世界ニ對スル耻辱ナリトシ銳意協力上下水道其他一般
衛生施設ノ整備ヲ計リ遂ニ今日斯界ノ龜鑑タル名譽ヲ獲タルモノナリ我下鴨ハ上水道ニ於テ市當局ヨリ

三一

疎ンゼラレ下水道ニ於テハ殆ンド形ヲ具フルモノアルヲ見ズ其不完備其不體裁實ニ言語ニ絶ス今ヤチフ
スノ脅威頭上ヲ壓迫スルモ住民ノ多クハ頭腦冷靜ト云ハンカ智能鷲鈍ト謂ハンカ宛カモ對岸ノ火災視ス
ルガ如ク會々「塵芥ヲ河川ニ放棄セザルヤウ心懸クベシ」トノ宣傳ビラノ飄搖スルヲ見ルト雖モ斯クノ
如キ微温的手段ヲ以テ能ク此獍猛ナル病菌ヲ擊退シ得ベキ乎吾人ガ下鴨ノ保健衛生ノ完備ヲ期スルニ於
テ策スル所ハ甚ダ簡潔ナリ曰ク下鴨全體ニ上水道ヲ急進的ニ普及セシメ下水溝ヲ暗渠ニ改造セヨト言フ
ヲ以テ足レリトスルモノナリ然レドモ斯ノ如キ理想的ノ建議ハ市財政ノ現狀ニ鑑ミ到底實行ノ不可能ナ
ルヲ知ル然カモ何等カ此危急ノ秋ニ於テ姑息ナガラモ應急施設ナカラザルベカラズ吾人ノ所見ヲ以テス
レバ左ノ諸策アリ

一、下水溝ノ絶對的使用禁止

遵守スル者ナクバ法令ノ許スニ於テハ上流ヨリ石油ヲ放流スル類ノ如キ手段ヲ採ルコト

二、上水道引用ノ普及宣傳

三、各戸吸込ノ埋立及ビ改善

四、チフス豫防ノ一般宣傳及ビ實行

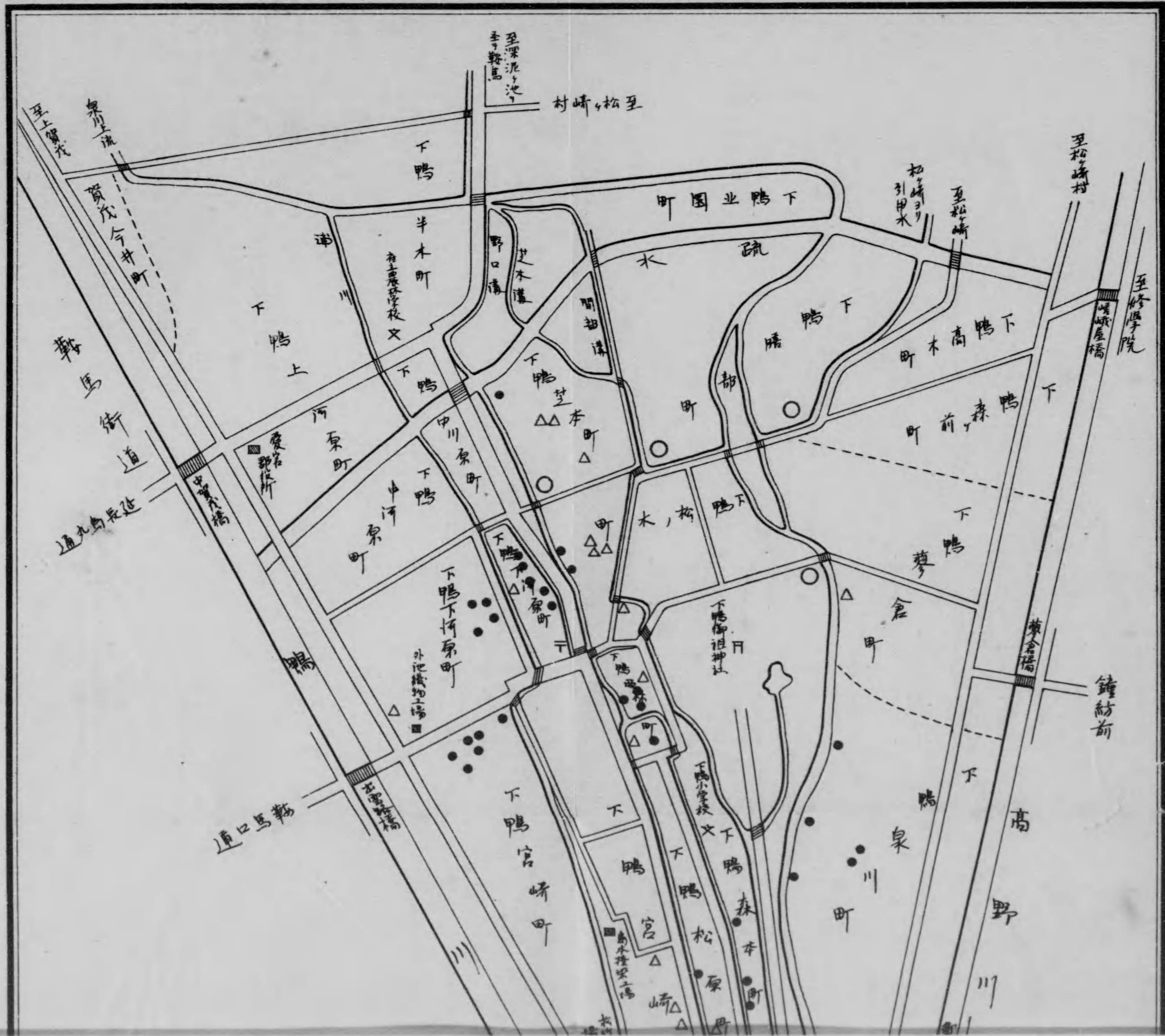
以上ノ四項ハ法令及行政裁量ノ範圍内ニ於テ直チニ實行シ得ベク又之レガ爲メニ特別ノ支出ヲ必要トス
ルモノニアラズト信ズ希クハ閣下吾人ノ建議ノ眞意ヲ察シ一日モ速ニ右ノ諸項ヲ實行セラレンコトヲ爰
ニ住民中ノ有志トシテ敢テ閣下ニ建議ス

大正十三年四月三十日

京都市上京區下鴨有志者三十四名連署

京都府知事宛

内營署警察課下



京都府

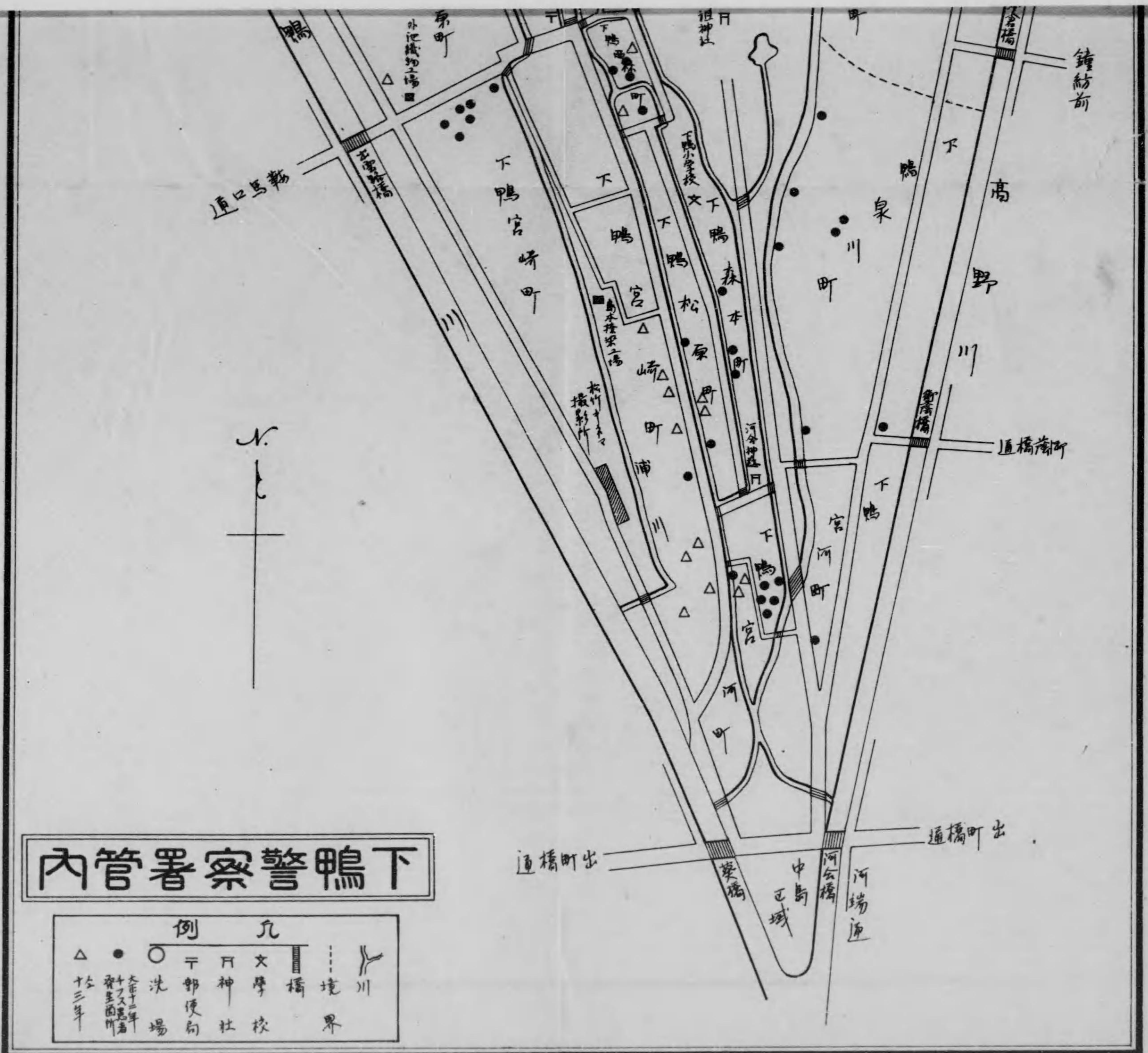
二、上水道引用ノ普
 三、各戸吸込ノ埋立
 四、チフス豫防ノ一
 以上ノ四項ハ法令及行
 ルモノニアラズト信ズ
 ニ住民中ノ有志トシテ
 大正十三年四月三

遵守スル者ナクハ法令ノ許ニ於テハ上流ヨリ右流ニ於テハ...

- 二、上水道引用ノ普及及宣傳
 - 三、各戸吸込ノ埋立及ビ改善
 - 四、チフス豫防ノ一般宣傳及ビ實行
- 以上ノ四項ハ法令及行政裁量ノ範圍内ニ於テ直チニ實行シ得ベク又之レガ爲メニ特別ノ支出ヲ必要トスルモノニアラズト信ズ希クハ閣下吾人ノ建議ノ真意ヲ察シ一日モ速ニ右ノ諸項ヲ實行セラレンコトヲ爰ニ住民中ノ有志トシテ敢テ閣下ニ建議ス
- 大正十三年四月三十日

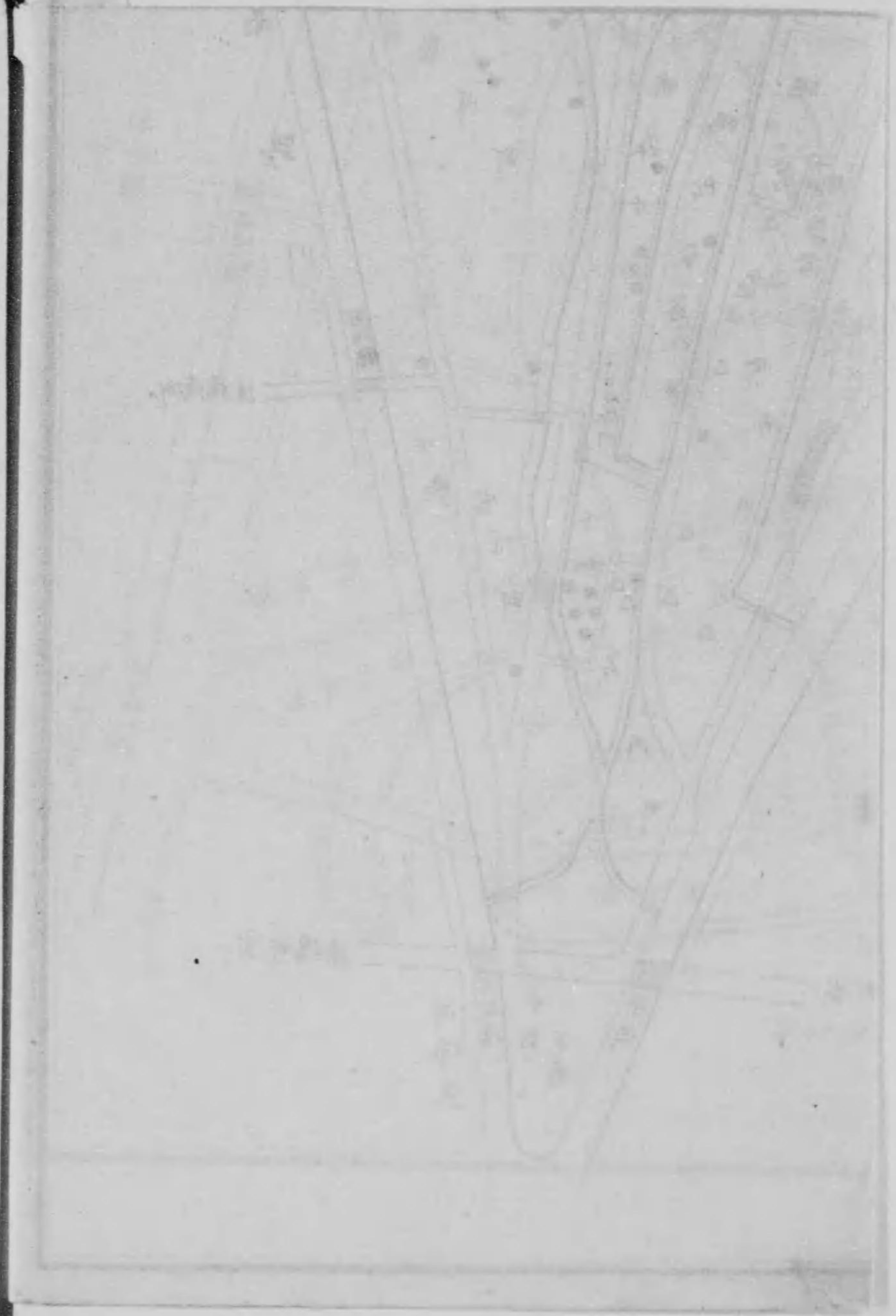
京都府知事宛

京都市上京區下鴨有志者三十四名連署



下鴨警察署管内

△	●	○	〒	⌂	文	橋	川
十三三年	大正十三年 四月三十日	洗場	郵便局	神社	學校	境界	川



○松原署管内

(大正十三年二月六日 京都府知事宛 調査者峰須賀防疫醫)

復命

左記

復命 本管内腸チフス病ノ多發ハ下水ノ不潔井水ノ不良ニ起因スルモノト認定ス理由

一、不潔下水

本區ハ地勢上東方一帶所謂東山地帯ナルヲ以テ西ニ向テ傾斜シ下水ハ疏水ニ向テ流注スルノ狀況ニシテ此ノ如ク自然ノ斜面ヲ有シ排泄頗ル良好水質清潔ナラザル可ラザルノ道理ナルモ事實ハ全反對ニシテ流域人家ヨリ投入セラル、塵芥汚物ノタメ之レガ完全ナル疏通ヲ妨ゲラレ不潔化セラレツ、アルノ状態ナリ

此ノ故ヲ以テ本管内ニ於ケル下水ハ概ネ不良ニシテ殊ニ幾多ノ枝流ヲ併合シ其大ト其長サニ於テ最モ重要ナル音羽川ニ就テ其レガ所見ヲ述ベント欲ス

音羽川ハ源ヲ清水寺境内音羽ノ瀧ニ發シ西流シテ西大谷ノ南麓ヲ通過シ五條大橋ノ東ニ於テ六、五、四、

三、二丁目ノ裏面ヲ貫流シ南行シテ石垣町ヨリ本町二丁目ヲ貫キ再ビ西行シテ袋町通り間屋町正面上ル附近ヲ貫流シテ疏水ニ注入スルモノニシテ其間幾多ノ細流(下水)ヲ併合シ管内ニ於ケル最モ必用ナル下水排泄路ニシテ衛生上至大ノ意義ヲ有スルモノナリ

然ルニ係ラズ此ノ沿線ヲ巡視スルトキハ其不潔不良ナルニ驚嘆スルモノニシテ川幅約六尺川壁ハ粗雜ノ石垣ヲ以テシ川床淺薄泥濘雲狀ヲ呈シ附近人家ヨリ投入セラル、塵芥汚物ハ彼我ニ堆積シ爲メニ流脈ハ右往左折シ不純形容シ難キ泥川ニシテ沿岸ノ人家ハ無論側近ノ家々ヨリ搬入セラル、塵芥汚物ニヨリ眞ニ「ゴモク捨場」ノ觀ヲ呈シ病原菌棲息ニ對スル凡テノ約束ニ適合シツ、アルヲ恐ル、モノナリ

是等ノ不潔物ハ雨雪等ニ依ル増水時ニ際シ混入浮遊シ粗雜ナル川壁地隙ヲ滲透シ西向疏水ニ落チントスルノ途次井水便所ニ侵入シツ、アルモノニシテ眞ニ古今ノ靈域清水ニ發シタル音羽川未ダ數丁ヲ出デズシテ汚濁極度ノ泥溝ト化シツ、アルナリ殊ニ西大谷南側粗林中ニ於テ約一荷ノ人糞ノ放棄セラレアリシヲ一見スルニ及ビ眞ニ「汚」ノ一字ヲ以テ最モ雄辯ニ形容シ盡スモノナリ

此ハ多ク五條七條間ヲ支配スルモノニシテ其他五條以北七條以南ニ於テ共ニ下水一般ニ不潔ニシテ祇園附近ニ於テ稍々留意セラレツ、アルノ狀況ナルモ未ダ以テ満足スベキモノニアラザルナリ

二、不良井水

井水ハ多ク屋内ニ有シ深淺區々ナルモ概テ側壁ヲ有シ外觀上周圍ヨリ注水、崩土ノ墜落等ヲ防止セラレツ、アル狀態ナルモ時ニ龜裂ヲ生シ時ニ青苔雜草ノ粗生シアルヲ見ルモノニシテ尙一般光線ノ射入極メ

テ鈍ニシテ天窓ヲ有スルモノモ恰モ薄暮ノ感アリサレバ天窓無キモノニ於テハ眞ニ暗黒ニシテ水面ヲ窺知シ難キモノ多クアリ殊ニ本管内ハ井水使用者多數ニシテ其位置勝手元ニ鑿井セララルノ關係上隣人ノ便所ト合春のニ存在スル等病毒傳播ノ上ニ於テ誠ニ寒心ニ堪エザルモノナリ加フルニ共同井水ヲ使用スル者比較的多キ狀況ト不消毒共同便所、保菌者ノ介在等聯想スル時特ニ其感ヲ深刻ナラシムルモノナリ

三、耳塚附近ノ大流行

(附圖參照)

本管内ニ於テ此不潔ナル下水ト此不良ナル井水トニ原因シテ本症ノ大流行ヲ發現シタル好適例トシテ昨年度ニ於ケル耳塚附近ノ大流行ヲ舉ゲントスルモノナリ

耳塚附近トハ北ハ五條南ハ七條西ハ疏水東ハ豊國神社ノ線ニヨリ圍マレタル區劃ヲ指サントスルモノニシテ大正十二年六月十七日人〇〇〇ニ端ヲ發シ八月初旬ニ亘ル約五十日間ニ於テ八十幾名ノ患者ヲ集團的ニ發生シ世人ヲ恐怖セシメタルモノナリ此ノ如キ集團的發生ニ就テハ茲ニ主要ナル因子無カルベカラズ是レガ因子ヲ闡明シ病禍ヲ免除スルニ非ラザレバ百年黃河ノ清ヲ俟ツモ不能ナルガ如ク本症ノ終熄ヲ求ムルコト能ハザルナリ茲ニ於テカ之レガ因子トシテ第一ニ指ヲ屈スルモノハ井水ノ不良トナス水使用ニ對スル一般衛生的感念極メテ薄弱ニシテ上水所有者ト雖モ好テ井水ヲ使用セントスルノ傾キヲ有シ之レガ使用者ト罹患者トノ區別ヲナストキハ

罹患者 四、六六% 井水使用者

同 二〇、〇% 上水使用者

同 一六、六% 井水上水併用者

同

六三、三%

井水使用者
井水上水併用者

是レニヨリテ之レヲ見ルトキハ井水使用者ニ於テ罹患%最多キヲ窺知シ病毒ノ井水ニ潜在シツ、アルコトヲ推斷シ得ルモノナリ

殊ニ戸別調査ニ際シ深刻ニ感ゼラル、モノハ露路内ニ於ケル裏長屋ニ(三軒乃至十軒)ヲ共用井戸ヲ使用スル者ニ就テ不幸一人ノ本症患者ヲ發生シタル場合續發的ニ三四名ノ同症患者ヲ發生シタルヲ見ルモノ二三ニ止ラズ尙其他一ヶ月位ノ間隔ノ下ニ二三人ノ同一系統ト認ムベキ傳染經路ヲ以テ發生シアル等菌保有者ニヨリ排出セラレタル病毒ノ井水ニ侵入シ種々ナル機會ニ人體ニ移行シ本症ヲ發生スルモノト認ムルナリ

四、本流行ノ因

前陳ノ如ク爆發的流行ヲ來シタル因子ニ就テハ井水不良ヲ以テ認定スルモノナルモ此ノ井水ヲ不良ナラシムル所ノ起因ニ至リテハ不潔化セラレタル音羽川ノ水ガ井水ニ滲透スルコトニ依リ之レヲ不潔ナラシムルノト尙一ツハ帶菌者ニ依リ排出セラレタル尿尿ノ透入トガ與リテ大流行ノ因子ヲナシタルモノト認ム之レ便所ノ反復的消毒ノ忽ニスベカラザル所以ナリ

此ノ如キ所見ハ本管内一般ヲ通シテ殆ト共通的衛生上ノ缺點ニシテ茲ニ本症ノ乘ズベキ間隙ヲ與ヘラルルモノニシテ速ニ之レヲ浚深シ防疫ニ努力セザルベカラズ

五、水ニ對スル衛生上ノ感念

飲用ト洗用トニ關セズ水ニ對スル衛生上ノ感念極メテ幼稚ニシテ井水ハ之レヲ生水ノマ、飲用ニ供シ其然ラザルモノニ於テモ食器野菜類ノ洗滌ハ井水ニ依ルモノ多ク併用者ニ於テモ冬期水温ノ高キヲ欣ビ上水ヲ嫌ハントスルノ傾ヲ見ルモノニシテ上水井水併用者ハ異口同音ニ飲料ハ上水ヲ使用スルモ、食器野菜ノ洗滌洗濯ニハ井水ヲ使用シツ、アルコトヲ告グルモノニシテ之レ最モ危險ヲ痛感スルモノニシテ有菌性不良水ガ之等ヲ介シ人體ニ侵入スルコトニヨリ介達性ニ本症ヲ惹起スルモノト認定スルナリ此ノ如ク水ニ對スル衛生上ノ感念一般ニ幼稚ニシテ自ラ病毒傳染ノ好機ヲ與ヘツ、アルモノナリト云フモ過言ニアラザルヲ信ズルモノナリ

六、職業的關係

千差萬態ニシテ本症トノ連鎖ヲ認ムベキモノナシ尙野菜物其他ノ飲食物等經口の物質ニ對スル傳染的顧慮ニ對シテハ特別ナル系統ヲ發見セズ

七、結

論

常ニ成書ガ傳染病發生ニ對シ下水井水關係ノ重大ナル意義ヲ有スルモノナルコトヲ教示スルガ如ク之レヲ以テ直ニ本管内衛生ノ缺點ヲ指摘セラル、如キ現況ニシテ一言以テ之レヲ盡セバ

下水ノ不潔

井水ノ不良

ヲ以テ腸チフス病發生ノ因子ト斷ズルモノニシテ從テ之レガ防疫上善處スルノ途ハ

下水ノ浚清
井水ノ消毒

ナリ此ノ兩者ニシテ反復實施セラル、ニ於テハ本管内ニ於ケル本症ヲシテ半減シ得ルモノナリト確信ス
ルモノナリ尙加フルニ豫防注射ヲ併行スルニ於テハ効果一層著シキモノナリト認定ス

備考

大正十二年度本管内チフス患者數

二八六人

死亡者

六六人

豫防注射 實施セズ

音羽川水細菌検査成績

一CC中細菌數
五二七、〇〇〇

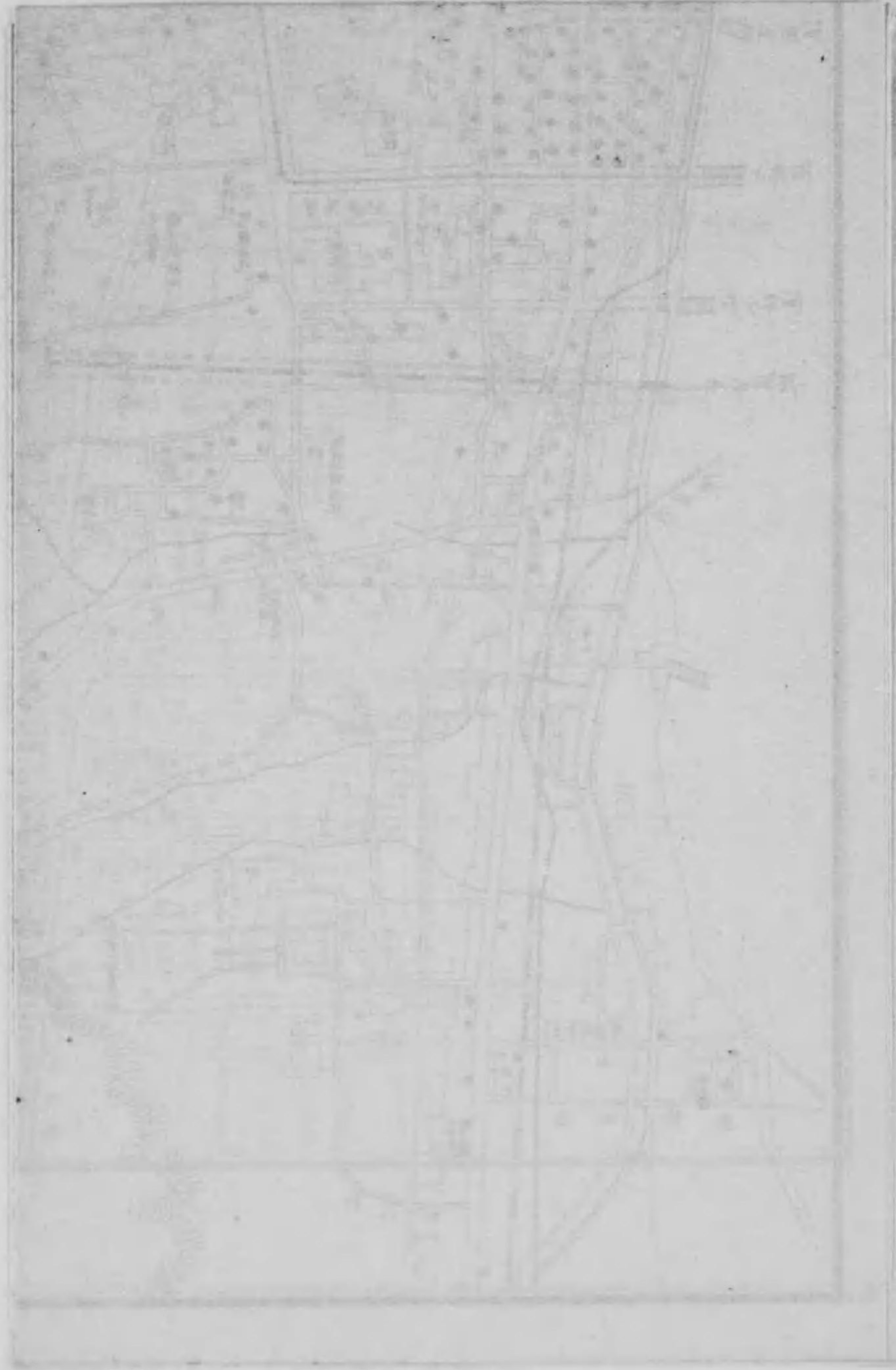
大腸菌存否
+

自大正十二年十一月松原署管内腸窒扶斯患者表
至大正十三年一月

五條大橋派出所管内

井水上水用ノ別及併	職業	發病月日	診斷月日	轉歸月日	住所	氏名	年齢
上水	箱屋	十一月四日	十一月十四日	十二月廿一日	大和大路五條上ル	安〇〇〇	四九
井水	陶器	十一月一日	十一月廿五日	十二月廿五日死	同馬町下ル	井〇〇〇	六一
同	人形職	十二月廿二日	十二月廿九日	一月廿二日	同西棟梁町	北〇〇〇	二二
同	菓子	十一月六日	十一月廿五日	十二月廿一日	同	八〇〇〇	四五
同	無	一月	一月廿五日	入院中死	同	福〇〇〇	九
同	金物	十月十日	十一月六日	十一月九日死	耳塚通正面上ル	黒〇〇〇	三四
同	電機職	同二十日	同	十一月十日	同	瀬〇〇〇	三一
同	扇骨	十一月十七日	同廿七日	十二月廿一日	同	永〇〇〇	一六
上水	大工	同三日	十二月廿六日	一月十五日	大黒町通五條下ル	小〇〇〇	三一
併用	樽職	同一日	十一月十五日	入院中	本町通五條上ル	佐〇〇〇	一四
井水	表具	同廿二日	十二月一日	同	同	園〇〇〇	三二
同	小間物	同廿七日	同八日	同	同	字〇〇〇	三五
同	金物	十二月九日	同十七日	同死	同	小〇〇〇	一一
同	同	一月四日	一月十七日	一月廿五日	同	西〇〇〇	二四

大佛前派出所管内



併 用 建 築	同 表 具	同 無	上 水 不 明	併 佛 家 族 轉 宅 具	上 水 無	井 水 米	同 蒲 鉢	併 無
同 十 日	一 月 一 日	十 二 月 四 日	同 十 八 日	十 一 月 十 日	同 十 七 日	同 廿 七 日	十 一 月 九 日	一 月 四 日
同 二 十 日	一 月 十 二 日	十 二 月 九 日	同 廿 五 日	十 一 月 廿 四 日	同 三 十 日	同 三 十 日	十 一 月 十 六 日	一 月 十 二 日
同 入 院 中	入 院 中	同 廿 一 日	十 二 月 七 日	同 死	入 院 中	十 二 月 廿 一 日	死	入 院 中
粟 田 口	白 川 橋	仲 之 町	石 泉 院 町	北 水 元 町	高 畑 町	石 橋 町	林 下 町	新 門 前 通
大 ○ ○ ○ ○	岡 ○ ○ ○ ○	伊 ○ ○ ○ ○	南 ○ ○ ○ ○	島 ○ ○ ○ ○	小 ○ ○ ○ ○	江 ○ ○ ○ ○	宮 ○ ○ ○ ○	上 ○ ○ ○ ○
三 三	三 一	二 一	三 五	二 一	三 〇	一 四	一 七	

古門前派出所管内

圓山派出所管内



井	上	併	上	同	同	併	同
水	水	水	佛	家	無	表	同
光	無	具	宅	明	無	具	同
池	具	具	宅	具	具	具	同



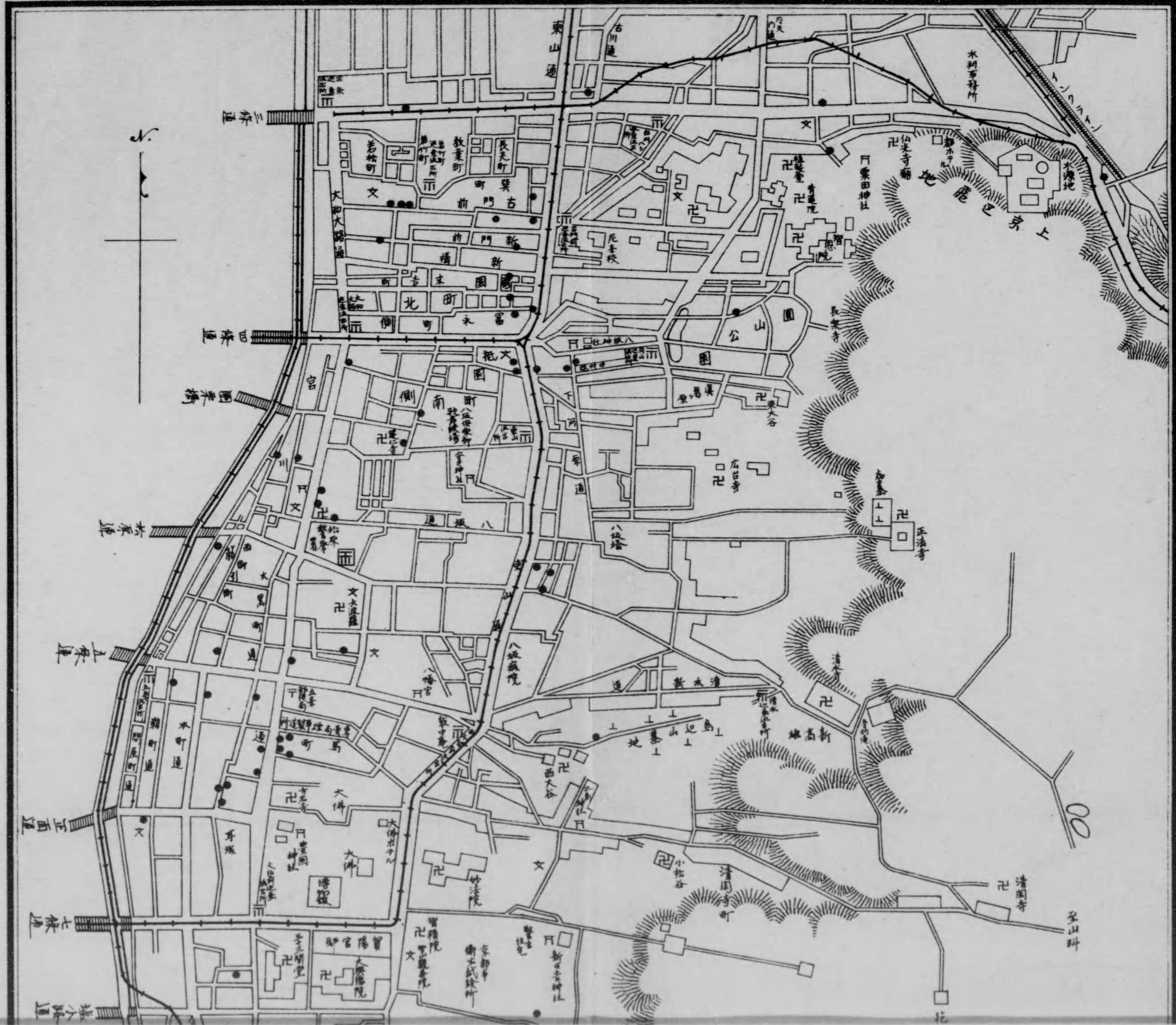
松原警察署管内

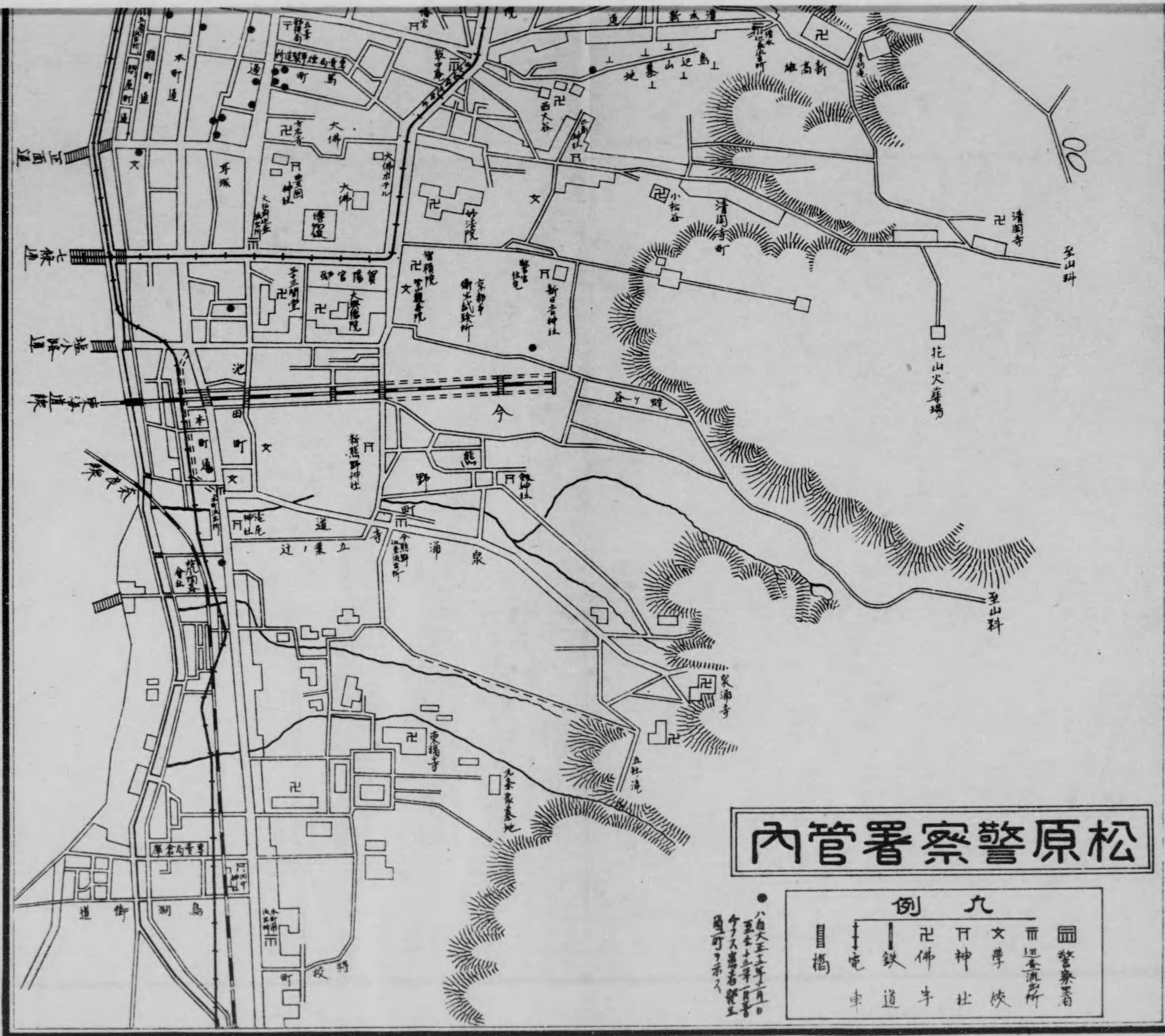
九例

警察署	文庫校	神社	佛堂	鐵道	電線	橋
-----	-----	----	----	----	----	---

八日正午至十日正午
 本署 十日正午
 十日正午後發生
 同町可示入

併用	同	同	上水	併用水	上水	井水	同	併用
建築	表具	無	不明	家族轉宅	佛具	無	米	蒲鉾
同	一月十日	一月十日	十二月四日	同	十一月十八日	十一月十日	同	十一月廿七日
同	一月二十日	一月二十日	十二月九日	同	十二月廿五日	十一月廿四日	同	十一月三十日
同	入院中	入院中	同	十二月廿七日	同	十二月廿七日	同	十二月廿七日
粟田口	白川橋	仲之町	石泉院町	北木元町	高畑町	石橋町	林下町	新門前通
大	岡	伊	南	島	小	江	宮	上
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	三一	二二	三五	二二	三〇	一四	一七	一七



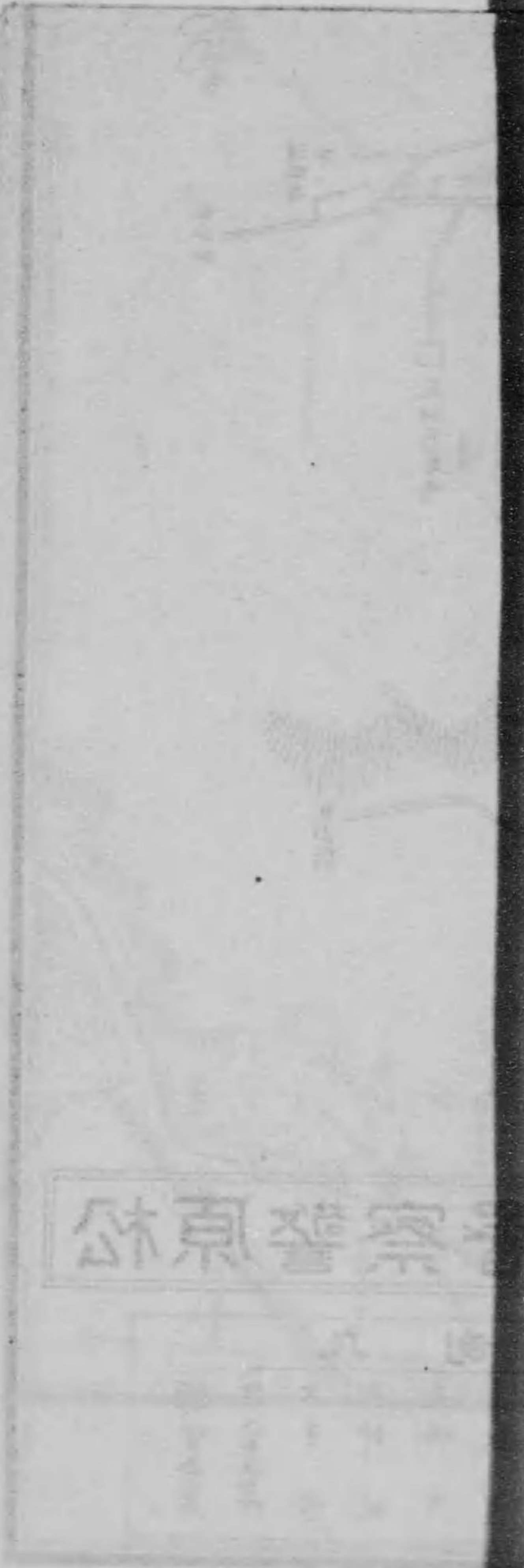


松原警察署管内

九例

警察署	文庫校	佛宇	鐵道	電	橋
○	■	卍	—	—	—

八日大正五年五月
至十五年
今日大正五年五月
圖訂了示人





○西陣署管内

(大正十三年十月二日 蜂須賀防疫醫
京都府知事宛)

復命

記

復命 本管内本症ノ流行ハ保菌者ニ依リ汚染セラレタル水の關係(井水、下水、吸込等)ノ不淨ニ起因スルモノト認ム

理由

一、地勢

北ハ大文字山ヨリ鷹野、船岡山ノ線ニ亘リ南ハ三條通りヲ以テ界シ東ハ堀川ノ線ヲ以テ西ハ衣笠山、等持院、月ノ輪町ノ線ヲ以テ圍周セラレタル區域ヲ指スモノニシテ北ヨリ南ニ亘リ市街地トシテ稍々急ナル斜面ヲ呈ス

戸數 二万八千戸
人口 十三万人

ナ有シ東部中部ハ商家多ク西部及西南地帯ハ田圃ニシテ農業者多シ

内河川溝渠トシテ舉グベキモノハ

一、堀川ハ管區ノ東側ヲ南流シ

二、紙屋川(天神川)ハ管區ノ中央稍西ニ偏シテ南ニ貫流ス

三、宇多川ハ鷹ヶ峰方面ニ於テ紙屋川ヨリ分レ西部ヲ南流シ一條通り南町橋ニ於テ西折シテ花園村方

面ニ流入ス

共ニ北ヨリ南ニ向ヒテ管内ヲ貫流シ其間東西ニ穿堀セラレタル幾多ノ溝渠ヲ之レニ流注セシメ下水排出ノ便ニ供セラレツ、アルナリ

其他「明ヶ放シドブ」トシテ

一、鞍馬口通りヲ東流シテ堀川ニ入ルモノ

二、西ノ京御旅神社附近ヲ南流スルモノ

三、細菌検査所前ヲ西流スルモノ

四、施樂院前ヲ南流スルモノ

五、北野天神東側ヲ南流スルモノ

六、堀川ヨリ分岐シテ二條宮ノ北ヲ西流シ刑務所裏手ヲ經テ千本通りヲ横切シ其西部ニ於テ二條驛附

近ニ向テ流下スル稍々大ナル溝アリ

一、患者ト使用水ノ狀況

大正十二年度發生腸窒扶斯患者數ト使用水ノ狀況左ノ如シ

發生患者數	三一二	上水使用者	一三五(四、三二%)
		井水使用者	八六(二七、五%)
		上井併用者	九一(二九、〇%)
死亡者	八〇		一七七(五六、一%)
			(二五、六%)

同大正十三年七月末日狀況

發生患者數	一三八	上水使用者	五〇(三六、二%)
		井水使用者	五二(三七、六%)
		上井併用者	三六(二六、〇%)
死亡者數	三三		八八(六三、七%)
			(二三、九%)

此ノ内上井併用者ニ就テ其使用狀態ヲ調査スルニ多クハ井水使用ニ傾キツ、アルナリ即チ彼等ハ本症ニ罹患以來井水ノ危険ナルヲ知リ専ラ洗濯用、撒水用ニ使用シ飲料ニハ必ス上水ヲ使用シテ其間嚴然タル區別ヲナシツ、アル口吻ナルモ實際ハ水温水味ノ關係ヨリ因襲ノ久シキ俄ニ是正シ難キヲ窺知スルモノニシテ偶々調査交談中兒童等ノ釣瓶口ヨリ鯨飲スル者アルヲ見ルニ及ビ一層其ノ感ヲ深フスルモノナリサレバ上井併用者ト純井水使用者トノ間大ナル軒輕ナキヲ認ムルモノニシテ是レ井水及上井併用者ニ本症患者數ノ高キヲ示ス所以ナリ此故ヲ以テ一度上水ノ設備ヲ得ハ井水使用ヲ嚴禁スルニ非ラザレバ上水設置ノ意義ヲ薄弱ナラシムルモノナリ殊ニ洗濯用ニ使用スルナレバ井水使用ニ於テモ何等危険ナキ如キ感念ノ所有者多キニ於テハ切實ニ其必要ヲ感ズル者ナリ

三、井及井水使用ノ狀況

井ハ多ク勝手元ノ一側ニ穿堀セラレ光線ノ射入極メテ鈍ニシテ多クハ水面ヲ窺知シ難シ（露路内生活者及長屋生活者ニ於テハ井ハ多ク交通路ノ中央ニ位置スルヲ以テ屋内井ニ比スレバ明ナルモ塵芥異物ノ浮遊スルヲ見ル）中ニハ隣家ト共同使用ノ目的ヲ以テ兩家ノ接合地帯ニ穿堀シアルモノヲ見ル此ノ故ヲ以テ一側ニ本症ノ發生ヲ見シカ容易ニ井水ヲ介シテ感染シタルモノナリト疑フベキ一例トシテ

上長者町千本東へ入ル松〇〇〇

ノ如キハ隣家ト共同ニ穿堀セラレタル井水使用者ニシテ初メ隣家東〇〇〇〇方ニ初發シ間モ無ク罹患シタルガ如シ

構造ハ一般ニ淺クシテ二間位ニシテ水面ニ達スルモノ多シ中ニハ十間以上ノ深度ヲ有スルモノアルモ極メテ稀ナリ側壁ハ石垣、又ハコンクリ壁ヲ以テ加工セラレタルモノ殆ド無シ自然穿堀ノマ、ニシテ周圍ヨリ滲透スル滴狀ノ水光、滴聲等ヲ見聞シ尙水苔様ノ雜草ノ密生シオルヲ見ルモノアリ此ノ如キ狀態ナルヲ以テ雨雪ノ季節ニ於テ濁濁惡臭ヲ呈シ飲用ニ堪ヘザルコトアリト云フ（上、下長者町、出水通りニ於テ此ノ言ヲ聞ク）加フルニ勝手元ニ接近セルノ關係上流シ下ヲ通ル洗ヒ流サレタル不潔水ノ注入スルハ勿論ニシテ此等不斷ニ井水ヲ不良ナラシメツ、アルモノト認ム

露路長屋ノ生活者ニ於テハ三軒乃至十軒ニテ共同使用スルヲ以テ其使用ノ頻度ナルタメ常ニ輕濁ヲ呈シツ、アルモノヲ見ル

殊ニ不潔ヲ痛感スルモノハ釣瓶ニ附セラレタル繩若クハ之レノ代用物ニシテ始終水分ヲ以テ濡サレアル

ヲ以テ繩ハ水ヲ含デ握レバ恰モ海綿ヲ搾ルガ如シ而シテ繩屑ヲ水面ニ落シ鐵鎖ハ褐色ノ鏽ヲ附シ之レ等ガ水汲ミノ度毎ニ諸人ニ依リテ穢サレ引テ井水ヲ不良ナラシムルコト甚シキモノナリ

井水使用者ノ井水ニ對スル衛生的感念ハ極メテ薄弱ニシテ冬期水温ノ高キト夏期冷ニシテ美味ナリト云フヲ以テ好デ使用セラレオル狀態ニシテ一度本症ニ罹患シ若クハ關係者ヨリ其レガ危險ノ井水ニ存在スルモノナルコトヲ教ヘラルト共ニ周章上水ヲ設備シ井水使用ヲ廢止スルガ如キモ實際ハ一時的ニシテ亦々舊習ニ復シ上水所持者ニ於テ尙井水ヲ使用セントスル者多シ況ンヤ未罹患者ニシテ全然本症ノ内容ヲ知ラザル者ニ於テハ井水使用ヲ以テ何等意ニ介セザル者多シ然ノミナラズ上水ノ設備アルニ於テハ之レヲ使用スルコト少キニ關セズ信賴ノミ徒ラニ高クシテ平素頻々使用スル井水、流元、溝渠等ニ對スル衛生的感念却テ薄クシテ損傷破壊ニ對シ自然ニ放置シ浚渫修理等ヲ加ヘザルヲ以テ一層井水ヲ不良化セシメツ、アリ

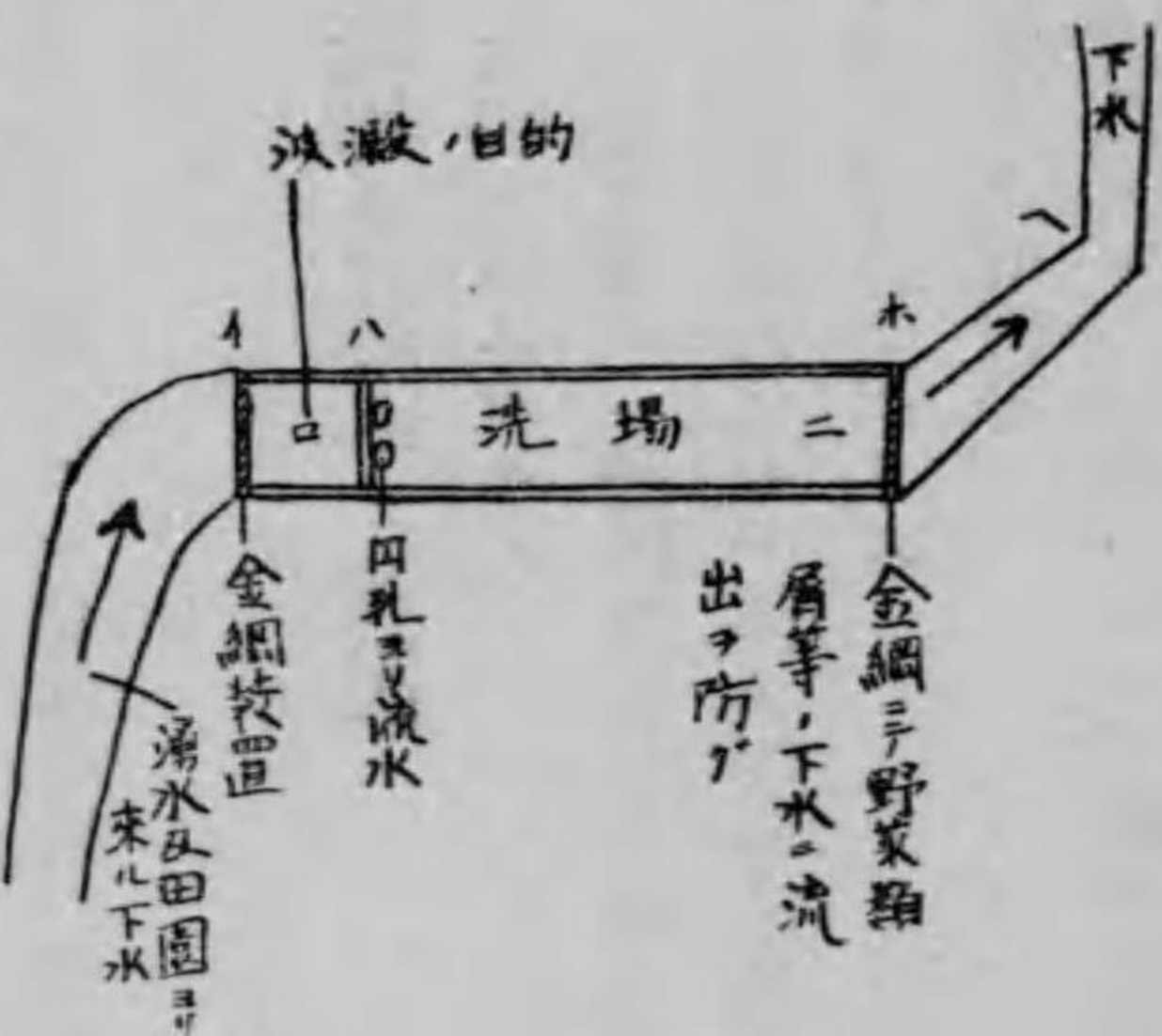
四、洗場及洗滌ノ狀況

(一) 北部ニ屬スルモノ

〇ロクベ池洗場、ハ船岡山北麓大德寺南ノ貯池ニシテ約二百坪ノ面積ヲ有スルモ池水ノ排泄路ヲ有セザルヲ以テ腐敗綠色化シ一種ノ臭氣ヲ有シ溜濁ノ内ニ子子ノ蠢動スルヲ見ル程度ノモノニシテ現在使用セラル、如キ形跡ヲ認メズ

〇紫野郷ノ上町洗場

本管内洗場トシテハ隨一ニシテ稍々加工セラレタル形ヲナシ道路ヲ入りタル北側ニアリテ水利ヲ其附近



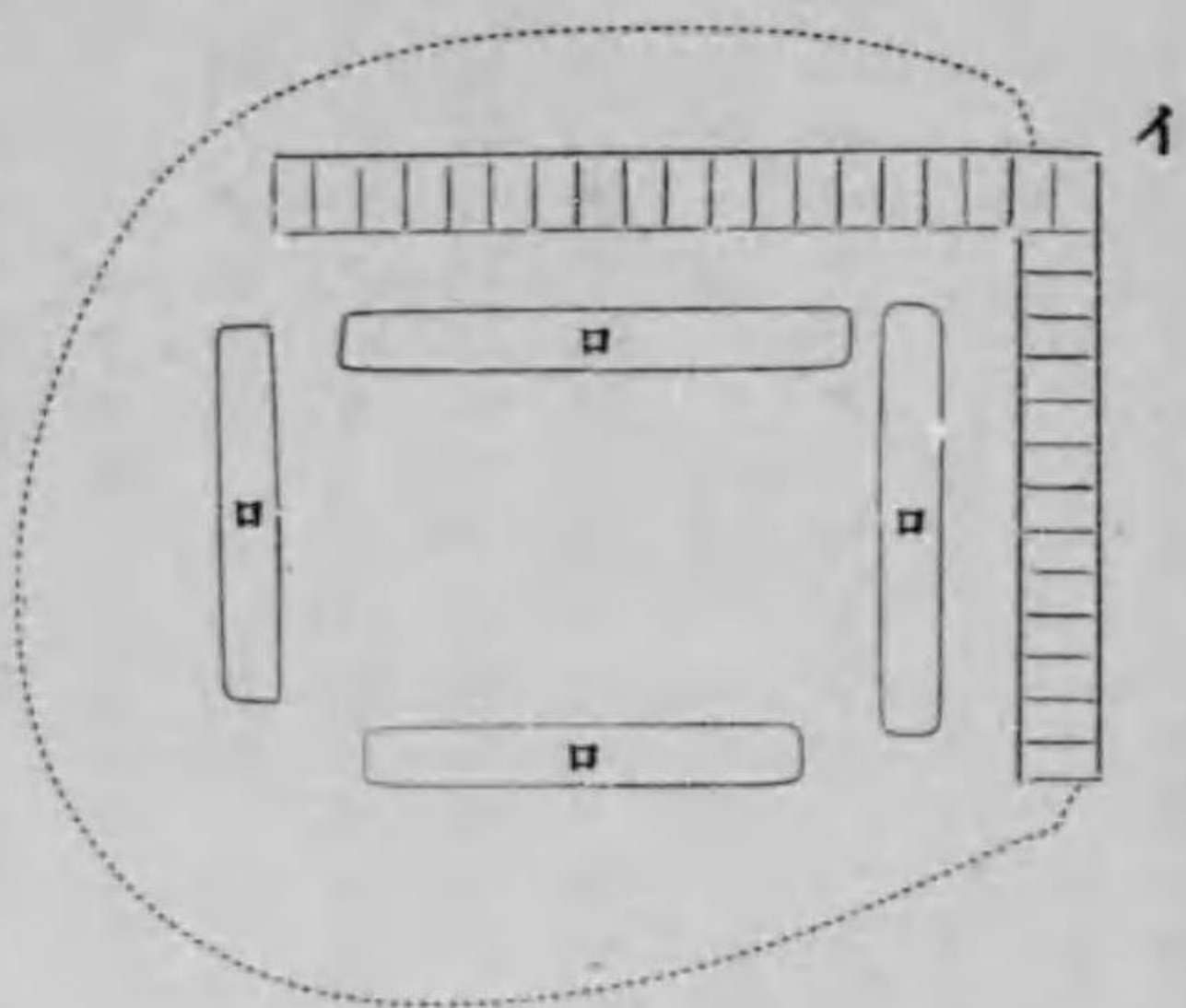
ヨリノ湧水及下水(市ノ北端ニシテ下水ハ田圃中ヲ流下スル溝渠ヨリ移行スルヲ以テ水清澄ナリ)ニ取リイニ於ケル金網装置ニ依リテ水中ニ浮遊スル塵埃ヲ遮ギリ(ロ)ニ一時的ニ貯留シ(ハ)ニ穿タレタル圓孔ヲ通ジテ(ニ)ノ洗場ニ流出スルモノナリ而シテ洗ヒ汚レタル水ハ(ホ)ノ金網装置ニヨリテ其野菜屑ヲ遮ギリ不潔水ノミ下水ニ移行スルモノナリ
 (ホ)ニ於テ集マリタル屑ハ一所ニ集積シ養鶏家豚ノ飼料ニ供セラル、如シ

洗場トシテ使用シ得ラル部分ハ長サ三間巾三尺位ノ細長キ「タ、キ」ヲ以テ堅固ニ作製セラレ相對シテ洗ヒ得ルモノニシテ之レニ間口四間奥行一間ノ屋蓋ヲ設ケ雨雪ヲ避クル設備ヲ有ス

(二) 南部ニ屬スルモノ

二條裏洗場、二條驛ノ西北ニ位シ約三丁餘ヲ離レタル個所ヨリノ湧水ヲ利用シ間口四間奥行一間屋蓋ヲ有スル洗場ニシテ水冷ニシテ豊富ナルモ濁濁セリ

星ヶ池洗場東月光町ノ東、部ニ位シ間口三間奥行一間ノ形ニ作ラレタル屋蓋ヲ有ス水利ハ小ナル池ニシテ湧出スルト云フモ水少シイハ屋蓋ヲ有スル池岸ニ作ラレタル洗場設備ニシテ(ロ)ハ池中ニ木板ヲ浮ベ之ニ乗り相對向シテ洗滌ニ從フモノナリ



(三) 西部ニ屬スルモノ

- (イ) 一條通り小松池附近ノ瀦水
- (ロ) 大將軍通り南町橋(宇多川)附近
- (ハ) 等持院東田圃間ノ細流
- (ニ) 平野宮本町附近路傍ノ瀦水
- (ホ) 宮北町附近下水
- (ヘ) 寺ノ内通り御前通り西へ入ル高橋(紙屋川)附近

點線ハ洗滌池

然レドモ水不潔ニシテ泥土深ク子子ノ蠢動スルヲ見ル尙其北隅ニ農家ノ肥料用ノ汚物貯水場ノ如キモノアリテ是レヨリ始終黃色ノ腐敗水ヲ注流シ極メテ不潔ナルヲ以テ禁止スベキモノナリト考フ

此等ハ北部及南部ニ見ルガ如キ屋蓋(タ、キ)等ノ設備ナク單ニ川溝ノ稍々巾廣キ水量ノ比較的豊富ノ個所ヲ撰ビ洗場ノ用ニ供シツ、アル實況ニシテ換言セバ少シク水量ノアル地ハ直ニ洗場ナリト云フ狀況ナリ特ニ宇多川流域及ビ平野神社西北一帶ノ農家ノ前ヲ流ル、巾二尺ヲ有スル溝ノ如キハ好デ洗場ノ用ニ供セラル、如シ

(四) 東部ニ屬スルモノ

堀川ハ大ニシテ水豊富ナルモ染料色素ノ爲メニ不斷黒紫色ニ着染セラレツ、アルヲ以テ野菜類等ノ洗滌ニ供セラレオルヲ見ズ

一般洗滌ノ狀況ハ極メテ粗雜ニシテ唯タ市場ニ販賣シ得ルノ外觀上根部ノ泥土ヲ洗ヒ落スニ止マリ葉部ハ單ニ水ヲ潜ラスノミナリ偶々洗場ニ於ケル青物取扱人ニ就キ今少シク設備ノ完全セル洗場ヲ作り上水ヲ以テ洗滌シ得ルノ裝置ニシテハ如何ト尋ヌルニ彼等ハ異口同音ニ青物洗滌ニ對スル上水ノ不可ナル點々ヲ擧ゲテ曰ク青菜ノ如キハ一日位ニシテ萎ミ里芋ノ如キハ半日ニシテ黒褐色ヲ呈シ宛然五六日モ經タ古キ芋ノ如ク外見ヲ呈スルモノニシテ葱類ノ如キハ白キ莖部ガ黄色ヲ呈スルモノアリト要スルニ青物ヲシテ早ヤク古物ノ如キ外見ヲ呈シ來ルヲ以テ上水使用ヲ禁忌スル如シ

此ノ如ク洗滌ノ狀況ハ極メテ粗雜ナルヲ以テ生野菜ヲ嗜好スル者ニ於テハ極メテ入念ニ洗滌セザルベカラサル所以ヲ指導スベキモノナリト信ズ

五、吸込ノ狀況

本管區ハ市ノ繁榮部ニ屬スルニ關セズ比較的吸込ノ多數ナルハ驚異ヲ感ズル所ニシテ各家概ネ大小不同

ナルモ一個乃至三個ノ吸込ヲ有シ小ハ一尺四方ヨリ大ハ六尺四方位ノ大サヲ有シ一個又ハ三四個ノ石板材又ハ木材ヲ以テ被覆シ又ハ明ケ放シアルモノモアリ試ミニ杖ヲ以テ深サヲ計ルニ泥土ヲ通シ五寸位ヨリ五尺以上ニ及ブモノアリ腐敗性惡臭ヲ放散シ子子蠢動シ極メテ不潔ナリ本管區ノ中央部人家稠密ナル部分ニ於テ、下水路ノ配置不完全ナルタメ勢ヒ自家ニ吸込裝置ヲ作り惡水自然ノ吸收ヲ計リオルモノ、如シ

吸込所有者ニ於テモ該裝置ノ不潔ニシテ非衛生的ナル所以ヲ自覺シ埋没ノ希望ヲ有スル如キモ排水路穿堀ニ要スル經費關係及隣家地域ヲ通過セシメザルベカラザル關係上然諾ヲ得難キモノアリ爲メニ意アルモ在昔經過シツ、アル者アリ是等ニ吸込埋没ト同時ニ一方排水溝渠穿堀ニ對スル便宜ヲ附與スルヲ適當ナリト認ム

六、溝渠ノ狀況

大體ニ於テ本管內ノ溝渠ハ多クハ暗渠ニシテ所謂「明ケ放シドブ」少シト雖モ稍々大ナルモノトシテハ前陳地勢ノ條下ニ擧ゲタルモノ、如シ

一般溝渠ハ多ク街路ノ兩側若クハ一側ニ設ケラレ僅ニ紙屋川ニ流注スルモ多クハ東流シテ堀川ニ入ルモノ多シ覆蓋設備ニ付テハ各自家ノ負擔ナルモノ、如ク戸前ニ依リ石材、木材、コンクリ板材等種々ナルモ概ネ被覆セラレアルヲ見ル側壁ハ石垣又ハ「コンクリ」ヲ以テ塗造シアルモ破損セル個所ヲ諸所ニ見受クル所ニシテ此等ヲ滲透シテ下水ノタメ側壁ナキ井水ヲ不良ナラシメルコト想像ニ難カラサルナリ殊ニ雨雪出水ノ時特ニ然ルヲ認ム

試ミニ覆蓋ヲ除ケバ雲泥狀ナナル底部及ビ塵芥汚物ノ爲メ水路ヲ狹隘ナラシメ又ハ段落ナシテ疏通ナラザルモノ多シ殊ニ上、下長者町通り、鞍馬口通り、出世稻荷後方御池通り、北野神社東溝、御前通り附近ニ於テ其著シキヲ感ズルモノナリ尙ホ覆蓋ノ破損セル個所ニ於テハ盛ニ塵芥ヲ投棄シ汚穢物ノ山積シ水流ヲ狭メツ、アルヲ見ル尙本管内ハ染物業多キヲ以テ下水ハ多ク色素ノタメ染色セラレ黒紫色ヲ呈シ一層不淨ノ感ヲ深カラシム

七、塵芥捨場

本管区内塵芥捨場ハ初メ船岡山ノ北西部ロクベ池西方ノ稍々廣大ナル地域ヲ限リ搬入セラレタル如キモ地點ノ北部ニ邊スルト運搬ニ不便ナルタメ現在ニ於テハ葛野郡山ノ内村ニ設ケラレタル溜場ニ運バル、如キモ運搬度數ノ稀ナル爲メ遂ニ明ケ放ドブニ投棄セラル、如ク引テ之レガ暗渠ニ流入シ其レガ疏通ナ不良ナラシムルノ現状ナリ

宇多川南町橋附近、紙屋川下流(本管区内ニ於ケル)

刑務所南溝、鞍馬口通り

等特ニ塵芥ノ投入劇シキヲ見ル

其他西ノ京方面田園内ニ肥料ノ目的ヲ以テ塵塚ヲ作り堆肥セラル、モノアリ

八、一般衛生狀況

患者發生狀況ニ依リ各家ニ於ケル衛生上ノ缺點ヲ探求セントノ目的ヲ以テ別紙患者表ニ照シ戸別のニ調

査セル概況ヲ擧ゲンニ

一、北部トシテ今出川以北ニ於テハ盧山寺通り鞍馬口通り等市ノ北邊ニ位スルノ關係上比較的家屋内ニ餘裕アリ便所、流元、吸込等相當ノ距離ヲ以テ作ラレアルモノ多キモ上水使用者少ク井水使用者多キヲ見ル患者發生以來井水ノ危険ナルヲ教ヘラレ上水ヲ設ケタル者アルモ未ダ因襲ヲ脱シ難キ者多シ井水ハ一般ニ水淺ク側壁ノ加工シアルモノ少シ所ニ依リ微漏ヲ呈シオルモノヲ平然トシテ飲料ニ使用シツ、アリ患者發生狀況ハ露路生活者ハ中部南部ニ比シテ少ナキモ然ラザル者ニ於テハ一家族七名ノ内時ヲ同フシテ六名ノ患者發生セルモノアリ其他二人以上發生セル者多ク認ムル所ナリ(患者表參照)

二、中部トシテ今出川南丸太町以北ニ於テハ本管區ノ中央樞地ニ位スルノ關係上人家櫛比シ屋内狹隘ニシテ便所流元井戸等極メテ接近セルノ位置ニアリテ殆ト並列セルモノ多シ吸込装置ヲ有シ下水ノ排出極メテ不良ニシテ下水等埋没シテ用ヲナササルモノアリ管内多發セルハ露路内生活者ニ多ク三十軒ニテ一個ノ共同井水ヲ使用シ便所ハ三軒ニ一個位ノ比ニ有スルモ共同使用ノ常トシテ責任者無キヲ以テ不潔ヲ呈ス上水使用者多キモ又井水ヲ有スルモノ多ク洗滌ニハ好テ使用スルガ如シ

三、南部丸太町以南ニ於テハ一般ニ土地低ク濕性ヲ帯ビ出世稻荷東側附近ニ於テハ殆ト軒ヲ並ベテ發生シ之等共ニ井水使用者多ク家屋ノ奥行極メテ淺ク井水ハ便所ト並立シ若クハ隣家ノ便所ト脊向的ニ設ケラレタル井水等アリテ吸込ヲ有スルモノ多シ尙御池通り姉小路通りニ於テハ上水使用者多キモ又井水ヲ所持スルヲ以テ不用意ノ内ニ使用セラレツ、アル如ク當部ニ於テモ吸込ヲ有スルモノ多シ

九、保菌者ノ檢索

本管内ニ於ケル凡テノ水の關係(井水、洗場、吸込、溝渠)ヲ調査シ患者發生ノ狀況ニ照合スルトキ直覺スルモノハ保菌者ノ問題ナリ積年ノ本症流行ニ因リ多數ニ上リタル該者ガ比較的薄キ吾人ノ警戒線外ニアリテ不斷ニ病毒ヲ排出シ廣汎のニ土質ヲ侵襲シ土地自體ヲ病毒ニ濃染セシメ引テ一種ノ風土病化シツ、アルヲ感ズルモノニシテ此ハ人的關係ニ於ケル傳染機轉ヲ超越シテ本土ニ棲息スル者ニシテ衛生上ノ約束ヲ輕視シタル場合其缺陷ニ乘ジテ本症ヲ發起スルモノナラントノ感ヲ深フスルモノナリ殊ニ素質ノ上ニ於テモ本症ニ對スル感受性ヲ高メ從テ罹患%ヲ強メツ、アルモノナランカ一家内ニ二、六人ノ患者ヲ同一時期又ハ極メテ接近シタル時期ニ於テ發生シ居ルヲ見ルトキ家族傳染ヲ疑フノ以前先ツ水ハ土地ヲ通シテ現流行ヲ來シツ、アルモノナラントスルモノナリ此ノ意味ニ於テ水土ヲ穢ス所ノ保菌者ノ檢索ヲ以テ第一次ノ防疫手段タルヲ感ズルモノナリ(患者表參照)

十、結

論

- 一、保菌者ノ檢索
- 二、上水使用奨勵
- 三、井水ノ消毒(共同使用者ニハ特ニ頻回)
- 四、釣瓶井戸ヲ嚴禁(覆蓋ヲ設ケポンプ裝置ノコト)
- 五、吸込ノ埋没(然ラサレバ最寄溝渠ニ排路ヲ設ク)
- 六、下水ハ暗渠タルト共ニ覆蓋ハ取脱シ得ル設備
- 七、洗場ノ設置(湧水地帯ヲ求メ)

腸チフス患者調

大正十二年度

使用水ノ區別	發病年月日	診斷月日	轉歸月日	職業別	住 所	氏 名	年 齡
上	十二年十二月廿六日	一月三日	三月六日	織職	五辻通千本西入	木 〇	三七
上	同 廿八日	同 五日	二月六日死	油商	智惠光院盧山寺上ル	伊 〇	一四
上	同 廿五日	同 六日	三月廿六日	左官	千本通下立賣上ル	永 〇	四八
井	同 廿七日	同 十日	二月十六日	手傳	御前通今小路上ル	山 〇	二七
井	同 十一月廿七日	同 十六日	同 二日	青物	西堀川通下長者町上ル	外 〇	五三
上	同 十五日	同 廿三日	三月九日	履人	西ノ京北聖町	藤 〇	二一
上	同 廿四日	同 三十日	二月廿七日	左官	千本通下長者町上ル	本 〇	二〇
上	同 廿四日	同 廿一日	同 廿三日	同	今出川通七本松西入	藤 〇	四六
井	同 廿二日	同 廿一日	三月廿三日	學生	葎屋町通元醫願寺下ル	木 〇	一六
上	同 二十日	二月三日	同 十日	織職	盧山寺通千本西入	河 〇	一七
上	同 十六日	同 十日	同 十六日	同	同	河 〇	一四
上	同 十六日	同 十日	二月廿五日	同	日暮通中立賣下ル	今 〇	三一
井	二月五日	同 十日	三月十四日	會社員	西ノ京西月光町	橋 〇	一六
上	一月廿五日	同 十三日	同 十三日	友染職	新シ町姉小路上ル	堀 〇	一一
井	二月四日	同 十三日	四月十日	蒔繪職	西ノ京中合町	山 〇	三二
上	同 六日	二月十五日	二月廿七日死	菓子商	大宮通上長者町上ル	大 〇	六八

○井	○井	○井	井	上	上	○井	○井	井	上	上	井	上	上	井	上	上	上	上	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
廿八日	廿七日	廿五日	廿二日	二十日	十九日	二十日	十八日	二十日	十五日	十六日	十五日	十一日	一日	十三日	四日	一日	同	同	
同	同	同	同	十月五日	同	同	廿九日	同	廿八日	同	廿七日	廿六日	同	十九日	十八日	十七日	同	十六日	
同	同	同	十一月二十日	十月五日死	同	同	十一月二十日	十月五日死	十一月十三日	十二月四日	同	同	同	同	同	同	同	同	
同	同	同	針製造	織職	水車車	同	古物	織職	料理	雇人	無	無	大工	掃除人	無	米商	仲仕	燃系	
同	同	同	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	堀川通今出川下ル	
田	田	田	佐	小	山	尾	尾	木	松	山	原	竹	實	川	野	柴	高	藤	北
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四	一	一	一	三	一	一	四	四	二	一	六	五	二	四	二	一	三	二	八

六一

上	上	上	上	上	○上	○上	○上	上	上	○上	○上	上	上	○上	○上	井	井	上	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八日	七日	六日	四日	九日	二日	一日	二日	三日	六日	四日	九月三日	八月三十日	九月六日	八月廿六日	九月一日	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十五日	同	十四日	十二日	同	十一月十一日	十月九日	九月廿四日死	同	同	十月十九日	九月十三日死	十月十九日	同	九月廿六日	十月十二日	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
無	同	織職	履人	捺染	同	同	大工	看護婦	官吏	同	織職	大工	織職	同	染物	織職	官吏	無	織職
大宮通寺ノ内上ル	御前通今出川上ル	一條通六軒町西入	西堀川通上長者町下ル	七本松通下立賣上ル	同	同	今出川千本西入	下長者町通淨福寺東入	松屋町丸太町下ル	同	御前通今出川下ル	上長者町淨福寺西入	盧山寺通千本東入	同	西堀川通丸太町下ル	御前通今出川下ル	五辻通七本松西入	今出川通御前通東入	堀川通寺ノ内上ル
北	岡	湯	田	上	和	和	和	川	松	小	小	鹿	上	紀	紀	今	小	細	淺
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二	二	一	一	三	八	四	一	一	三	七	一	二	二	二	一	五	二	三	二

六〇

井	上	上	井	井	上	上	上	○上	○上	○井	○井	○井	○井	○井	○井	井	上	上	上
							井	井	井	井	井	井	井	井	井		井	井	井
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十三日	十二日	十六日	五日	十一日	八日		十日	十三日	八日	二日	五日	十月六日	三十日	九月廿七日		十一日	五日	十一日	十二日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	廿二日	廿一日		二十日		十九日								十八日		十七日	十六日		
十二月十二日	同 二十日	同 廿四日	同 廿七日死	十二月二十日	十月廿七日死	十一月十三日	十二月廿四日	同	同 廿七日	同 廿六日死	十一月廿四日	十二月廿五日	同 廿一日死	十一月廿四日	十二月廿一日	十一月十三日	十月十九日死	十二月廿一日	同 廿七日
糸	結	魚	悉	質	紐	通	悉	同	酒	同	同	同	同	同	同	同	織	履	織
物	髮	皆	屋	職	勤	皆	商	同	同	同	同	同	同	同	同	同	職	人	物
上長者町千本東入	中立賣千本西入	同	同	猪熊通三條上ル	下立賣通御前通東入	下長者町通土屋町東入	榎木町土屋町角	同	下立賣御前通西入	同	同	同	同	同	同	同	上長者町千本東入	六軒町通元誓願寺上ル	大宮通寺ノ内上ル
中	川	松	山	中	岸	紀	荒	富	富	村	村	村	村	村	村	林	梶	吉	長
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一三	二七	一一	三七	二二	三七	三〇	二六	一一	九	一五	一八	二〇	二三	九	四九	三三	四二	一四	二七

井	上	上	上	上	○上	○上	○上	上	上	井	上	上	上	上	上	井	上	井	上	
					井	井	井	井	井							井				
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
七日	三日			五日				十月一日	九月三十日	十月二日	廿二日	廿四日	廿八日	廿五日	三十日	廿八日	九月廿三日	十月一日	廿五日	廿六日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	十一月十六日	同 廿四日死	同 廿五日死	同 廿四日死	十月十八日死	同 廿五日死	同 廿六日	同 廿一日	十一月二十日	同 廿一日	十月廿一日死	同	十一月六日	十月十二日死	十二月四日	同 十二日死	十月廿三日	同 廿八日	十二月七日	十一月十三日
同	無	織	看	吳	同	織	小	同	同	同	悉	畫	無	工	履	織	手	教	同	織
物	物	婦	護	服	物	使	物	物	物	物	皆	工	夫	人	職	傳	員	職	職	子
下立賣通智惠光院西入	上一條通御前西入上ル	淨福寺通出水上ル	西ノ京職司町	一條通黒門東入	同	上立賣堀川西入	上立賣千本西入	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
犬	渡	赤	川	中	金	金	川	石	山	岸	增	雀	岩	菲	山	青	北	山	小	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
一三	二四	三六	二四	二四	七	二二	八	二六	二四	三二	二八	二四	一六	一六	一〇	四二	一〇	二四	一四	

上	○上	○上	上	井	井	○井	○上	上	上	上	上	上	井	井	上	上	井	上	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
廿四日	廿二日	廿五日	廿六日	廿二日	十八日	十日	廿四日	廿五日	十三日	十八日	二十日	十四日	二十日	廿一日	十八日	二十日	十八日	廿一日	
同	同	同	同	同	同	十二月一日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一日		三日				廿九日	三十日							廿八日			廿七日		
十二月廿一日	二月十二日	同	同	同	同	十二月廿四日死	同	同	同	同	同	十二月廿三日死	同	同	十二月廿五日死	十二月廿八日死	同	同	
同	同	織	塗	織	手	同	織	娼	無	雇	無	晒	悉	同	農	織	糸	米	
同	同	職	師	職	傳	同	職	妓	人	職	皆	職	物	同	職	物	同	無	
猪熊上立賣下ル	同	一條通千本東入	姉小路神泉苑西入	同	同	上長者町通淨福寺東入	上長者町通裏門西入	仁和寺街道千本西入	出水通千本西入	大宮通寺ノ内下ル	西ノ京中合町	鞍馬口通大宮東入	淨福寺通中立賣上ル	同	等持院	出水通六軒町東入	上榎木町淨福寺西入	六軒町通出水上ル	
松	加	今	武	八	上	井	神	季	長	芳	溝	井	中	中	田	長	平	平	藤
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五	四八	四〇	五三	一二	一八	二〇	二四	二四	一五	一三	二一	六	二九	六〇	九	三二	一七	四六	三〇

井	井	○上	○上	上	上	上	上	上	上	上	井	上	上	上	上	井	○上	○上	○上	○上
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十二日	十日	十七日	十五日	十七日	十四日	十日	十五日	十日	十四日	十一日	十三日	十五日	九日	十日	七日	一日	四日	八日	五日	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	廿六日	廿五日		廿四日					廿二日	廿一日	二十日									
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二月廿一日死	十二月廿一日死	十一月廿五日死	同	同	同	同	同	十二月五日死	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
綜統業	同	同	織	大	官	薪	吳	石	無	織	運送業	蒲團商	娼	婚	織	同	同	同	同	
今小路通御前通東入	御前通下立賣上ル	同	淨福寺通上長者町上ル	西ノ京南聖町	淨福寺通下長者町上ル	西ノ京	千本通中立賣上ル	聚樂廻仲町	同	千本通押小路上ル	下立賣通淨福寺東入	西ノ京職司町	今出川通大宮東入	仁和寺街道千本西入	仁和寺街道千本西入	御前通今出川上ル	同	同	同	
今	人	佐	佐	渡	鹿	廣	川	岡	山	杉	園	西	森	依	岡	星	星	星	星	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
二	一七	四四	七二	二五	三一	二六	三九	七	一九	二九	五二	一七	二六	二三	一〇	一〇	一八	一六	一〇	

上井	井	井	○井	○井	上	上	上	上	上	上	井	井	井	○上	○上	井	上	井	井
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
廿三日	二十日	十九日	十七日	十五日	十八日	二十日	八日	十五日	十日	十五日	十二日	五日	八日	五月六日	四月廿三日	四月廿三日	九日	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
廿九日	廿八日	廿六日	廿七日	廿六日	廿六日	廿七日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	二十日	十八日	十七日	十六日	十四日	十二日	同
同	七月八日	同	六月十七日	五月三十日死	八月廿六日	同	六月六日死	同	七月十一日	同	五月廿三日死	同	三月死	同	七月九日死	同	六月六日	同	二十日
同	織職	友仙職	同	日・稼	金貸業	米穀商	織職	僧侶	織職	市役所人	織職	飲食店	糸商通勤	同	織物業	日・稼	染物業	大工	會社員
土屋町中立賣上ル	堀川通寺之内下ル	堀川通寺之内下ル	同	西ノ京	大宮通一條下ル	日暮通下立賣下ル	盧山寺智惠光院西入	上立賣淨福寺東入	日暮下立賣下ル	相合圖子一條下ル	日暮通下立賣下ル	六軒町下長者町下ル	日暮通下立賣下ル	同	大宮通上長者町上ル	日暮通下立賣下ル	笹屋町六軒西入	千本通竹屋町下ル東入	下立賣千本西入
矢	藤	前	山	山	武	高	日	谷	片	益	瀧	中	前	古	古	阿	山	實	中
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一七	三三	三三	一八	四六	二四	四	四二	五二	三四	三四	一六	四六	一四	一一	一一	一一	三〇	五	二五

上井	井	上	上	上	○上	上	上	井	上	井	上	上	上	井	井	上	井	井	上
五月五日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六月十五日	七月十五日	五月廿七日	六月十七日	五月三十日	同	六月六日	同	五月十七日	同	六月十日	同	五月十四日	同	六月二十日	同	五月廿三日	四月十六日死	五月十六日	四月廿九日
建築請負	釣器職	理髮	大工	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
聚樂廻	千本通竹屋町下ル	御前通下立賣上ル	淨福寺下長者町上ル	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
下	樋	小	若	小	小	小	小	吉	廣	内	字	寺	山	岡	福	藤	鉢	菅	酒
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三〇	二四	一七	二二	七	九	一一	一一	二一	五八	二〇	三八	五三	一九	三〇	四五	五五	二一	一八	二五

井	井	上	井	上	上	上	上	井	上	井	上	上	上	井	上	上	井	井	井
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
廿一日	廿七日	十三日	十六日	十五日	十二日	七日	二日	七日	二日	四日	七月六日	六月廿五日	七月一日	廿八日	廿七日	廿二日	廿三日	十日	
廿一日	廿四日	廿二日	廿一日	十九日	十三日	十四日	十一日	八日	七日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	七月五日	
同	八月十五日	七月廿九日死	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	廿六日	
織職	メツキ	織職	糸織	縫職	無	生糸	食料品	無	自轉車	農	カキ餅	無	織物	通勤	紙	醬油	靴職	鋸屑	
相合圖下立賣上ル	西ノ京	盧山寺町千本東入	大宮通丸太町上ル	一條通御前西入	淨福寺出水上ル	今出川淨福寺西入	聚樂廻	日暮丸太町下	淨福寺之内上ル	衣笠	下長者町淨福寺西入	出水通日暮西入	下立賣御前西入	同	西ノ京	聚樂廻	鷹野	聚樂廻	
大	宮	渡	西	齊	御	梅	藤	佐	山	若	井	山	板	西	辻	谷	勝	川	關
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
九	三五	五一	一六	二五	三五	一六	二七	一六	一九	二六	二三	三一	一五	五三	一三	二六	二八	一七	一五

七七

上	井	上	井	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	井	井	上	〇井	〇井	井	井	上	井	上
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十八日	十五日	十三日	十日	十二日	十四日	六月十日	廿八日	廿七日	廿九日	廿八日	廿五日	廿三日	廿八日	廿四日	三十日	二十日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日
廿六日	廿五日	廿三日	廿二日	廿二日	十七日	十六日	八日	七日	六日	六日	五日	五日	五日	五日	六月一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿一日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七月死	七月十五日	七月廿五日	八月五日	六月廿九日死	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
看護婦	燃糸	娼妓	鋸屑	通勤	手傳	市工夫	古木商	同	友仙	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
下長者町淨福寺東入	日暮丸太町下ル	七本松仁和街道下ル	聚樂廻	西ノ京	西ノ京	日暮通下立賣下ル	千本通下立賣上ル	同	竹屋町千本東入下ル	七本松通今出川上ル	寺之内千本西入	淨福寺警願寺下ル	同	日暮通下立賣下ル	仁和寺街道御前東入	千本通竹屋町下ル	松屋町中立賣上ル	千本通竹屋町下ル	下立賣七本松西入	紐織	大工	無	銅器
小	青	正	川	三	大	片	濱	八	宮	永	尾	高	白	白	上	樋	橋	實	池	池	池	池	池
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一八	三二	二四	一九	二七	二〇	三九	一〇	一六	一九	二八	四六	三一	一一	一七	三四	一八	一六	一八	一七	一七	一七	一七	一七

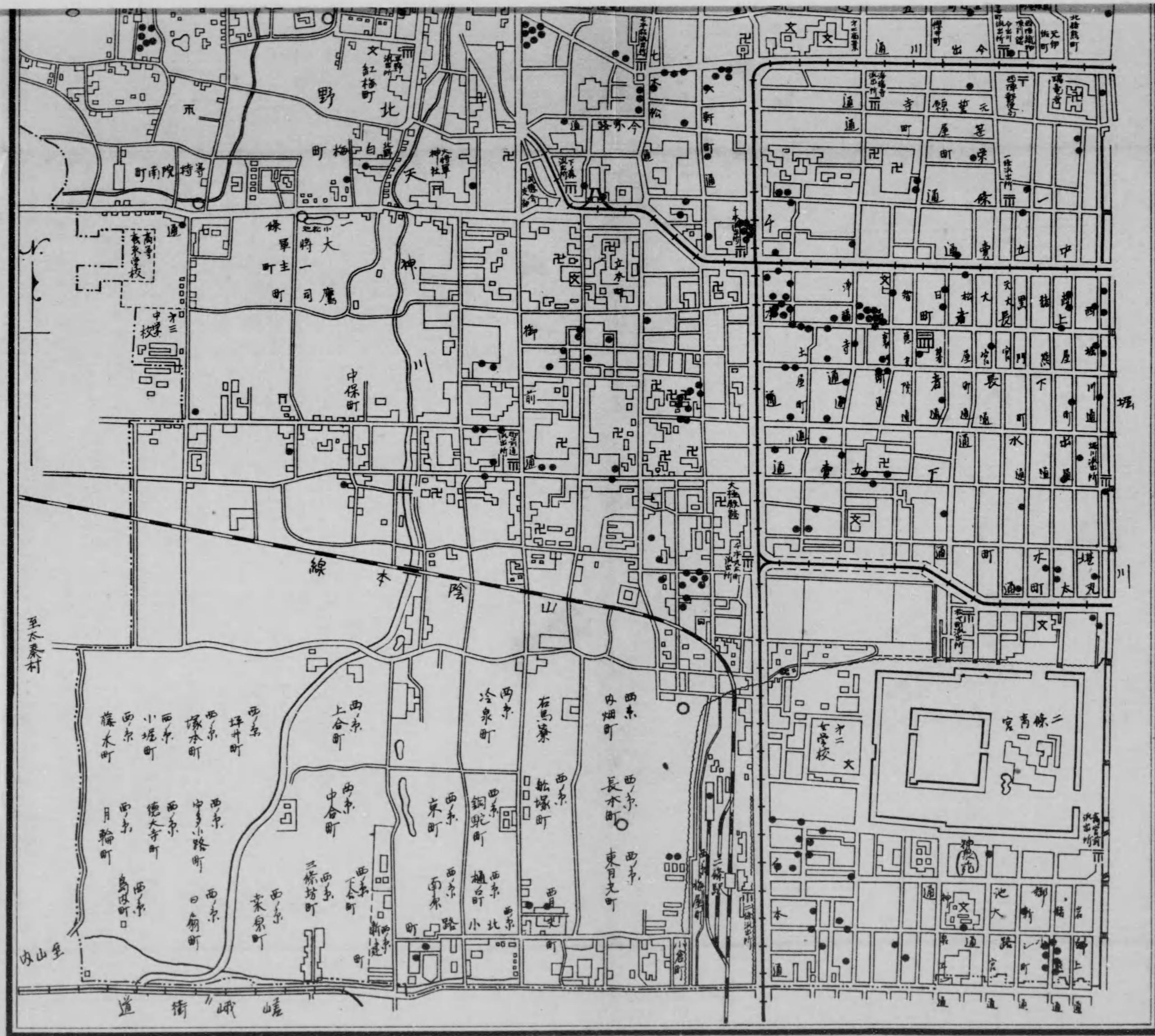
七六

西陣警察署管内

凡例

○	洗場	○	大正十二年
—	溝	—	鐵道
—	電	—	御陵墓
—	車	—	寺
—	道	—	神社
—	文	—	學校
—	警	—	警署
—	署	—	出所





至太秦村

内山至

道街嵯峨

線本陰山

堀

川

二條宮

女子学校

長本町

銅駝町

中合町

西小路町

月輪町

藤木町

小堀町

塚本町

坪井町

西京

上合町

西京

冷泉町

右馬寮

西京

内畑町

西京

東月町

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

西京

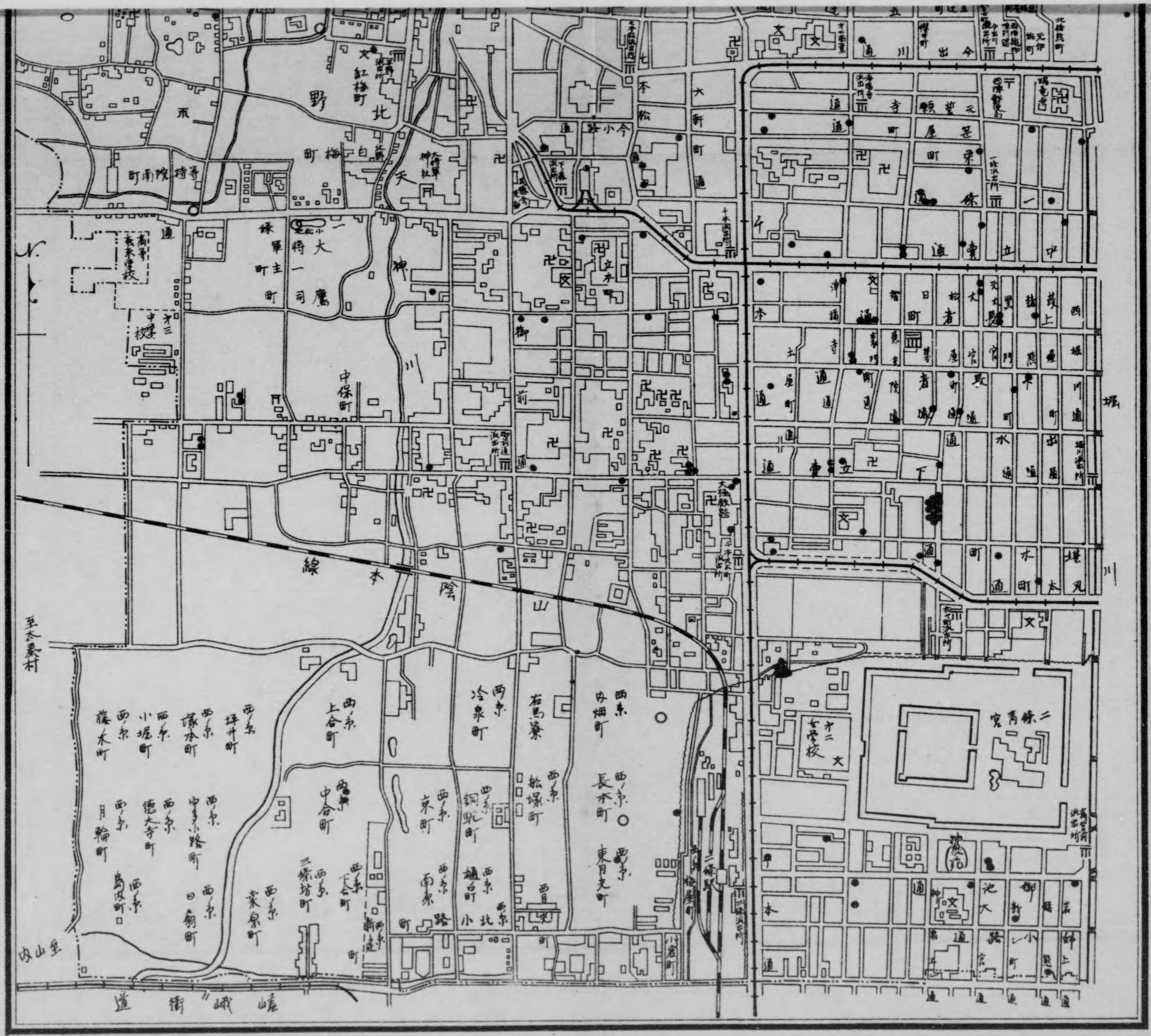
西陣警察署管内

例

警察署	○	洗場	溝	鐵道	電	車	御陵墓	寺	神社	文庫	出所	出所
-----	---	----	---	----	---	---	-----	---	----	----	----	----

大正十三年七月末
 ● 47ノ忠告
 ● 犯生箇所





至本農村

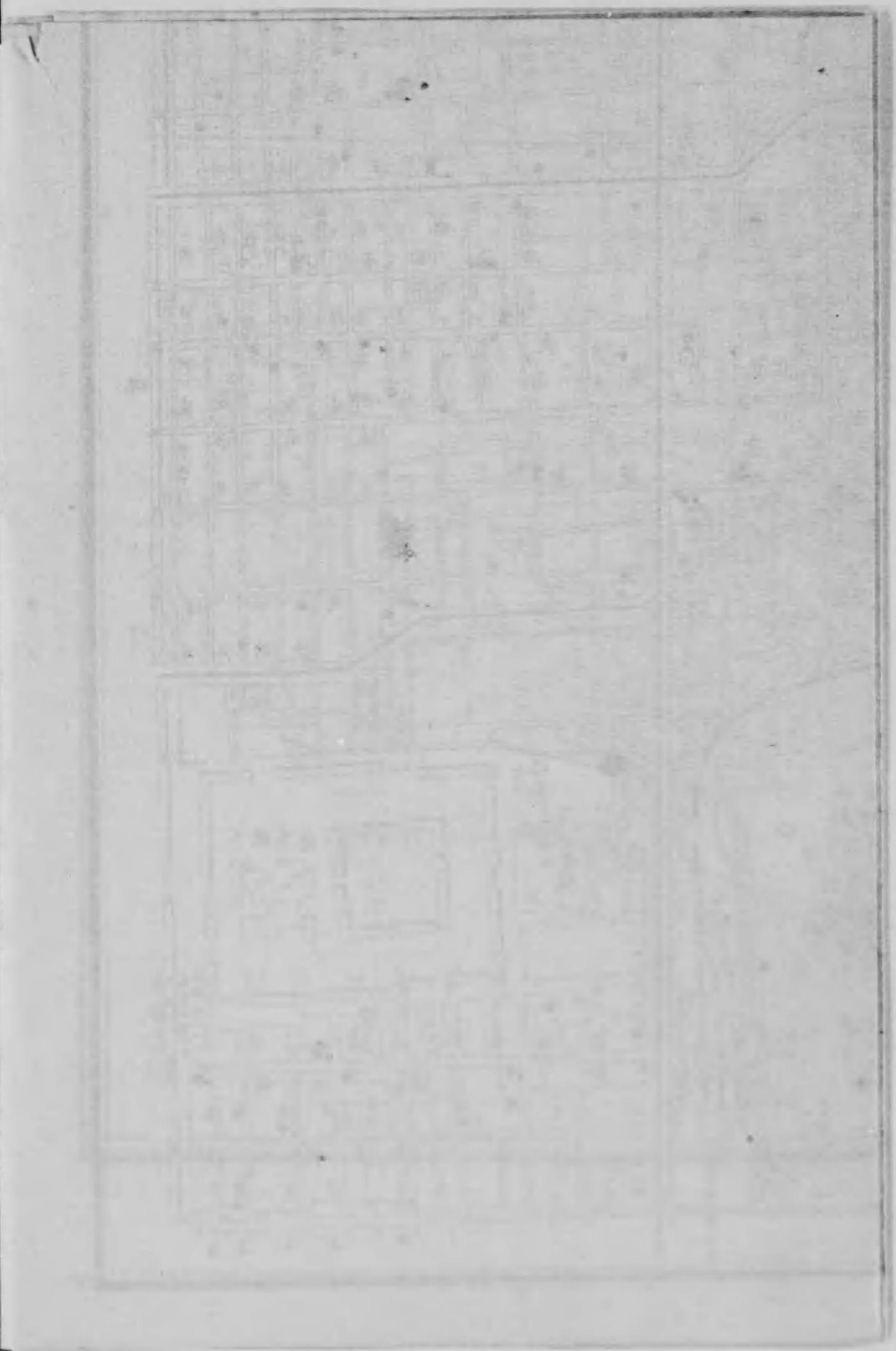
内山至

道街城嵯

堀

川

堀



○堀川署管内

(大正十三年十月十日 京都府知事宛 調査者幸野防疫醫)

復命

理由

一、土地ノ關係

京都市ハ由來南方ヲ除キ殆ト山岳ヲ以テ抱圍セラレ北方ハ地勢高ク漸次南西ニ傾斜的ニ低シ夏冬ノ暑寒他ニ比シ強烈ニテ四季平常トテモ氣候ノ變遷甚シク又土地乾燥ノ程度一定セス偶々濕潤セル土地ハ容易ニ乾燥セサル所アリテ乾燥スルモ大ニ遲速アリテ低地陰鬱ノ場所ハ乾燥大ニ遲退シテ常ニ濕氣ヲ含ミ全市トテモ縦町(南北)ハ土地ノ乾燥早ク横町(東西)ハ乾燥遲キ等一例ニシテ季候變調ノ度頻繁ナルハ土地ノ乾濕ニモ多少關係ヲ及シ陰濕ノ場所ハ病菌ノ潜伏ニ便ナラシメント想像セラル堀川部内ノ如キ市ノ西南ニ在テ土地一般低キ濕地ニシテ新開地ノ如キ泥濘ノ地多ク踏査スルニ別圖ノ如ク雨期或ハ大雨ニ際シ溝渠ヨリ流水汎濫シ家屋ノ内外浸水ヲ受クル場所少ナカラス昨年ノ二回今年ノ一回ハ稍ヤ大ナル浸水ニテ殆ント同程度ノ水嵩ヲ示シ家屋井戸便所道路田畑等混淆濁水汎溢セリ又タ部内ニ尤モ多キ職業上ヨリ染料ノ廢棄物下水ヘ放流セラレ下水ヨリ周圍ニ浸入シ土地自然汚穢セラル、等ハチフス誘發ノ媒介的一助ト成ル可キ者ト是レ又推測セラル

一、家屋ノ關係

當部内ハ中流以下ノ生計者大部分ヲ占メ發生セシ患家ニ就キ視察スルニ何レモ木造密接シ狹隘ニテ相當ノ商家ト雖モ土地ノ習慣上天井低ク床又タ低クシテ各室臺所ニ至ル何レモ薄暗ク晝間電燈ヲ用ユル所間々見受ケタリ隨テ採光換氣不良ニテ殊ニ部内ハ職人住宅路次住宅多ク外觀ハ相當ノ裝ヲ爲シテ異様ヲ感セサルモ室内及ヒ臺所廻リハ狹小不潔ニテ實ニ塵埃堆積スル等想像以外ノ者多ク全ク家宅建築上ノ缺點モ有ル可キモ衛生上身體ニ及ス有害ノ一因ト成ル可キ者カトモ想像セラレ

三、職業ノ關係

當部内ハ工場多ク工業者多數ニテ工場法適用工場百四十八家族の工場ヲ合スレハ一千八百餘ニテ専ラ友儕捺染染物悉皆等ニ屬スル業務者尤モ多ク其ノ他種々ナル工業勞働者商業之レニ次キ大半下層階級ノ生活業體ニテ衛生思想全ク缺如シ別表友仙職ニチフス患者ノ多キハ一例ヲ舉レハ夜遊暴飲暴食及ヒ友仙糊置業ノ一器物ヲ數人使用シ水吹キニ同器ヲ數人口ニスル等病毒傳播ノ容易ナラシムル者ニテ要スルニ職業上チフス患者發生ニハ直接多大ノ關係僅少ナルモ職業上ヨリ生活ニ因シチフス患者誘發ノ便ヲ與フル者ナラント想像セラレ

四、飲料水及井戸ノ關係

當部内ノ飲料水ハ水道、井手、打込、及ヒ上水井併用ノ四種ニテ別表ノ如ク部内約二万四千戸ニ對ス

ル上水專用者比較的少ク水道ヲ有スルモ一部水井併用シ實際ニ於テ煮炊キノミ上水ヲ用ヒ食器食物等ノ洗滌ニハ進テ井水ヲ用ユル習慣ニテ其ノ井戸タル完全ノ者少ク井戸側破潰シ流シ場ノ設備不完全ニテ周圍ノ汚水浸入スルハ歴然トシテ明カナリ井戸ニ對スル病毒傳播徑路種々アルモ一例ヲ舉レハ當地ハ特ニ地下ノ水線ニ高低アリ井ノ深淺及ヒ水量ノ増減激烈ニシテ今日水枯レ明日滿々タル屢目撃スル所ニシテ偶々病菌ノ地下ヲ潛行スルアリトスレハ井戸壁ニ附着シ或ハ洗ヒ落サレ反復井戸ニ混入シ保菌水ヲ使用スルコトトナルハ危險寒心ニ絶エサル所ナリトス

(飲料水使用調査及ヒ本年八月末日迄チフス發生患者ノ飲用セシ上水井水ノ別)別紙參照

五、下水ノ關係

當部内ノ溝渠ハ一部分暗渠ナルモ大部分開放セル者ニシテ大ナル者ハ堀川、西洞院川、鍋取川、堀子川ニシテ何レモ上京ヨリ部内ニ入りテ紀伊郡ニ流出ス其ノ他支流縱横ニ貫通シ別圖ノ如キ外小支流各町ニ隨行スル等、堀川及支流各溝ノ如キ常ニ汚染セル泥狀ノ濁水ニシテ一トシテ清流ヲ見サルハ是レ大部分ナル友仙染職業者ノ河水ヲ使用スルト同業者ノ廢棄物ヲ混流スルニ依ル殊ニ各支流ハ染職業者ノ廢棄糊ノ爲メ一層泥狀停滯ノ場所最モ多ク疏通一般不完全ニシテ暗渠小支流ノ如キ常ニ塵埃ト共ニ堆積セラレ一朝降雨ニ際シ忽チ流水汎濫シ家屋浸水セラレ(別圖參照)坊城通五條附近以南及ヒ西九條八條東寺附近ノ累年チフス患者ノ續發スルハ溝渠疏通不完全雨水汎濫等其ノ因ノ一ニ算スルヲ得ヘキ者ト推測セラレ

六、便所ノ關係

便所ハ専ラ汲取便所ニテ井戸ノ距離六尺垂々トスル所多ク表商家ト雖モ一般便所ノ臺所流シ場ニ接近シ殊ニ裏長屋ノ如キ數軒共用ニシテ採光ナク不潔不淨ニシテ便壺破潰シ周圍ニ糞尿漏溢セルヲ所々ニテ見受タリ本年發生セシチフス患者ノ使用便所ニテ共用セル者三十五名(別紙患者表參照)又タ糞便ノ地下ニ滲透シ井水ニ浸入スルノ虞アルヲ多々見受ケタルハ慘心ノ至リニ絶エス

七、野菜洗場ノ關係

部内野菜洗場ノ主ナル者十四個所アリテ稍ヤ完全ナル者アリ又タ不完全ニテ濁水滯溜スルモ在リテ一般不適當ノ者多ク其ノ他東九條及西七條ノ不潔ナル小溝ニテ不定期ニ個人的洗滌スルヲ二三見受ケタリ(場所別圖參照)

一號洗場、千本通五條上ル東ニ在リテ長サ約七尺巾三尺ノ不完全ナル水道ヲ造リ東端ニ在ル井戸ニポンプヲ備ヘ水ヲ揚ケ使用スル者ニテ僅カニ雨露ヲ凌ク板屋根ノ藁小屋ニテ水質混濁周圍不潔ニシテ東方ニ接近セル小溝アリテ惡水滯溜スル等不良ノ洗場ト認ム



二號洗場、坊城通り花屋町下ル所ニ在リテ南北十二間東西約三尺ノ水道の深サ一尺餘ノ洗場ニテ接水面ハ「コンクリート」ヲ以テ造リ東西兩側ニテ共同洗滌スル者ニシテ北端ニ井戸ヲ穿チ半馬力ノ電動力ニテ水ヲ揚ケ洗滌溝ニ流出セシムル裝置ニシテ水量豊富ナルモ排水惡ク濁水漲リ周圍不潔ニシテ改造ノ必要アル者ト認ム

三號洗場、丹波口驛前坊城東へ入ル所ニ在リテ青物商藤〇〇〇個人經營ノ屋内專用洗場ニシテ十二尺

ニ四尺ノ深サ一尺煉瓦兼石造ニシテ周圍「コンクリート」ニテ西方屋内ニアル水道ヲ利用シ水ヲ送り洗場ノ東ノ地下ニ下水道ヲ設ケ排水スルノ構造ニテ稍ヤ個人洗場トテ適當ナル者ト認ム

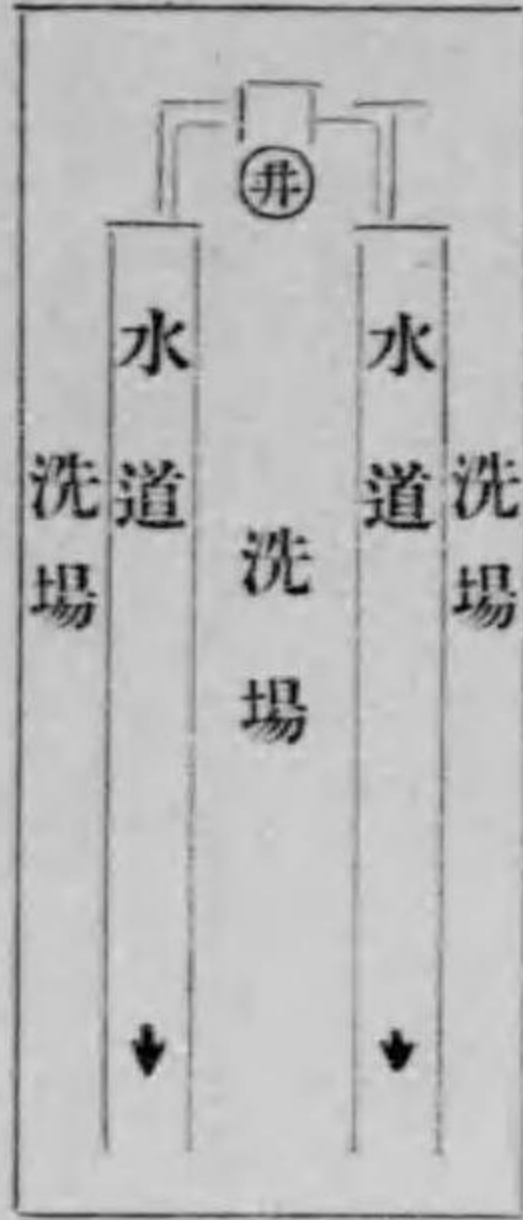
四號洗場、丹波口驛前櫛笥西へ入ル平井留吉個人經營ノ六尺ニ三尺ノ屋外露天洗場ニテポンプ井戸ヲ使用シ種々ノ洗ヒ物(衣類等)ヲ爲シ普通流シ場ノ水溜同様ニテ野菜洗場トテ不適當ト認ム

五號洗場、中堂寺千本西へ入ル所ノ野中ニ在リテ東西長サ四間巾三尺深サ一尺ノ共同洗場ニテ井戸ニ普通ポンプ仕掛ニテ水ヲ引キ板圍ヒニ片流レノトタン屋根ヲ爲シ西ニ排水路ヲ設クルモ塵埃堆積水路等構造一般不完全ニテ周圍不潔ニシテ不適當ノ洗場ト認ム



六號洗場、朱雀寶藏町ニ在リテ約五間ニ八間(四十坪)ノ屋内總テ「コンクリート」ニテ馬蹄形ヲ爲シタル溝形ヲ造リ巾三尺餘深サ一尺餘ノ圖ノ如キ洗場ニテ水深一丈八尺ノ井戸ニ一馬力ノ電動機ヲ備ヘ絶エズ流水シ

水質清澄ニシテ構造稍ヤ完全ナル洗場ト認ム

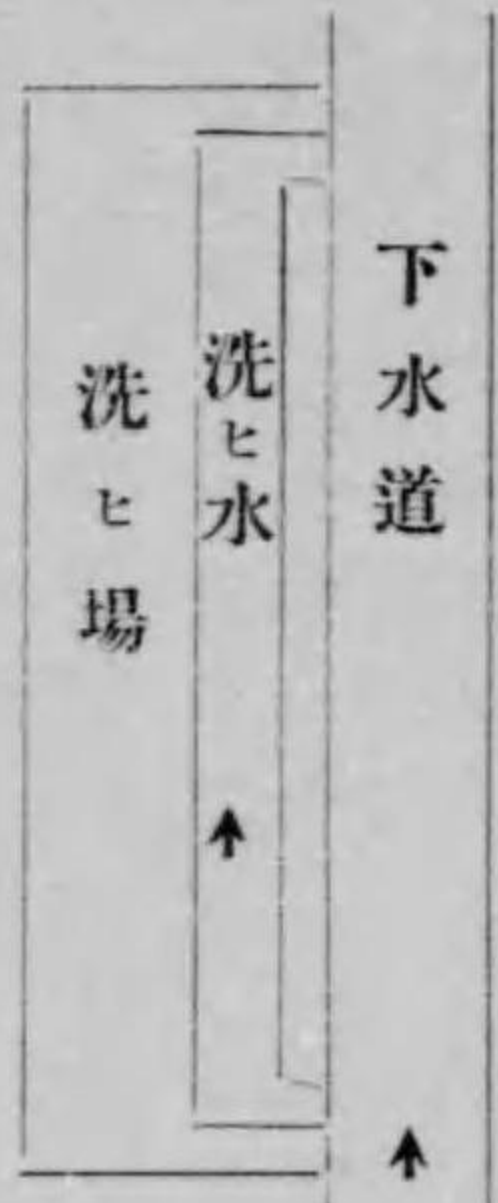


七號洗場、西七條石ヶ坪町ニ在リテ東西十五間南北六間ノ板圍ヒ「トタン」屋根ノ洗場ニシテ圖ノ如キ「二字形」ノ巾三尺長サ約十三間餘ノ溝渠ヲ造リ東端ノ中央ニ井戸ヲ穿チ電動力ニテ水ヲ揚ケ地下鉄管ニテ兩溝ニ流水

セシムル裝置ニテ溝底ハ「コンクリート」溝壁ハ更ニ板ヲ以テ造リ絶エズ流水セシメ水質ハ清澄ニシテ

構造稍々完全セル洗場ト認ム

八號洗場、鹽小路石井町ニ在リテ東西七間南北約三間餘ノ雨露ヲ凌ク片流れ屋根ヲ有スル洗場ニシテ約五間東方ニ隔ツル井戸ヨリ地下土管ヲ以テ引水シ洗ヒ場一般溝渠ノ構造等不備濁水ニシテ周圍塵埃堆積不潔ナリ不適當ノ洗場ト認ム



シテ水質混濁スルコト下水ト彷彿タル者ニシテ構造又不良野菜洗場トシテ全然不適當ノ者ト認ム

十、十一號洗場、九號洗場ノ南方ニ在リテ全ク九號ト同構造下水ヨリ引用スル同水質ナル者ニシテ洗場トシテ不適當ト認ム

十二號洗場、大宮九條下ル所ニ在ル道路ニ添フ下水溝ノ傍ニ在リテ露天ニテ約一坪ノ下水ノ地下ヲ濾過シ湧出スル者ニシテ總テノ器物(衣類、食器、家具)ヲ洗滌スルヲ見受ケタリ是レ一般ノ洗ヒ場ニシテ濁水溜溜不潔ニシテ野菜洗場トシテ不適當ノ場所ト認ム

十三號洗場、猪ノ熊九條上ル所ニ在リテ東西約七間ノ不完全ナル構造ニテ約三丁ヲ隔ツル井戸ヨリ地下土管ヲ以テ引用セシ者ニシテ水質濁汚周圍不潔不適當ナル洗場ト認ム
十四號洗場、札ノ辻油小路ニ在リテ構造水質九號ニ類似シ不適當ノ洗場ト認ム

八、消毒ノ關係

傳染病(チフス)發生ニ際シ市ヨリ防疫班出張シ消毒セラル、ニ付キ參考ノ爲メ晝間夜間隨行視察セシニ其順序先ツ患者ノ付キ添へ人及ヒ携帶品ヲ消毒シ患者護送後室内及ヒ物品ノ消毒ニ及ホス、一人ノ人夫ハ石炭酸ヲ溶解シ室内噴霧消毒及ヒ柱其ノ他ヲ拭ヒ一人ハ石灰乳ヲ製シ臺所流シ場便所溝渠井戸等ヲ消毒シ食器ノ煮沸消毒其ノ他日光消毒ノ必要ヲ家人ニ示シ消毒終了ス此ノ時間一戸ニ對スル十五分乃至三十分平均二十分餘ニテ終了スルヲ目撃セリ熟練セシヲ以テ周到消毒出來得ル者ノ如キモ尙隔靴搔痒ノ感ナキニ非ラス抑モ當市ノ習慣トシテ傳染病ノ晝間届出少ク夜間多ク隨テ夜間ノ消毒頻繁ニシテ自然消毒ノ疎漏ニ流ル、コトアラザルカ、或ハ完全ナラサル者ト想像セラル朱雀分木町鹽見、新道佛光寺中山、同町東中ノチフス發生又タ大宮通九條上ル川勝ニ八人發生セシ如キ本年一月ヨリ連續消毒後ニ發生シ終ニ市ノ消毒所ノ手ニ一大消毒ヲ爲シ其ノ跡ヲ絶チタル例アリテ以上數名幾何ノ間隔時日ヲ經テ發生スルハ或ハ最初ヨリ保菌中ノ者ナシトセサルモ一大消毒後發生セサルヲ見レハ病菌ノ室内或ハ物品ニ遺留セシ者ト想像セラレ消毒不完全ヨリ出發セシ者ノ如シ最初發生當時ノ徹底的消毒必要ナルハ言ヲ俟タサルモ目今ノ消毒振ハ防疫上注意ヲ要ス可キ者カトモ想像セラル

九、發生ノ徑路

積年チフス患者ノ散在性ニ絶エサルハ多クハ家族傳染交通關係物品媒介飲料水等ニ依ル者ニシテ又タ部内坊城通り五條島原附近、九條大宮附近ノ如キ患者數ノ多キヲ見ルハ土地及ヒ生活下水等ノ關係ニテ病

菌ノ器物其他ニ潜存セラレ偶々時機ヲ得テ飲食物ニ混入シ次テ人體内ニ侵及スル者ニシテ別紙患者表調
査ノ通り多クハ同一徑路ヲ取ル可キ者ト推測ス

患者發生ノ主因及防疫措置

種々想像セララル、モ當部内ノ如キ一般土地低温ナルニ溝渠ノ不浚疏屋内ノ換氣採光不良井戸水使用便所
壺ノ附近不整頓野菜洗場ノ不完全發生當時消毒ノ不徹底個人衛生心ノ不振等尤モ直接關係ヲ有スル者ニ
シテ是レ等ハ概テ患者發生ノ因或ハ援助ト成ル可キ者ナルヲ以テ急遽改善シ一方豫防注射ノ奨勵衛生組
長ヲシテ個人衛生心ノ勃興セシムル等徹底的勸誘スルノ必要アルヲ認ム

堀川部内最近三ケ年間ニ於ケル人口ニ
對スルチフス患者數

年次	人口	患者數	人口千ニ對スル患者數
大正十年	九六、九〇二	三五九	三、七〇
大正十一年	一〇二、四六八	二二九	二、二三
大正十二年	一〇七、六一三	二七四	二、五四

堀川部内最近三ケ年間ニ於ケルチフス
患者ニ對スル死亡數

年次	患者數	死亡數	患者百ニ對スル死亡數
大正十年	三五九	七九	二二、〇
大正十一年	二二九	四三	一八、八
大正十二年	二七四	六九	二五、二

堀川部内大正十三年自一月至八月發生セシ「チフス」患者ノ使用セシ飲料水

使用水別	使用別戸數	患者數	使用別戸數千ニ對スル患者數
井上水	一〇、六四八	九〇	八、四
井上水	八、二〇四	八三	一〇、一
井上水	三、七四九	五一	一三、六
計併	二二、六〇一	二二四	九、九

堀川部内大正十三年自一月至八月チフス患者ノ使用セシ飲料水別

使用水別	患者數	患者總數ニ對スル百分比
井上水	九〇	四〇、一
井上水	八三	三七、〇

井上水	併計	用	五 一	二 二 四	八 八
					二 二 七
					一 〇 〇 〇

堀川部内飲料水使用調査

種別	専用者		共用者		計
	戸数	調査總戸數ニ對スル百分比	戸数	調査總戸數ニ對スル百分比	
井上水	六、七四四	二八三	三、九〇四	一六、六四八	四四・七
井水	四、七六七	二〇〇	一、四〇四	八、二〇四	三四・五
井水併	二、四四七	一〇三	五、四	三、七四九	一五・七
打水	六六一	二七	四八六	一、一四七	四・八
其他	二			二	
計	一四、六二二	六一五	九、三三九	三、七五〇	一〇〇・〇

堀川部内大正十三年患者及死亡數

年次	患者數	死亡數	患者百ニ對スル百分比
大正十三年 自一月至八月	一一二四	四五	二〇、〇九

堀川管内 大正十二年六月二十七日 大正十三年九月十五日 大雨ニ際シ浸水セシ戸數其ノ他

住宅床上下浸水	五戸	
住宅床下浸水	二、六〇六戸	
住宅其他浸水	九戸	
納屋其他浸水	一一六	
井戸其他浸水	九八一	
便所其他浸水	四八ヶ所	三、九八五間
道路其他浸水	三ヶ所	七六反
畑田其他浸水	二ヶ所	一九反

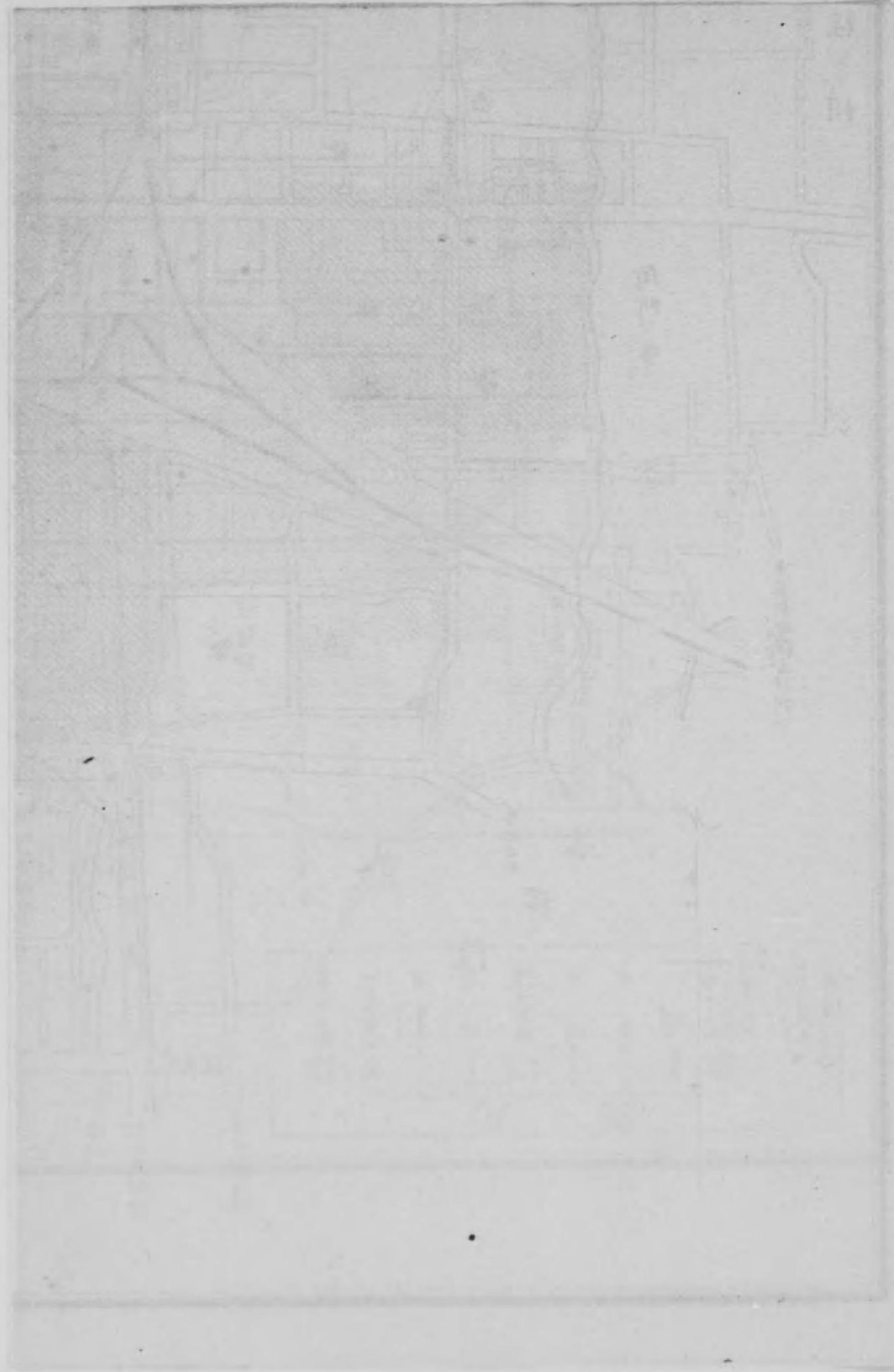
大正十三年自一月至八月一家二名以上チフス發生患家ノ視察

職業	住宅位置	屋内換氣	屋内採光	臺所廻	下流水場	飲料水	便所	發生關係ノ大略	姓名
大工表家不	其不	其不	其不	其不	其不	井戸二戸	不潔二戸	子〇發病ノ當時ヨリ佐〇看護シ約十日ノ後佐〇發病同時ニ入院セリ	北〇
炊事手内同	同	同	同	同	同	井戸共上	同	全ク家族傳染ナル者	北〇
職路次長屋同	同	同	同	同	同	井戸共上	大小事共	宗〇發病後一ヶ月ニシテシ〇〇發病傳染セシ者宗〇ハ隣家野〇〇發病傳染セシ者宗〇ハ隣家野〇〇發病傳染セシ者宗〇ハ隣家野〇〇發病傳染セシ者	長〇
職工同	同	同	同	同	同	井戸共上	同	宗〇發病後一ヶ月ニシテシ〇〇發病傳染セシ者宗〇ハ隣家野〇〇發病傳染セシ者宗〇ハ隣家野〇〇發病傳染セシ者	長〇

大正十三年自一月至八月腸チフス患者發生表

發病月日	診斷月日	發病期間	便所	全治	死亡	住	所	職業	姓	名	年齡	家族數
十二月廿七日	一月一日	六日	井上水併用	同	二月一日	岩上三條下ル	醫師	中	○	○	二四	一二
卅一日	七日	八日	井上水併用	同	六月六日	猪熊松原上ル	友	○	○	○	五三	五
二十日	八日	二十日	井上水併用	同	一月廿九日	四條新道西入	會社員	○	○	○	一〇	五
三十日	十日	十日	井上水併用	同	三月廿八日	四條通東堀川南角	青物	○	○	○	三九	六
同	同	同	同	同	十一月十一日	坊城四ツ塚下ル	同	○	○	○	一四	六
同	同	同	同	同	一月十四日	梅小路大宮西入	製造	○	○	○	三一	一
同	同	同	同	同	三月十四日	東中筋花屋町下ル	無職	○	○	○	二四	四
同	同	同	同	同	一月廿二日	醒ヶ井通五條下ル	病院內看護人	○	○	○	四二	六
同	同	同	同	同	三月廿七日	南梅小路大宮西入	仲仕	○	○	○	六一	六
同	同	同	同	同	二月十九日	岩上通五條下ル	女結髮	○	○	○	一九	七
同	同	同	同	同	三月七日	猪熊通三哲下ル	建築請負	○	○	○	三八	四
同	同	同	同	同	二月十五日	東中筋萬壽寺上ル	道具	○	○	○	二八	四
同	同	同	同	同	三月十五日	東中筋萬壽寺上ル	吳服	○	○	○	三三	四
同	同	同	同	同	三月十八日	大宮九條下ル	菓子	○	○	○	二〇	四

發病月日	診斷月日	發病期間	便所	全治	死亡	住	所	職業	姓	名	年齡	家族數
三月三日	十九日	十七日	井上水併用	同	二月廿六日	梅小路橋筋東入下ル	仲仕	○	○	○	三六	四
同	同	同	同	同	二月十九日	佛光寺通醒ヶ井西南角	古物	○	○	○	三八	四
同	同	同	同	同	二月廿九日	八條通大宮西入	電氣職	○	○	○	三二	四
同	同	同	同	同	三月十二日	北小路橋筋西入	教師	○	○	○	五一	三
同	同	同	同	同	三月十一日	松原通油小路東入	藥師	○	○	○	一九	六
同	同	同	同	同	三月四日	五條通岩上西入	張籠	○	○	○	二〇	五
同	同	同	同	同	二月十八日	七條猪熊西入	僧侶	○	○	○	二一	六
同	同	同	同	同	二月廿九日	佛光寺西洞院西入	紅染	○	○	○	四二	三
同	同	同	同	同	二月十八日	坊城通八條下ル	無	○	○	○	一七	三
同	同	同	同	同	二月廿九日	大宮通九條下ル	大工	○	○	○	四四	三
同	同	同	同	同	三月十九日	八條通大宮西入	日稼	○	○	○	六	三
同	同	同	同	同	三月四日	新シ町通綾小路上ル	魚問屋	○	○	○	二〇	一
同	同	同	同	同	二月廿六日	九條通大宮西入	學生	○	○	○	一九	八
同	同	同	同	同	三月十四日	島原場屋町	貸座敷	○	○	○	一六	一
同	同	同	同	同	二月廿六日	七條通大宮西入	料理	○	○	○	二六	六
同	同	同	同	同	三月十四日	油小路九條下ル	學生	○	○	○	一五	四
同	同	同	同	同	二月十九日	東中筋花屋町下ル	金物	○	○	○	一九	二
同	同	同	同	同	三月十八日	大宮通松原上ル	會社員	○	○	○	四〇	二
同	同	同	同	同	二月廿七日	丹波口通橋筋西入	僧侶	○	○	○	三三	四
同	同	同	同	同	二月廿六日	大宮通中堂寺下ル	型影	○	○	○	二八	七



合計
 業種 八拾
 患者數 貳百九拾九名

靴計	
三一理計	變
六五一通計	勤
六六一八無計	
七八二三不明計	
五五	二二

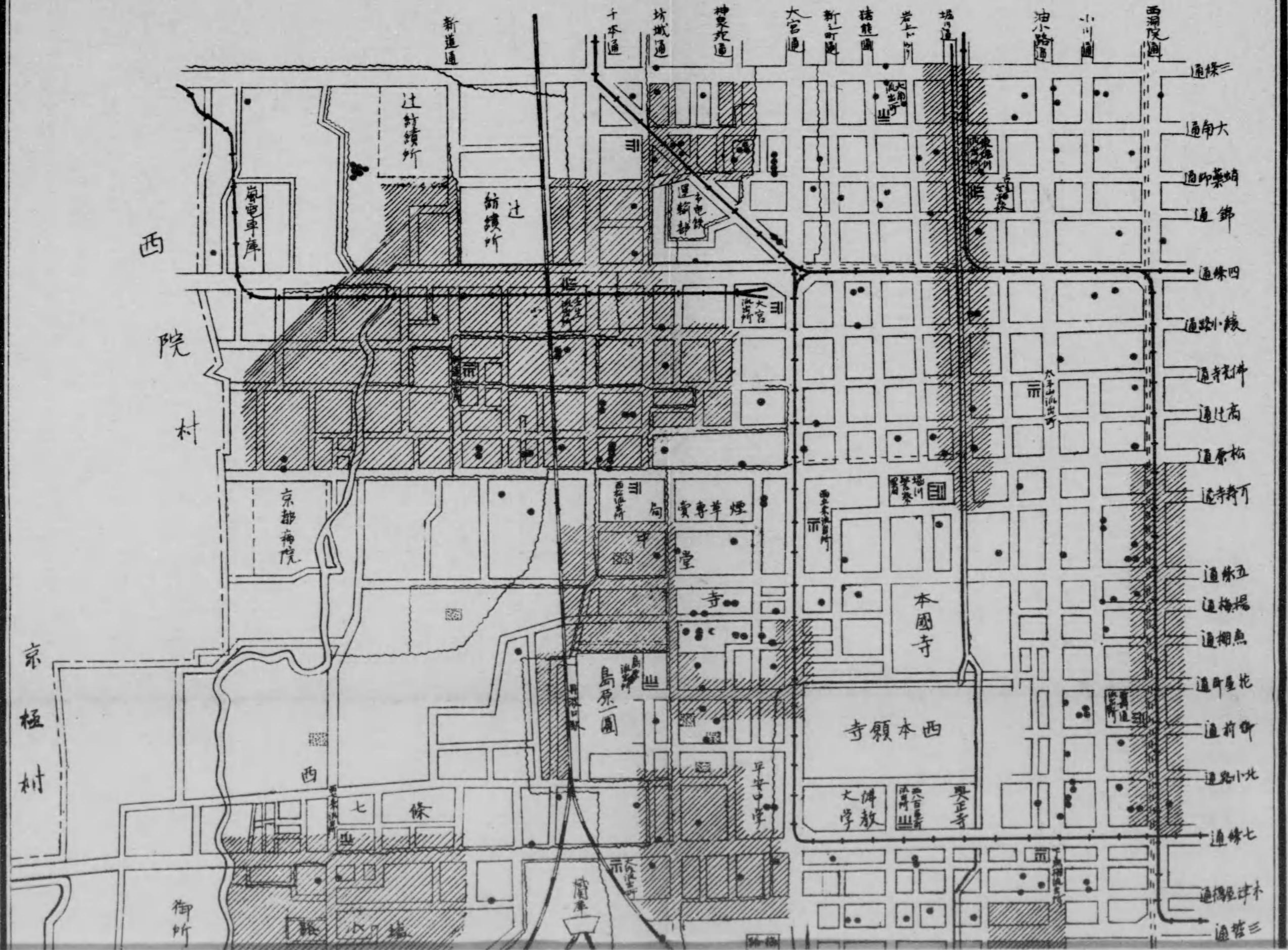
堀川警察署管内

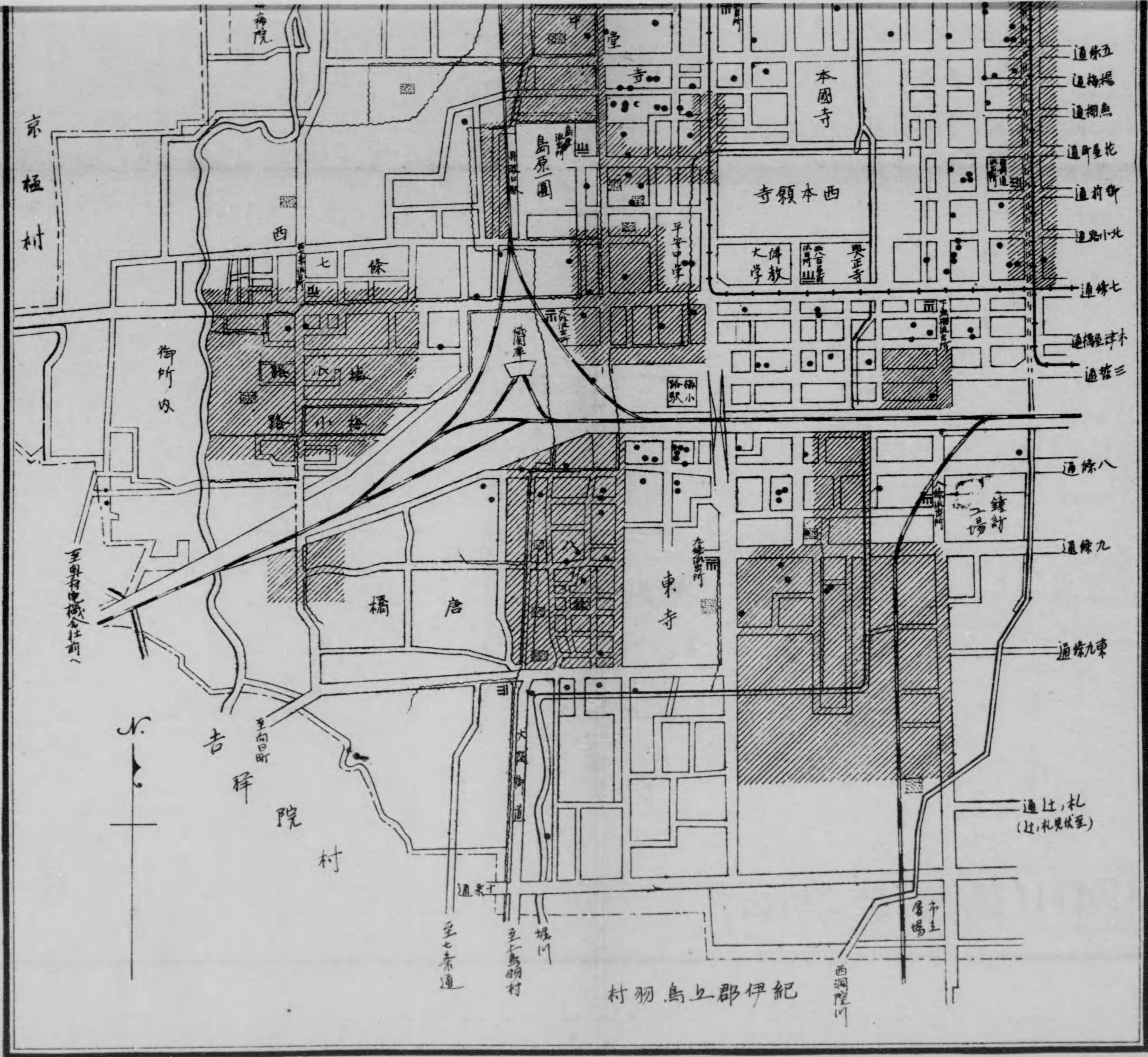
例

- 警察署
- 遺棄物所
- 下水溝
- 時菜
- 野菜洗場
- 鐵道
- 電車
- 橋

● 十ノ又忠
● 吉野五郎所
● 例年大雨ニ
● 際水化
● 行

六年二月





京極村

至御所電機会社前



吉
院
村

西
七
條

橋
唐

至七条通
至島羽村
堀川

島原園

東寺

村羽島上郡伊紀

本國寺

西本願寺

大佛堂
學教
興正寺

通條五
通梅堀
通柳魚
通年花
通前御
通路小北
通條七
通橋津木
通條三

通條八

通條九

通條九東

通过札
(过札見伏至)

市場

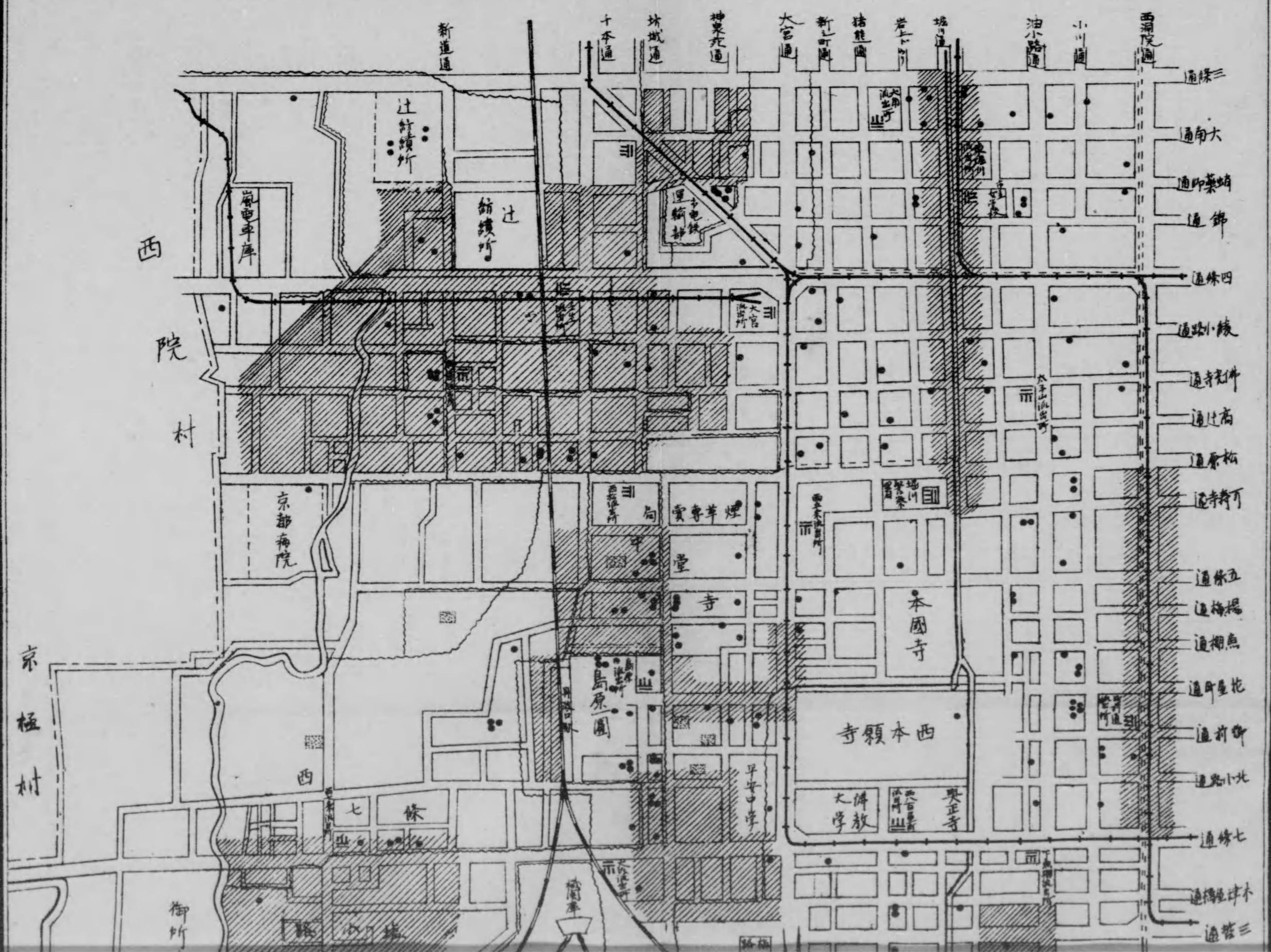
西洞院川

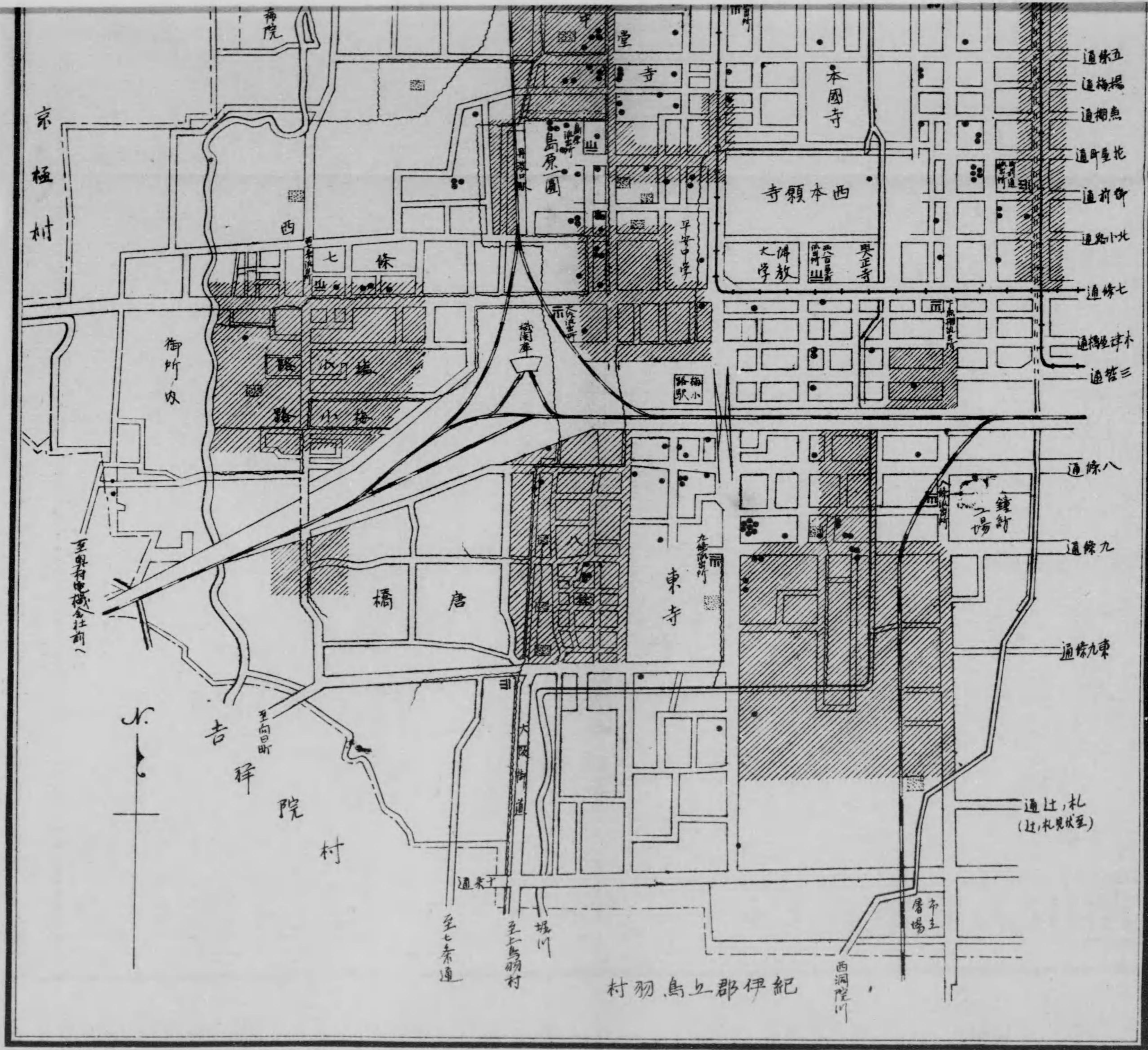
堀川警察署管内

例

- 警察署
- 警察派出所
- 下水溝
- 暗渠
- 野菜洗場
- 鉄道
- 電車
- 橋

例年大雨に
際し浸水に
なりし箇所
十ノ又忠
者発見箇所
大正十一年一月至八月





京極村

禪院

堂

寺

本國寺

寺願本西

大佛堂
西百堂
吳正寺

七條

早中學校

御所内

橋

小橋

通條五
通梅堀
通堀魚
通野堂花
通前御
通路小北
通條七
通梅津津木
通管三

通條八

通條九

通條九東

通过, 札
(过, 札見状至)

至奥村電機金社前

北

吉祥院

村

通米子

至七条通

至上鳥羽村

堀川

村羽鳥上郡伊紀

西洞院川

市立
屠場



○七條署管内

(大正十四年二月十六日 調査者幸野防疫醫)
京都府知事宛

復命

理由

土地ノ狀況

當部内ハ市ノ南端ニ位シ東ハ鴨川西ハ西洞院北ハ五條南ハ紀伊郡ニ境シ面積凡ソ東西十五町南北三十町ニシテ東海山陽關西山陰ノ旅客及貨物ヲ集散セシムル七條驛ヲ有シ一日ノ旅客平均凡ソ五万人ノ昇降スル咽喉ノ土地ニシテ本願寺ニ關スル團隊客ノ足ヲ止ムル等間接直接病毒ノ浸入ヲ疑ハシム部内南部大半ハ新開地ニシテ土地低ク濕地泥濘加之汚穢セル全市ノ下水ヲ終始抱合セシムル地帯ニシテ最近田畑ニ續々家屋建築スルモ殆ド道路及ヒ溝渠ノ附設ナク隨テ家ノ内外濕潤シ塵埃堆積汚水停滯スル等一般不潔ナルヲ目撃ス部内中央ノ東部ハ東七條ト云ヒ(柳原トモ云フ)自然ノ區劃ヲ呈シ面積廣カラサルモ人家稠密戸數二千餘人口八千七百餘部内ノ約五分ノ一ヲ有スル一大部落ニシテ生活普通ニ劣トリ居宅狭小井戸便所炊事場極メテ密接シ道路又々狹隘土地一般不潔ニシテ一種ノ臭氣ヲ放ツ等偶タマ踏査スルニ異様ノ感ヲ惹起セシム

溝渠ノ狀況

當部内ノ溝渠ハ大ナル者ハ高瀬川藍染川西洞院川ニシテ場所ニ依リ申一定セサルモ狭キハ一間半廣キハ四五間水深又タ一定セス泥土塵埃ニ障碍セラレ僅カノ流レヲ爲スモアリ又タ流水蕩々タル所モアリテ何レモ北方ヨリ部内ニ入り縦横ニ支流ヲ爲シ西ノ洞院ノ鹽小路ニ至ルト藍染川ノ七條驛附近其ノ他一部ハ暗渠ニシテ他ハ開放セル疏通不完全ナル濁水塵芥ト共ニ堆積セラレ支流ノ如キハ殊ニ甚シク臭氣臭ヲ突キ一朝降雨ニ際シ忽チ汎濫シ道路及ヒ家内ニ浸水セラル、場所多クアリテ(別圖參照)藍染川高瀬川ノ支流一般市内ノ汚穢セル悪水ノ廢除溝ト看做スモ過言ニ非サルヲ信ス

飲料水ノ狀況

當部内ノ飲料水ハ上水井水及上水井水併用ノ三種ニシテ別表ノ如ク部内一万七百餘戸ニ對シ上水専用者少ク井水使用者比較的多ク隨テ患者發生數モ上水使用者ノ約二倍ニ近キ數ヲ井水専用者ニ出シ併用水使用者ハ全戸ノ六分ノ一餘ニシテ井戸ノ完全ナル造構少ク多クハ井戸壁ノ破潰流シ場ノ破損スル等又タ甚シキハ水路ノ附設ナク汚水停滞臭氣芬々周圍ノ汚水地下ニ浸入シ溝渠ノ不完全ト共ニ地下一般汚穢セラレ井水ニ滲透スルナラント想像セラレ寒心ニ絶ニス反テチフス患者發生數ノ尙饒多ナラサルヲ疑ハシム

便所ノ狀況

便所ハ總テ汲取便所ナルモ一般汲取口ノ不完全或ハ破潰セラレ、アリテ附近屎尿ニ汚サレ裏長屋ノ如キ

ハ専ラ共用ニシテ不潔極リ上圍家人ニ對スル手洗ヒ裝置ハアルモ形式的ニシテ水渴シ或ハ汚染スル等殆ド使用ニ適セス偶タマ病毒アリトスレバ周圍ノ關係上ヨリ自然ニ病毒ノ散亂セシムル感ヲ起サシム七條驛ノ公衆便所ハ汲取ニシテ小便ハ水漕裝置汚濁ヲ經テ藍染川ニ放流セラル汚濁内ハ時々藥液消毒ヲ施スト云フモ其ノ實行如何ヲ疑ハシム

野菜洗場

野菜洗場ハ東九條部内ニ十三ヶ所東七條部内ニ三ヶ所都合別圖ノ如ク十六ヶ所在リテ東九條ノ十二ヶ所ハ藍染川支流他ノ四ヶ所ハ高瀬川支流ヲ利用シ何レモ直接露天濁水ニテ洗濯シ又タ雨露ヲ凌ク假屋根ヲ設ケ流水ヲ關止メ濁水ニテ洗滌スル等一般完全ナル裝置ノ在ルヲ認メス圖中十一十二號即チ御靈町烏井口町ノ二ヶ所ハ井戸ヲ穿チ電動機ヲ備ヘ動力ニテ水ヲ揚ケ排水路ヲ設ケ稍ヤ完全ナルヲ示ス

患者發生

當部内ノチフス患者ノ一般多キハ種々ナル理由ヲ存スルモ専ラ下水ノ不完全屎尿處置ノ當ヲ得サルト病菌ノ物質ニ潛伏シ自然保菌者ノ潜在ヲ疑ハシムルト職業上清潔ヲ缺キ多キハ中等以下ノ生活ニシテ防疫思想ニ乏シク直接間接又タ交通上關係ニ依リ傳播セシメ其ノ根ヲ斷タサル者ト想像セラレ部内ハ前述ノ如ク咽喉ノ地ニシテ又多數ノ旅客ヲ扱ヒ病毒搬入ヲ疑ハシムルモ曾テ是レ等ニ關シ發生ヲ見サル所ニシテ全ク旅客ノ滞在ハ平均二日乃至三日ノ短時日ナルト多數ハ田野生活ノ強健ナル抵抗力ノ強キ旅客ナル爲メ乎團體客等ニ關スル地方的患者ノ搬入發生セシムルヲ認メス

部内發生ニ一家二名以上發生セシハ大正十一年ハ十一月十二年ハ五月十三年九月其ノ他ハ散在性ニシテ著シク一地方ニ偏セシ場所ナキモ東九條御靈町札ノ辻ノ附近ハ類年比較的多數ノ發生ヲ見ルハ土地新開地ニシテ下水不完全一般濕地ナルト人家ノ密接消毒不完全ノ疑(偶々發生ノ際)衛生思想ノ乏キ等ニ因ルト共ニ交通家族傳染其ノ數ヲ多カラシメ病毒根絶セサル者ニシテ其ノ他部内一般ノ發生ニ對シテハ累年常ニ土地汚染セラレ居リ病菌ノ物品及ヒ地下等ニ潜伏シ或ハ保菌者中ヨリ出シ又タ間接直接傳播スル等ニ依ル散在的ニ發生スル者ナランカト想像セラレ

東七條部落ハ比較的消化器傳染病ノ發生少クチフス患者ハ大正十三年ハ別表ノ如キ數ヲ示シ同所ハ土地家屋不潔ニシテ生活下等ニ屬シ衛生思想乏ク一種別世界ノ觀ヲ爲スニモ拘ハラヌ患者ノ僅少ナルハ實ニ不思議ナルヲ感セシム、踏査スルニ同所ハ別表ノ如ク幼時ノ死亡者多ク右ハ幼時罹病者ニ對シ看護ノ不行届ニ依リ天逝者ノ多キヲ出スカ又タ虛弱者ノ生産數多クシテ生活力ニ乏シク自然淘汰ニ依ルカ不明ニ屬スルモ幼死者ノ多キハ事實ニシテ是レニ反シテ成年以上ハ職業上勞力者多ク且ツ健康ニシテ抵抗力ニ富ミ衣食住ニ習慣シ常ニ病者モ僅少ナル者ノ如シ又同町ハ一般生物ノ食事ヲ嫌ヒ専ラ煮焚セシ食物ヲ常食トスル者多キ習慣ニシテ間食ニ至ルモ總テ一旦煮焚セシ者ヲ用ユト云フ要スルニ弱體ナル幼兒ハ天逝シ抵抗アル健康者ハ遺留シ又タ品質ノ如何ハ論セス嗜好食ハ専ラ煮焚スル等自然衛生ニ適スルノ點アリテ爲メニ其ノ數ノ多カラサルヲ想像セシム

七條署部内職業ノ大畧數

團體詰所	旅人宿	飲食店	古物商	人力車夫	仲仕業	車馬挽	娼	妓
三六 _日	一七九 _日	三五〇 _日	五四六 _日	四〇三 _日	一六八 _日	四〇〇 _日	一、一二五 _日	

發生患者觀察例ノ概畧

一月十六日發生	一月二十三日診斷	間ノ町珠數屋町下ル	辰〇ノ長男	矢〇〇〇〇	二九
三月十二日發生	四月二十五日診斷	七條間ノ町東	友〇〇ノ父	矢〇〇〇〇	五七
同	同	同	友〇〇ノ母	矢〇〇〇〇	五二
同	同	東九條上殿田町	友〇〇ノ妻	矢〇〇〇〇	二二

右ハ一家四名ノ發生ニシテ友〇〇ハ大阪ニテ感冒ニ罹リ次テ發病セシト云フモ交通關係ニテ友人高〇〇〇〇〇罹病中接近セシニ依リ傳染セシ者ニシテ他ノ三人ハ妻ミ〇〇ノ友〇〇ヲ看護セシニ因シ辰〇フ〇ニ傳染發病セシメ三人ノ發生届出同日ナルモ實際ハ辰藏ノ三月十二日發病セシ等數日ニ逆リ前後シテ何レモ發病セル家族傳染ナル者ナリ同家ハ裏家ノ倉庫ヲ修繕セシ平家ニシテ天井低ク床又タ低ク室内採光ニ乏シク不完全ノ溝渠ニ接近シ家ノ内外濕地ニシテ井水使用シ便所臺所廻リ一般不潔ナルヲ認ム友〇〇〇〇ノ發生地異ナルハ發病後外聞ヲ恐レ届出ノ際何レモ親族ニ寄寓シ手續キ爲セシニ依ル

一月十四日發生	一月二十四日診斷	花屋町新町西	兎〇ノ母	中〇〇〇〇	四〇
一月二十五日發生	二月二日診斷	同	マ〇〇ノ實子	中〇〇〇〇	二一
二月十三日發生	二月二十五日診斷	同	マ〇〇ノ實子	中〇〇〇〇	一六

右一家三名ノ發生ニシテ當家ハ寺院ノ裏借家四戸接近セシニ帖ニ六帖ノ二室ニ居住シ周圍ハ濕地ニシテ土管ノ敷設セル下水道アルモ泥土ノ爲メ填塞シ塵芥推積井戸壁破潰シ炊事場ハ屋外ノ軒下ニ在リテ便所ニ接近スル等總テ不潔ナルヲ目撃ス「マ〇〇」ハ常ニ汚染物洗濯ニ雇ハレシト云フ或ハ夫レ等ヨリ病毒ニ襲ハレ感染セシ者ト想像セラル同人發病後十餘日ニシテ見〇發病シ其後半月ニシテト〇〇又タ發生スル等病毒遺留家族傳染ノ著明ナル者トス

一月十五日發生	二月五日診斷	東九條上殿田町	モ〇ノ夫ノ母	稻	〇	〇	〇	〇	五八
一月二十一日發生	同	同	ナ〇ノ實子ノ	稻	〇	〇	〇	〇	三三

右ハ一家二名發生ニシテ當家ハ新開地ノ道路溝渠ノ設備ナキ長家ニシテ二帖ト四帖ノ二室ニ僅カノ炊事庭ヲ有スル隘屋ニシテ井戸便所共用附近ハ塵埃堆積土地濕潤周圍一般不潔ナルヲ認ム「ナ〇」ハ感冒ノ元ニ二十日間自宅療養シ終ニチフスト決定其ノ間専ラ嫁モ〇看護ニ當リ終ニモ〇ニ傳染セシ者ナリ

五月八日發生	五月十三日診斷	木津屋橋新町西	マ〇〇ノ實子	益	〇	ス	〇	〇	一一
六月二十九日發生	七月七日診斷	同	ス〇〇ノ母	益	〇	マ	〇	〇	二七

右一家二名發生ニシテ當家ハ表家ナルモ室内構造悪ク表庭ハ廣ク住室狭ク天井床共ニ低ク換氣採光不良ニシテ大雨ニ際シ床下ニ浸水スル憂アリテ常ニ排水不良汚水停滯シ自然濕氣ニ富ミ便所水道専用ナルモ周圍不潔ナルヲ目撃ス「ス〇〇」ハ學校ニテ感染セシト云フモ系統不明ニシテ同人入院中母マ〇〇附添ヒ看護ニ從事シ終ニマ〇〇ニ感染發病セシ者ナリ

五月二十八日發生	五月三十一日診斷	東九條御靈町	醫師某ノ雇人	北	〇	〇	〇	〇	一四
五月三十日發生	六月十三日診斷	同	醫師某ノ妻	富	〇	〇	〇	〇	二七

右一家二名發生ニシテ病家ハ表家ノ醫家ニシテ各室換氣採光稍ヤ善良ナルモ便所臺所廻リ不潔ニシテ塵埃堆積土管ヲ以テ水利ヲ求ムルモ新開地ニシテ降雨ニ際シ流水汎濫シ周圍濕潤容易ニ乾燥スルニ至ラス上水ノ附設アルモ井水使用スル者ニシテ患者小〇ハ常ニ井水飲用セシト云フ或ハ夫レニ依リ附近ノ病者汚物洗滌水ノ井水ニ混シ傳播セシメシ者ト想像セラル同人發病後主家ノ妻芳子約一ヶ月後ニ發病セシハ病菌ノ遺留感染セシ者ト想像ス

六月十七日發生	六月二十五日診斷	東九條烏丸町	サ〇ノ姪	木	〇	マ	〇	〇	一六
六月十八日發生	七月八日診斷	同	マ〇〇ノ叔母	上	〇	サ	〇	〇	六八

右一家二名ノ發生ニシテ當家ハ専ラ野菜栽培スル農家ニシテ家宅ハ高地ニシテ稍ヤ擴大ノ庭園ヲ有シ相當ニ室内ノ換氣採光善良ノ方ニシテ内庭ハコンクリニテ成リ下水路ハ暗渠ニシテ水利能ク井戸便所専用ニシテ一般狹隘ナラス患者系統ハ先キニ木津橋ノ魚商木〇〇〇方ニ三名ノチフス患者發生シ親族ナルヲ以テ數日間サ〇看護ニ從事シ感染ノ上歸宅シ「マ〇〇」ニ感染セシメタル者ニシテ發病届出ハ兩名殆ド同一ナルモ事實サ〇ノ發病ハ數日前ニシテ自宅療養後更ニマ〇〇發病セシ者ナリテ全ク接觸家族傳染ナルコト明カナリ

二月二十六日發生	七月四日診斷	東九條石田町	トノノ夫	梅〇佐〇〇	三一
六月三十日發生	七月十二日診斷	同	佐〇〇ノ妻	梅〇ト〇	二六

右一家二名發生ニシテ當家ハ表家ナルモ裏ハ不潔ナル五戸ノ長屋ニ接近シ井戸便所各一個ヲ數戸ニテ共用シ流シ場又共用ニシテ下水路不完全ノ爲メ汚水停滞シ接近セル便所附近汚物ト共ニ常ニ濕潤シ居室狹隘換氣採用不良ナリ系統不明ナルモ佐〇〇ノ發病後數日間自宅療養中妻ト〇發病セシハ看護等ニ依ル接觸傳染ナル者トス

十月二十七日發生	十一月五日診斷	東九條上ノ町	嘉〇ノ妻	大〇イ〇〇	二二
十月二十八日發生	十一月十一日診斷	同	イ〇〇ノ夫	大〇嘉〇	二六

右一家二名發生ニシテ當家ハ高瀬川ノ西岸ニ添テ表家ニシテ東南ニ大ナル倉庫狀ノ納屋ニ掩ハレ室内薄暗ク換氣採光善良ナラス營業上「ボロ」包古着空瓶等ノ廢棄物畜積シ水路ハ稍ヤ完全ナルモ便所流シ場不潔ナリ當店員駒井橋三ナル者郷里ヨリ發病ノ儘當家ニ滞在シ終ニ歸郷ノ上チフスト決定セリ數日ヲ經テイ〇〇及嘉〇發病セシヲ以テ橋三ニ因ル家族傳染ナル者ト認ム

十一月二十九日發生	十二月九日診斷	佛具屋町七條上ル	テ〇ノ夫	井〇〇	澄	五八
十一月三十日發生	同	同	澄ノ妻	今〇テ	〇	三五

右一家二名ノ發生ニシテ當家ハ接近セル六軒ノ裏長屋ノ一ニシテ二帖ト四帖半ノ二室ニ六人居住シ井戸便所各一個ヲ共用シ不潔ナル下水路戸前ニ貫通シ流シ場便所附近塵埃堆積不潔ニシテ當家ノ患者發生前

同長屋ノ久〇〇〇「チフス」ニ罹リ次テ澄ノ長女ハ〇肋膜炎ノ診斷ノ基ニ高熱ニテ三十餘日間就寢シ次テ澄及テ〇ノ發病ヲ見ルニ至ル右ハ〇モチフス患者ナリシコトヲ疑ハシムルト共ニ家族傳染ノ著明ナル者トス

七條部内最近三ケ年間に於ケル人口ニ對スルチフス患者數

年	次	人	口	患者	數	人口千ニ對スル患者數
大正十一年			四五、一七五		一〇四	二、三〇二
大正十二年			四七、二七九		一〇七	二、二六三
大正十三年			四七、五四一		一三四	二、八一九

七條部内最近三ケ年間に於ケルチフス患者ニ對スル死亡數

年	次	患者	數	死亡	數	患者百ニ對スル死亡數
大正十一年			一〇四		二〇	一九、三三
大正十二年			一〇七		二〇	一八、六九
大正十三年			一三四		二四	一七、九一

七條部内大正十三年中發生セシチフス患者ノ戸數ニ對スル
使用セシ飲料水別

使用水別	使用別戸數	患者數	患者總數ニ對スル百分比
井上水	三八八三	三八	二八、三六
井水	四九八八	六七	五〇、〇〇
井水併計	一九〇二	二九	二一、六四
			一〇〇、〇〇

七條部内大正十三年中チフス患者ノ使用セシ飲料水別

使用水別	患者數	患者總數ニ對スル百分比
井上水	三八	二八、三六
井水	六七	五〇、〇〇
井水併計	二九	二一、六四
		一〇〇、〇〇

七條部内大正十二年ノ發生セシチフス患者ノ戸數ニ對スル使用セシ飲料水別

使用水別	使用別戸數	患者數	患者總數ニ對スル百分比
井上水	三、七一八	三五	九、四一
井水	四、九八二	五二	一〇、四四
井水併計	一、八八二	二〇	一〇、六三

七條部内最近三ケ年ノ年末戸數人口患者及死亡數

年次	戸數	人口	患者數	死亡數
大正十一年	一〇、一四五	四五、一七五	一〇四	二〇
大正十二年	一〇、五八二	四七、二七九	一〇七	二〇
大正十三年	一〇、七七三	四七、五四一	一三四	一四

以上患者及死亡數ハ關係ノ患者死亡トモ含有ス

腸チフス患者最近三ケ年ノ職業別(大正九年内閣訓令第一號職業分類表ニ依ル)

職業別	大正十一年	大正十二年	大正十三年
農耕畜産蠶業	五	四	一
窯業			
金屬工業	二	二	一
機械器具製造業	三	一	
織維工業	五	五	
紙皮革骨角羽毛類製造業	三	三	
木竹類ニ關スル製造業	四	五	

飲食料品嗜好品製造業
 被服身ノ廻リ品製造業
 土木建築業
 製版印刷製本業
 學藝娛樂裝飾品製造業
 物品販賣業
 金融保險業
 旅宿、飲食店、浴場業等
 通信交通運輸業
 官吏公吏雇傭
 宗教ニ關スル業
 醫務ニ關スル業
 藝術家、其ノ他自由業
 其他有業者日傭家事使用人
 無職準世帯ニ在ル學生生徒等ヲ含ム

一九	五	二	三	五	三	三	二	二	二	四
一	四	四	一	四	二	二	四	三	四	三
一	四	四	一	四	二	二	四	三	四	三
二	五	四	八	〇	四	六	九	四	七	三

七條部内大正十三年中總死亡及チフス患者數

戸數	人口	總死亡數	チフス患者數	人口百ニ對スル患者數	人口百ニ對スル死亡數
一〇、七七三	四七、五四一	一、〇一一	一三四	〇、二八二	二、二二七

部内東七條部落大正十三年中總死亡及チフス患者數

戸數	人口	總死亡數	チフス患者數	人口百ニ對スル患者數	人口百ニ對スル死亡數
二、〇一五	八、七八六	二四八	五	〇、〇五七	二、八二三

京都市ノ一ケ年間ニ於ケル總死亡數ニ對ス十一歳未満ノ死亡數

總死亡數	十一歳未満ノ死亡數	總死亡者ニ對スル十一歳未満者ノ死亡數
一四、一四二	五、六九八	四〇、二九一

七條部内ノ東七條ノ一ケ年間ニ於ケル總死亡數ニ對ス十一歳未満ノ死亡數

總死亡數	十一歳未満ノ死亡數	總死亡ニ對スル十一歳未満者ノ死亡數
二四八	一四六	五八、八七一

緊急ヲ要スル防疫措置

溝渠ノ浚渫新開地ノ附設ナキ下水路附設スル事
 井戸及流シ場ノ破潰場所修繕スル事

同	六月	同	廿二日	九月	十二月	十五日	友	仙	御靈町	濱	〇	七	六	井	水
同	十七日	同	廿三日	同	二日	四十二日	印	刷	上ノ口下寺町兩	家	〇	二二	二	上井併用	水
同	二十日	同	廿七日	十月	十日	七十六日	青	物	御靈町	小	〇	二〇	二	井	水
同	廿二日	八月	三日	八月	八日	死六	日宿	屋	東洞院七條下ル	藤	〇	四四	七	上	水
同	廿六日	同	七日	同	十七日	死十一	日塗	師	三ノ宮正面下ル	宮	〇	二一	一	井	水
同	八月	八月	九日	九月	十四日	死一	日瓦	職	加茂川七條	畑	〇	一五	五	井	水
同	三日	八月	十五日	九月	廿二日	廿九日	尼	僧	東洞院七條下ル	阪	〇	二四	三	井	水
同	十七日	同	廿五日	同	廿五日	死廿二	日菓	子	東七條小稻荷町	西	〇	五八	三	井	水
同	十六日	九月	四日	同	廿六日	廿三日	友	仙	東九條字賀邊町	林	〇	三二	八	上井併用	水
同	二十日	同	七日	十月	廿一日	四十六日	通	勤	東九條御靈町	中	〇	一六	四	上	水
同	廿八日	同	八日	同	十四日	廿七日	職	工	東七條西ノ町	福	〇	一九	五	井	水
同	九月	十三日	同	廿六日	十一月	一日	同	物	東九條御靈町	宮	〇	五三	三	上井併用	水
同	十六日	同	同	同	同	同	玩	具	佛具屋町御前下ル	江	〇	三四	三	井	水
同	二十日	同	三十日	十月	十八日	十九日	宿	屋	中珠數東洞院角	島	〇	一七	七	上井併用	水
同	八月	同	十一月	十一月	十八日	四十九日	短	冊	土手町正面上ル	松	〇	一五	四	上	水
同	十一月	十一月	七日	同	十四日	廿九日	菓	子	魚棚東洞院西	藤	〇	三二	三	井	水
同	十月	三月	十日	同	廿九日	五十一日	料	理	魚棚東洞院西	竹	〇	一七	六	上井併用	水
同	九月	廿七日	同	十二月	五日	五十五日	金	摩	烏丸七條下ル	山	〇	三七	二	井	水
同	十月	五月	同	十二月	五日	五十一日	大	工	鍵屋町新町東	石	〇	三三	二	上井併用	水

九月	廿五日	同	十七日	同	廿七日	卅六日	土	商	佛具屋町御前上ル	柴	〇	五〇	四	井	水
十月	十四日	同	廿四日	同	九日	四十九日	酒	商	札ノ辻町	讚	〇	二五	二	上	水
同	十三日	同	廿三日	同	十九日	六十二日	學	生	問之町中珠數上	村	〇	二一	五	上井併用	水
同	十八日	同	廿八日	同	廿八日	六十四日	消	防	佛具屋町御前上ル	東	〇	一一	三	井	水
同	十九日	同	廿九日	同	廿一日	廿四日	印	刷	西高正而下ル	富	〇	二〇	二	上	水
同	二十日	同	三十日	十二月	十二日	四十四日	玩	具	魚棚東洞院西	石	〇	二九	四	井	水
同	廿三日	十一月	二日	同	九日	卅八日	豆	席	万年寺高倉東	高	〇	一一	四	上	水
同	廿七日	同	五日	同	五日	卅一日	運	送	東七條上ノ町	大	〇	二二	五	井	水
同	三十日	同	七日	同	廿三日	四十七日	貸	座	西高瀨川五條	安	〇	一一	七	上	水
同	十一月	三日	同	九日	七月	廿四日	死	十六日	糸	木	〇	二五	三	井	水
同	十月	廿八日	同	十一日	十二月	五日	廿五日	運	送	藤	〇	四二	二	井	水
同	十一月	七日	同	十四日	同	十九日	卅六日	大	工	大	〇	二六	二	上	水
同	十八日	同	廿五日	同	十二月	廿六日	手	傳	的場東洞院西	野	〇	二二	二	上	水
同	廿七日	十二月	四日	十四年	一月	六日	卅四日	按	摩	福	〇	三九	一	井	水
同	廿五日	同	五日	十二月	十九日	十五日	吳	服	下珠數不明門東	杉	〇	三二	八	上井併用	水
同	一日	同	八日	十四年	一月	十三日	卅二日	看	護	柳	〇	二二	一〇	井上併用	水
同	廿九日	同	九日	同	八月	卅一日	手	傳	佛具屋町魚棚上ル	今	〇	一九	六	井	水
同	三十日	同	十二月	卅一日	廿三日	同	同	同	佛具屋町七條上ル	今	〇	三五	四	井	水

十二月四日	同日	十三日	一月三十日	廿八日	塗師	新町御前下ル	山	〇〇〇〇	二五	一〇井上併用
同	同	十三日	同日	廿七日	友仙	佛具屋町七條上ル	窪	〇〇〇〇	二七	二井水
同	同	二十日	同	廿六日	牛糞商	五條寺町西	西	〇〇〇〇	一五	七井上併用
同	同	同	同	廿八日	宿屋	不明門七條上ル	都	〇〇〇〇	四七	八井上併用
同	同	廿五日	同	卅一日	併優	間ノ町七條下ル	杉	〇〇〇〇	二四	三井水
同	同	同	同	同	西洋料理人	魚淵烏丸西	柔	〇〇〇〇	三三	三上水

大正十三年中關係腸チフス患者表

大正十三年	發生日	診斷日	轉歸日	治療日數	職業	住	所	氏	名	年	齡	家	族	數	飲	料	水	別
一月七日	一月十七日	三月七日	四月十一日	四十一日	貸座敷	七條新地平居町	高	〇〇〇〇	五七	九井上併用								
同	十二日	廿九日	二月廿六日	二十九日	服	新町魚棚下ル	田	〇〇〇〇	三六	一〇上水								
同	十九日	二月十日	三月一日	廿一日	ホソ	的場烏丸東	高	〇〇〇〇	三五	五上水								
同	同	同	同	十日	同	同	高	〇〇〇〇	二五	五上水								
二月一日	同	十六日	二月廿四日	死九日	無	東洞院中珠敷上ル	林	〇〇〇〇	一六	一四井水								
同	七日	廿七日	三月十四日	十七日	勤	本願寺通	細	〇〇〇〇	四四	一上水								
同	十五日	三月二日	五月廿六日	八十六日	無	間ノ町五條下ル	可	〇〇〇〇	四七	八上井併用								
三月五日	同	二十日	六月十五日	八十七日	吳服	不明門七條上ル	三	〇〇〇〇	三三	一井水								

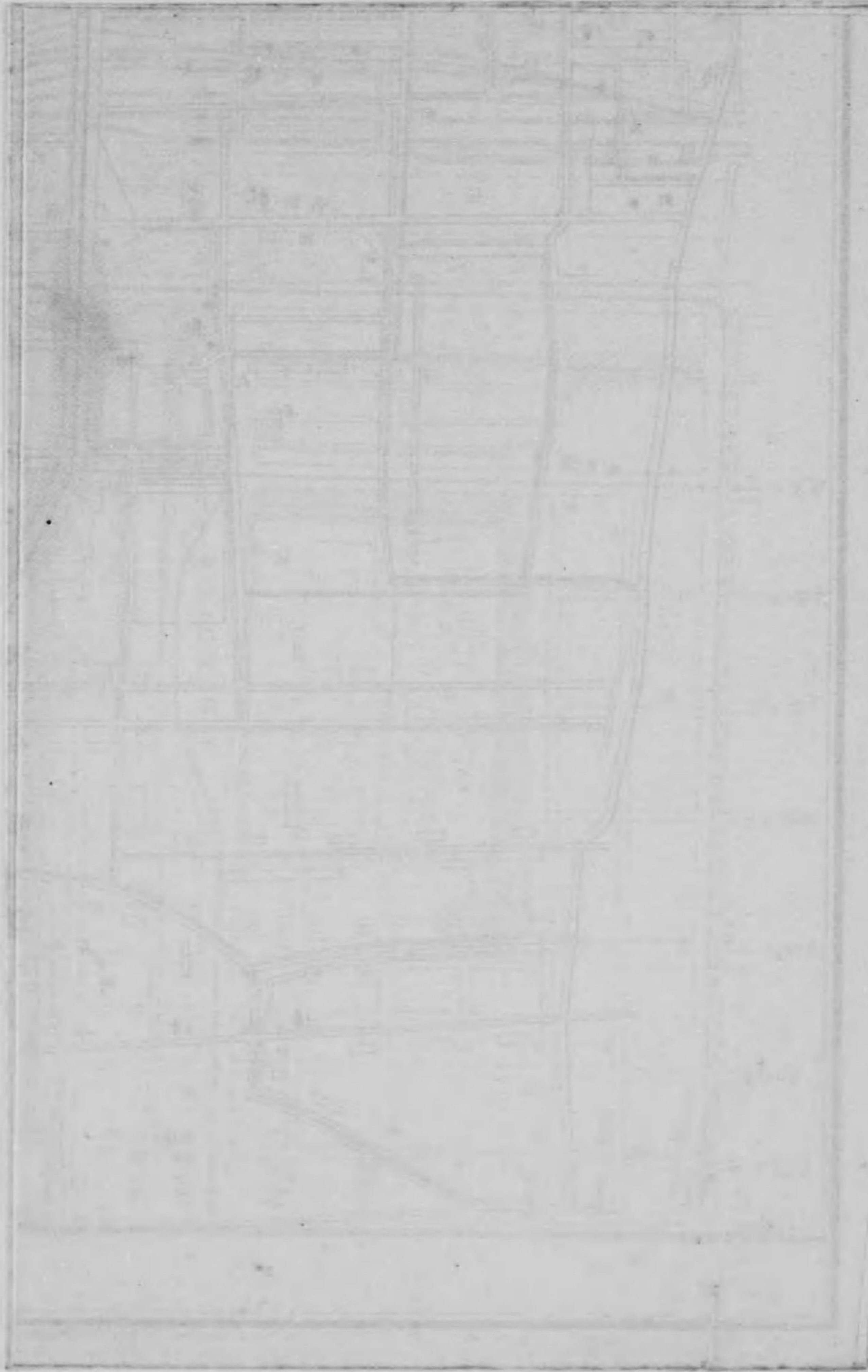
三月廿三日	四月五日	四月廿五日	廿一日	同日	五條高倉東	尾	〇〇〇〇	一四	八井水	
四月二十日	五月九日	五月三十日	廿二日	貸座敷	七條新地	白	〇〇〇〇	二八	六上水	
五月二十日	六月三日	六月十九日	十七日	學	七條間ノ町東	阿	〇〇〇〇	二〇	三上水	
同	三十日	十三日	死一日	日醫	東九條御靈町	富	〇〇〇〇	二七	五上水	
六月十九日	同	廿五日	八月二日	卅七日	雜貨	東洞院七條下ル	苑	〇〇〇〇	四七	五上水
七月三十日	八月十二日	治療中	同	仕立	間ノ町萬年寺下ル	湯	〇〇〇〇	四六	六上井併用	
八月十七日	同	三十日	同	無	七條間ノ町下ル	井	〇〇〇〇	一五	五井水	
九月八日	九月十八日	十月九日	卅一日	吳服	新町花屋町下ル	原	〇〇〇〇	二二	三上水	
同	十日	廿四日	同	三十日	卅七日	印刷工	疊	〇〇〇〇	二八	三上水
同	三十日	十月七日	十二月十四日	六十九日	會社員	東九條烏丸町	廣	〇〇〇〇	二〇	三上井併用
十月二日	同	十六日	十月廿九日	十四日	鼻緒	東七條東町	福	〇〇〇〇	四	井水
十二月八日	十二月廿六日	治療中	同	同	牧師	新寺町五條下	名	〇〇〇〇	三一	三上井併用

大正十四年腸チフス患者表

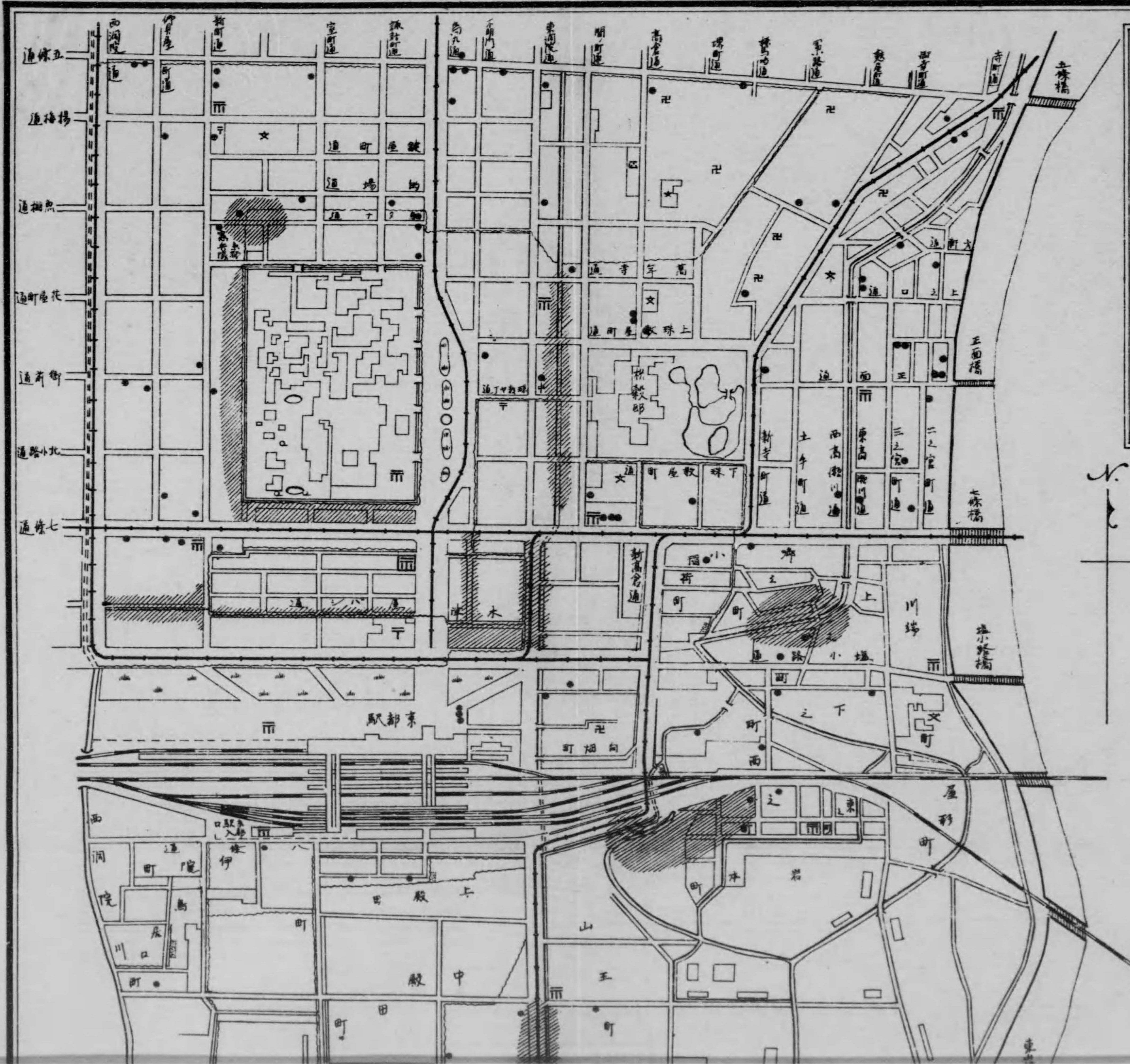
十三年	發生日	診斷日	轉歸日	治療日數	職業	住	所	氏	名	年	齡	家	族	數	飲	料	水	別
十二月廿日	十四年	一月六日	治療中	同	酒商	東九條札ノ辻町	辻	〇〇〇〇	二三	四井	水							

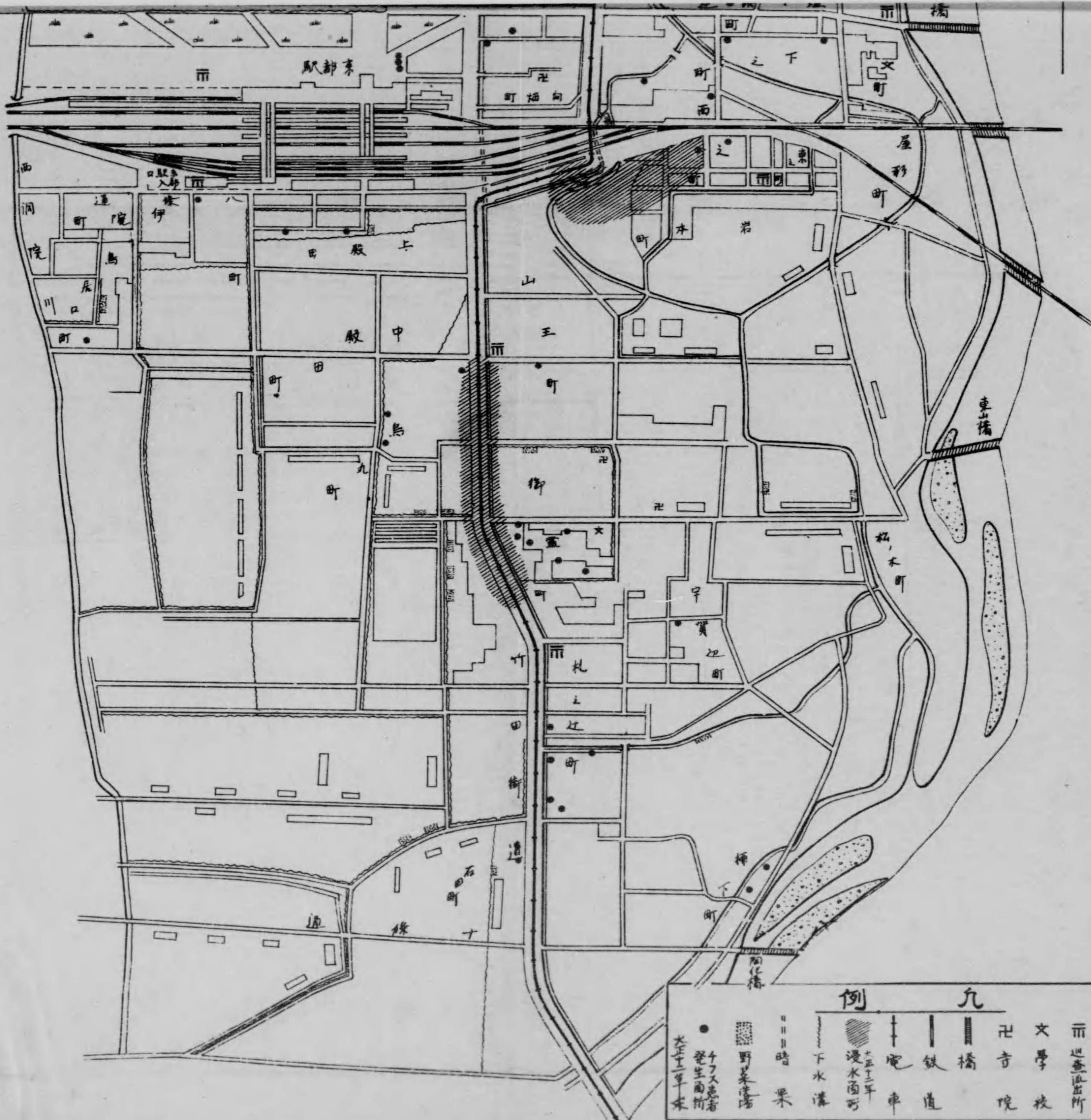
大正十四年關係腸チフス患者表

發生月日	診斷月日	轉歸月日	治療日數	職業	住	所	氏	名	年齡	家族數	飲料水別
十三年十二月廿七日	大正十四年一月九日	治	療	貸座敷	三ノ宮上ノ口上	原	〇	〇	一	八	井水
十四年一月十四日	同	同	同	生魚	東七條川端町	津	〇	〇	三	六	上水
一月二十日	同	同	同	竹材	東洞院五條下ル	長	〇	〇	二	五	上水
二月二日	二月八日	同	同	日稼	八條室町西	村	〇	〇	二	四	井水併用



七條警察署管内

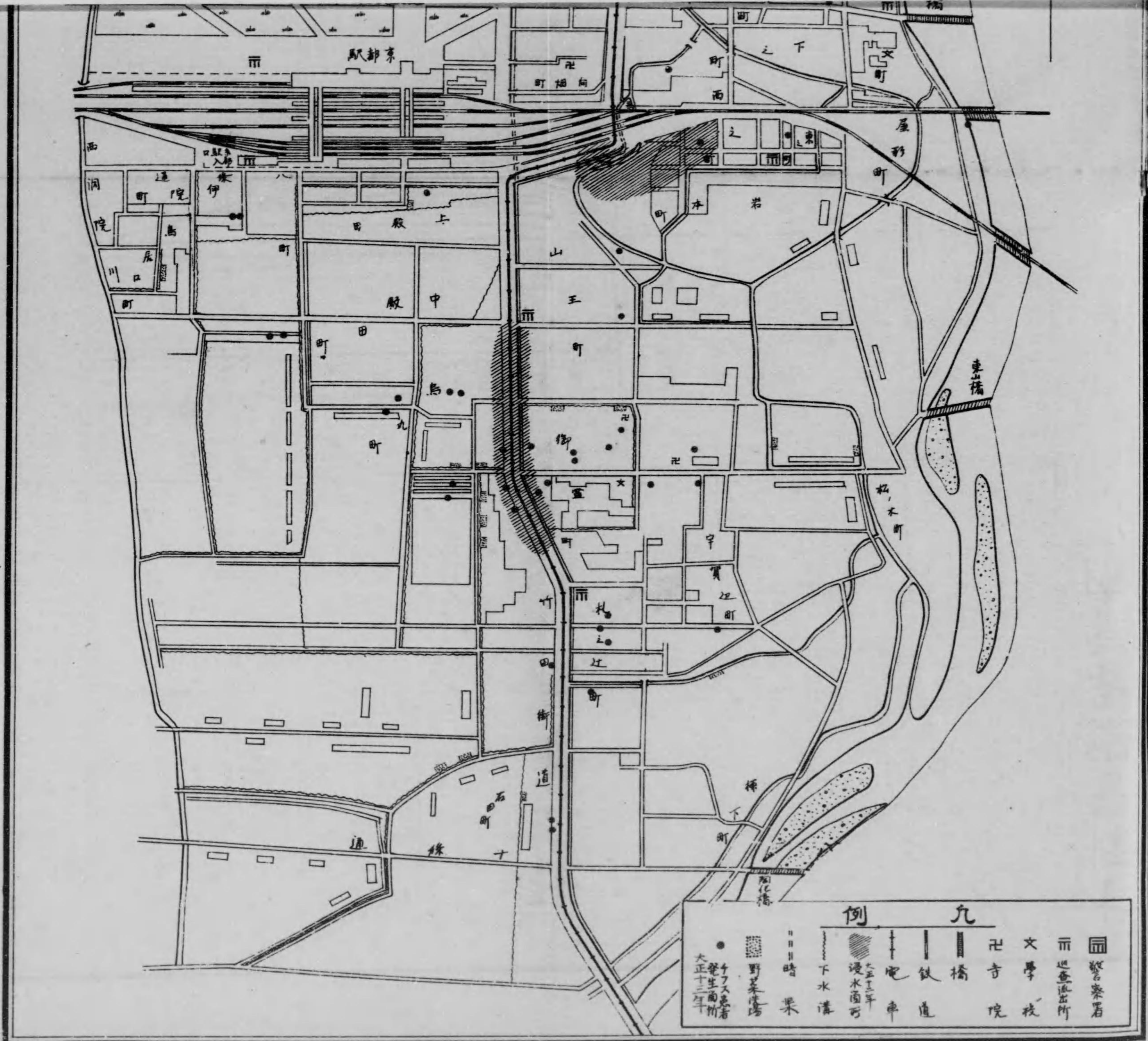




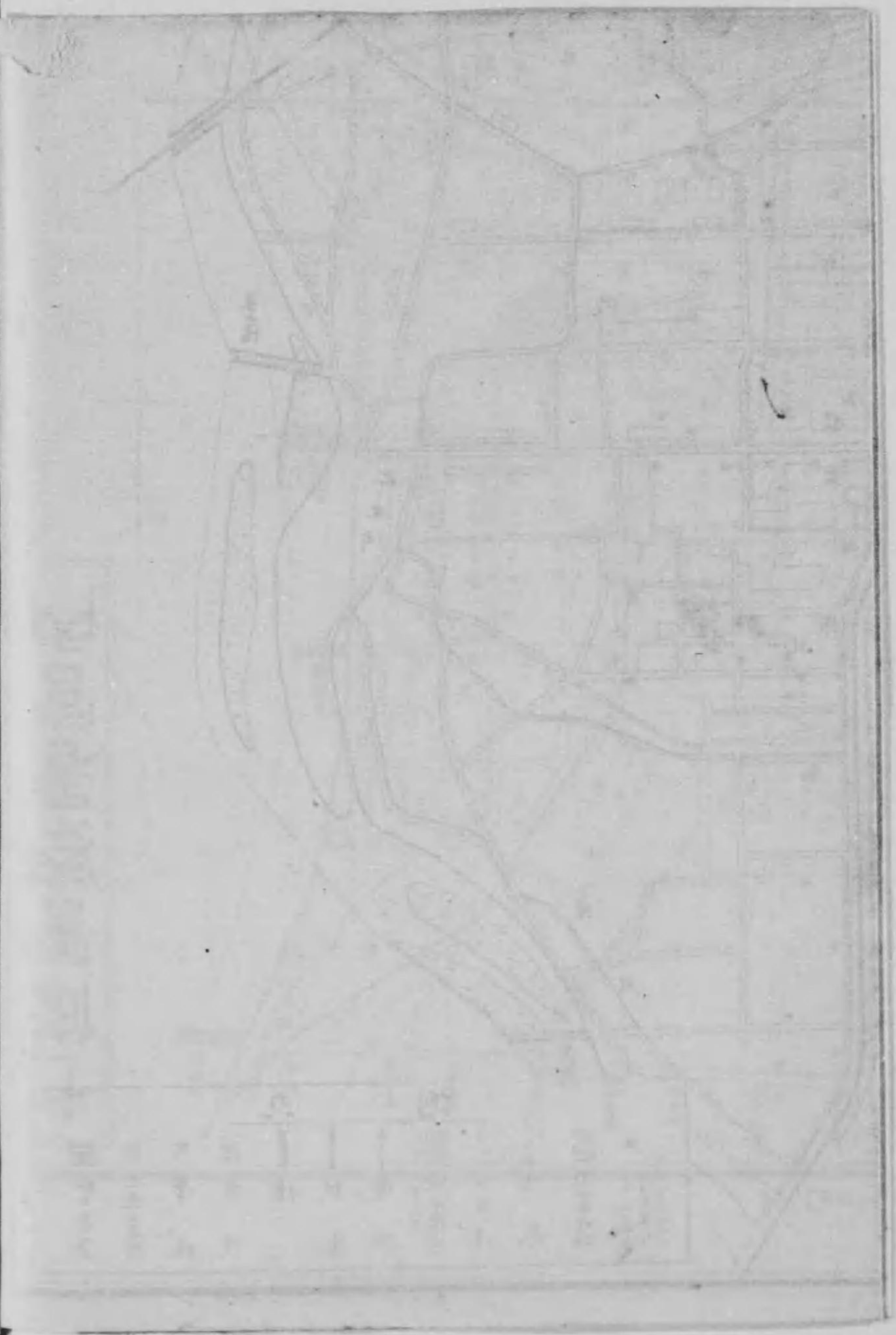
例 九

●	野菜湯		橋	寺	警察署
○	野菜湯		鐵道	文學校	巡査出所
○	野菜湯		電車		
○	野菜湯		下水溝		
○	野菜湯		漫水箇所		
○	野菜湯		果		

大正十一年末



例 九
 警察署
 巡査出所
 文學校
 寺院
 橋
 鐵道
 電車
 全工年
 浸水箇所
 下水溝
 時果
 野菜市場
 千代大急者
 學生園所
 大正十二年



○五條署管内

(大正十四年二月九日 調査者 蜂須賀防疫醫
京都府知事宛)

復命

左記

復命 患者若クハ保菌者ノ尿尿ニ依リ汚染セラレタル地底水ヲ介シテ本症ヲ惹起スルモノト認ム
理由

一、地勢

北ハ三條通りヲ以テ中立賣署管内ニ南ハ五條通りヲ以テ七條署管内ニ接壤シ東ハ鴨川ヲ隔テ、松原署管
内ニ西ハ西洞院線通りヲ以テ堀川署管内ニヨリ包圍セラレタル約十町四方ノ面積ヲ有スル方形ノ街衢ニ
シテ

戸數 一〇六九六戸

人口 五六九五〇人 (男 三〇三六二
女 二六五八八)

ナ有シ商賈多ク殊ニ銀行會社等宏大ナル建築物楡比シ所謂古代西京ノ核心ヲナスノ領域ニシテ今尙本市
商業ノ中心地帯タリサレバ世帯主ハ中産階級者以上ノ者多ク十人乃至三百人位ノ従業員ヲ使役ス此等被
使用人ハ他管區ヨリ通勤スル者ト住込ミノ者ノ二類アリテ一様ナラザルモ之レト商的取引人及ビ本市第

一ノ遊樂ノ殷賑地京極ノ存在ニ依リ内外ノ交通關係ハ最モ頻繁タルモノニシテ是等ノ人的交通ヲ介シテ病菌潛入ノ機會ハ他管區ニ比較シテ多大ナルモノト認ムルナリ

二、溝 渠

管内下水排出ノ使命ヲ有スル河川溝渠ハ概ネ街區ノ區劃ニ沿テ四通セルノ狀況ニシテ北ヨリ南ニ通スル稍々大ナル三四ノ溝渠ニ依リテ東西ノ小溝ヲ收容シ七條署管内ニ南流スルモノトス之レガ幹線ト認ムベキモノハ

(一) 西部幹線溝渠

西洞院通リヲ貫流スル暗渠ニシテ(四條通リ以南ニ於テ電車線路下ヲ通ズ)南流ス

(二) 中央部幹線溝渠

烏丸通リノ西側ヲ通スルモノ及ビ東洞院通リノ兩側ヲ通過スルモノ及寺町通リ東側ヲ南流スルモノ之レナリ

是等概ネ三―五尺ノ幅員ヲ有シ水面迄二尺位ノ距離ヲ有ス

(三) 東部幹線溝渠

高瀬川ハ溝渠ニ準ズベキモノニシテ沿線ノ人家ヨリ川壁ニ穿鑿セル排出口ニヨリ下水ヲ流注ス幅員一間半乃至二間ヲ有シ水深一尺水流稍々急速ニシテ丸太橋上流ニ於テ鴨川ニ分岐シ南流シテ伏見ニ至ルナリ尙ホ一ツハ鴨川西岸ノ下水ナリ此ハ鴨川西岸ニ沿ヒ南流スル小川ニシテ本管内ニ於テハ團栗以北ニ於テ約一間半ノ幅員ヲ有シ團栗松原間ニ於テ約二間半松原以南ニ於テ約一間半ノ幅員ヲ有シ水深一尺五寸流

速稍々急ナリ之レガ左岸一帶ノ人家ハ當小川ニ對シ下水排出口ヲ有シ専ラ下水ノ幹線ヲナスモノナリ前記高瀬川ト共ニ川底ハ雲泥狀ハ汚穢物ヲ以テ被ヒ塵埃布片、木竹、蔬菜ノ殘片等ノ流下スルヲ認ム殊ニ鴨川左岸下水ニ於テハ水色黑濁シ正午ヨリ三時間位一種ノ惡臭ヲ放散シ沿道市民ノ嫌氣スル所ナリト云フ(松原橋附近)此ハ上流荒神橋東岸ニ存スル京都織物會社ヨリ染料ニ使用セラル、色素混流スルニ因ルモノニシテ一日十五日ニ於ケル會社ノ休日ニ際シテハ嗅氣無ク水清澄ナリト云フ高瀬川ト共ニ川底ハ沿線家屋ノ井水底ヨリモ高位ニアルヲ以テ雨雪ノ候ニ際シ其粗造ナル岸壁ヲ滲透シテ井水ヲ濁濁セシメ時ニ惡臭ヲ帶ビ使用ニ堪ヘザルコトアリト云フ

以上南走スル幹線溝渠ナルモ之レニ流注スル東西ノ溝渠ハ底面ノ高低ニ從ヒ流向區々ニシテ同一街區ニ於テモ西流スルモノト東流スルモノトアリ(附表矢ヲ以テ流向ヲ示ス)即チ

西部ニ於テハ室町通以西ニ存スル東西溝渠ハ概ネ西洞院線暗渠ニ流入シ南行ス

室町通リ以東ノ烏丸間ノ東西溝渠ハ一部ハ室町通リ一部ハ烏丸西側溝ニ流注南下ス

東洞院線左右ノ溝渠ハ烏丸通東側ト柳馬場間ノ東西溝ヲ收容シ南下ス

柳馬場以東寺町以西間東西溝渠ハ其流向甚ダ不規則ニシテ西流スルアリ東流スルアリテ富小路、麩屋町御幸町通リヲ南下スル小ナル溝渠ニ流注スルモノ多シ

寺町通リ東側ヲ南下スルモノハ寺町河原町間ノ下水ヲ收容シテ松原通リニ於テ東折シテ高瀬川ニ流注ス高瀬川ハ西岸及東岸ノ一部ニ存在セル溝渠ヲ收容シテ南下ス

鴨川西岸分流ハ西岸一帶人家ノ下水ヲ收容ス

以上大體ニ於ケル溝渠ノ方向ヲ示シタルモノナルモ前記ノ如ク東西ニ流ル、溝渠ノ内ニハ所ニ依リ溝底

テ塗築セラレ西陣若ハ松原署管内ニ見タルガ如キ粗造ナルモノ少ク比較的堅牢ニシテ流水ノ注入ヲ防遏スルノ設備稍々完キヲ見ルト雖モ之ヲ以テ絶對ニ防止シ得ルコト不能ナルガ如ク雨雪ノ季ニ際シ幹線溝渠(河川モ含ム)附近ノ人家ニ於テハ井水ノ濁濁ヲ見ルヨリ推察スルトキハ注入ヲ認メ得ルノ状態ナリ水面ヲ窺フニ水量一般ニ微量ニシテ光線ノ射入良ナルモノ不良ナルモノ一樣ナラザレドモ釣瓶繩ヲ使用スル者殆ト全部ヲ占メ蓋蓋ヲ有スルモノ少クポンプ使用者ハ極メテ少シ殊ニ高瀬川沿岸ノ人家ニ於テハ構造稍々不良ニシテ川床井水面ヨリモ高位ニアルヲ以テ濁水混入シ使用ニ堪エザルコトアリト云フ上井使用者ニ就キ之レガ使用區分ヲ尋ヌルニ答フル所ハ異口同音ニ洗滌撒水等ニ使用スルノ外決シテ飲料ニハ供セザルノミナラズ炊飯、野菜洗滌ニモ使用セズ專ラ之等ニ對シテハ上水ヲ用フル旨答フル處ナルモ實際狀況ヲ按ズルニ喩ヒ小ナル井水ト雖モ之ヲ所持スル者ハ水味水温ノ嗜好ニ適スルノ關係上炊飯洗滌ハ勿論夏期暑熱ノ節ニ際シテハ飲料ニ供スル者サヘ存在スルコトハ偶々三四ノ家族ノ口ニスル處ニシテ恐ク廣キ範圍ニ於テ井水使用ノ者多キヲ推斷シテ誤ナキモノト信ズルナリ

五、野菜洗滌場、塵芥捨場、吸込

等ハ本區ガ市ノ中心點ニ位置スルノ關係上存在ヲ認メズ唯ダ高瀬川ノ沿線ニ於テ時ニ魚類商人ノ魚介類(イカノ如キモノ)ヲ洗フコトアリト云フニ過ギス
野菜類ハ多ク周圍管區ヨリ既ニ洗ヒ上ゲラレタルモノヲ搬入シ左記野菜物市場ニ於テ各所ニ散賣セラルルナリ

高倉 野菜市場
佛光寺 野菜市場

以上共ニ七條、九條、吉祥院、鳥羽、西院方面ヨリ産出セラレ當市場ニ搬入セラル、ナリ
塵芥ハ概ネ各戸前ニ塵捨箱ヲ有シ市吏員ニヨリテ搬出セラレツ、アリ
吸込ヲ見ズ

六、共同便所並ニ民衆便所

本區ハ市ノ中樞地帯ナル關係上周圍ヨリノ交通頻繁ナルヲ以テ共同便所ノ設置ケ所比較的の多キヲ認ム

- 一、綾小路通室町西へ入
- 二、佛具屋町通萬壽寺下
- 三、木屋町五條上ル
- 四、蛸薬師室町西入
- 五、不明門通松原下
- 六、御幸町通松原下
- 七、錦小路東洞院東入
- 八、新京極六角東入
- 九、裏寺町蛸薬師下
- 十、佛光寺寺町東入
- 十一、蛸薬師通新京極
- 十二、富小路三條下ル